一四	一一	六、三五〇、五〇〇	二九三、一〇〇	三一七、五二五	六一〇、六二五
一五	一二	六、〇五七、四〇〇	二九三、一〇〇	三〇二、八七〇	五九五、九七〇
一六	一三	五、七六四、三〇〇	二九三、一〇〇	二八八、二一五	五八一、三一五
一七	一四	五、四七一、二〇〇	二九三、一〇〇	二七三、五六〇	五六六、六六〇
一八	一五	五、一七八、一〇〇	二九三、一〇〇	二五八、九〇五	五五二、〇〇五
一九	一六	四、八八五、〇〇〇	二九三、一〇〇	二四四、二五〇	五三七、三五〇
二〇	一七	四、五九一、九〇〇	二九三、一〇〇	二三九、五九五	五二二、六九五
二一	一八	四、二九八、八〇〇	二九三、一〇〇	二一四、九四〇	五〇八、〇四〇
二二	一九	四、〇〇五、七〇〇	二九三、一〇〇	二〇〇、二八五	四九三、三八五
二三	二〇	三、七一二、六〇〇	二九三、一〇〇	一八五、六三〇	四七八、七三〇
二四	二一	三、四一九、五〇〇	二九三、一〇〇	一七〇、九七五	四六四、〇七五
二五	二二	三、一二六、四〇〇	二九三、一〇〇	一五六、三二〇	四四九、四二〇
二六	二三	二、八三三、三〇〇	二九三、一〇〇	一四一、六六五	四三四、七六五
二七	二四	二、五四〇、二〇〇	二九三、一〇〇	一二七、〇一〇	四二〇、一一〇
二八	二五	二、二四七、一〇〇	二九三、一〇〇	一一二、三五五	四〇五、四五五
二九	二六	一、九五四、〇〇〇	二九三、一〇〇	九七、七〇〇	三九〇、八〇〇
三〇	二七	一、六六〇、九〇〇	二九三、一〇〇	八三、〇四五	三七六、一四五
三一	二八	一、三六七、八〇〇	二九三、一〇〇	六八、三九〇	三六一、四九〇
三二	二九	一、〇七四、七〇〇	二九三、一〇〇	五三、七三五	三四六、八三五
三三	三〇	七八一、六〇〇	二九三、一〇〇	三九、〇八〇	三三二、一八〇
三四	三一	四八八、五〇〇	四八八、五〇〇	二四、四二五	五一二、九二五
計		七、八一六、〇〇〇	八、五〇二、五三五	一六、三一八、五三五	

備考

一、本表ハ圓位未滿ノ數ハ切捨トス

英貨八十萬磅公債發行條件

一、本公債證書ハ金額八十萬ポンド公債ノ一部ニ屬ス公債證書ノ種類ハ五百ポンド、百ポンド、二十ポンドニシテ何レモ皆仕拂請求權ニ關シテハ平等ノ資格ヲ有ス

二、本證書附屬ノ利札ハ枚數六十七枚ニシテ毎半期ノ利子ヲ仕拂フモノトス但シ其利子ノ仕拂ハ本證書附屬ノ利札ヲ提供交付スル場合ニ限ルモノトス

三、本證書ノ元金ヲ千九百四十三年（大正三十三年）三月三十一日以前ニ償還スル場合ニ於テ元利金仕拂請求ノ爲メ本證書ヲ提出スルモノハ其時以後ニ仕拂フヘキ利札ト共ニ提出スヘキモノトス若シ未タ仕拂期日ニ達セサル利札ニ不足アルトキハ其ニ相當スル金額ヲ所持人ニ仕拂フヘキ元金中ヨリ控除スルモノトス

四、本證書及利札ノ引渡交付ヲ了シタルトキハ元利金共其支拂ノ責務ヲ了シタルモノトス

五、公債元金ハ抽籤ニ依リ左ノ期日ニ償還スルモノトス

壹萬貳千五百ポンド　千九百十七年（大正六年）三月三十一日償還

壹萬七千五百ポンド　千九百十八年（大正七年）三月三十一日償還

參萬ポンド　千九百十九年（大正八年）ヨリ千九百四十二年（大正三十一年）ニ至ル毎年三月三十一日償還

五萬ポンド　千九百四十三年（大正三十二年）三月三十一日償還

本公債償還期日以前ニ於テ本條件第八ニ依リ一部ノ償還ヲ行フトキハ其後毎年償還スヘキ金額ハ右臨時償還金額ニ準シテ其償還額ヲ減スルコトアルヘシ

六、抽籤ハ名古屋市ノ特ニ指名スル公證人ノ面前ニ於テロンドン、ラザード、ブラザース會社ニテ行フヘキモノトス

七、當籤シタル公債證書ノ番號ハ「タイムス」外一種ノロンドンニテ發行スル新聞紙ニ償還期日少クトモ一ヶ月前ニ廣告スルモノトス

右當籤シタル公債證書金額ノ支拂ハ當籤後最初ノ半期分利子ノ支拂期日ニ至リ右利子ト同時ニ支拂フモノトス依テ右期日後ハ當籤シタル公債證書ニハ利子ヲ附セサルモノトス

八、千九百十七年（大正六年）三月三十一日以後何時タリトモ名古屋市ハ公債全部若クハ一部ノ償還ヲ行フコトヲ得但シ右ノ場合ニ於テハ本條件第七ニ定メタル方法ニ依リ少ク共六ヶ月以前ニ廣告ヲナスモノトス

尚一部償還ノ場合ニ於ケル償還スヘキ公債證券ノ種類ハ前記ノ方法ニ依リ抽籤ヲ以テ定ムルモノトス

九、本公債元利金支拂ノ準備トシテ名古屋市ハ本公債ノ償還ヲ了スル迄毎年度ノ水道收入及一般稅金ヨリ相當ノ金額ヲ積立テ尚其積立金額ニ對シテハ前ニ記載シタル他ノ收入ニ先ンシ優先權ヲ行フヲ得ヘキモノトス

十、本證券ハ有價證券トシテ賣買讓渡ヲ爲シ得ヘキモノトス依テ名古屋市及本證券所有者ハ何レモ此便宜ヲ利用センコトヲ勸誘スルモノナリ

十一、本公債元利金ハ凡テロンドンラザードブラサース會社ニ於テ英貨ヲ以テ支拂フ但シ利子ニ限リ利札所持人ノ便宜ニ依リ左記ノ場所ニテロンドン換算相場ヲ以テ支拂ヲ受クルコトヲ得

和蘭王國アムステルダム、バリーバイバ銀行（蘭貨ニテ支拂）

白耳義王國アントワープ、セントラル、アンペルソア銀行（佛貨フランクニテ支拂）

瑞西共和國セネバ、ユニオン、フイナンセール（佛貨フランクニテ支拂）

十二、本證書所有者死亡シタルトキハ本證書ハ其所有者ノ國籍法ニ依リ相續人ニ所有權ヲ移スモノトス

十三、本證書ハ（ラザード、ブラザース）會社又ハ其代表者ノ副署ヲ待テ効力ヲ生ス

名古屋市水道公債條例

大正二年八月三十日條例第三號

改正　大正五年十月七日條例第一號　大正七年四月十一日條例第六號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ上水道布設擴張費及下水道布設費增額竝ニ下水道布設擴張費ニ充ツ

第二條　本公債ハ券面金額百參拾九萬圓以內（實收額金百參拾九萬圓）トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率七朱以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ノ募集ハ大正二年度ヨリ大正七年度ニ至ル期間內資金ノ必要ニ應シ其募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ券面金額百圓ニ付金百圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲシテ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第六條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他ノ者ヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ市稅水道收入及其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月及九月ノ二期ニ分チ之ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ付セス

第十四條　本公債ノ元金ハ大正七年度ヨリ二十一年度ニ至ル期間內ニ於テ其辨濟額ヲ定メ每年三月抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之ヲ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ五拾圓、百圓、五百圓千圓及五千圓ノ五種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ニ爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戶主ノ人夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ速署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ非ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金貳拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條　第二十一條第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

參　考

一、大正四年三月三十一日七分利附公債六拾壹萬圓（百圓券百枚、五百圓券二百枚、千圓券五百枚）發行シタルモ大正五年十二月一日六分利附公債六拾壹萬圓（五百圓券千三百枚、千圓券四百六十枚）ヲ發行シ同時ニ七分利公債全部ヲ償還セリ

一、利札金ハ三月一日ヨリ八月末日迄分ヲ九月一日渡、九月一日ヨリ二月末日迄分ヲ三月一日渡トス

公債償還年次表

年次	年度	元金額	償還元金	利子	計
一	元	円	円	円	円
二	二	—	—	—	—
三	三	六一〇、〇〇〇	—	一一七	一一七
四	四	六一〇、〇〇〇	—	四一、六四〇	四一、六四〇
五	五	△六一〇、〇〇〇 △五四〇、〇〇〇	—	三四年十月二日起 二八、四五九 二、三四五	四〇、六三
六	六	△六一〇、〇〇〇 △五四〇、〇〇〇	—	三六、〇〇〇 一、八〇〇	三七、八〇〇
七	七	△六一〇、〇〇〇 △五四〇、〇〇〇	一、〇〇〇	三六、〇〇〇 一、八〇〇	三七、八〇〇
八	八	一、二四〇、〇〇〇	一、〇〇〇	三六、〇〇〇	一〇一、〇〇〇
九	九	一、二四〇、〇〇〇	一、〇〇〇	三六、四〇〇	一〇〇、四〇〇
一〇	一〇	一、二四〇、〇〇〇	一、〇〇〇	三五、四〇〇	九九、四〇〇
一一	一一	一、二四〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	一四五、〇〇〇
一二	一二	一、二四〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	三三、三五〇	一五三、三五〇
一三	一三	一、二四〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	三二、〇五〇	一六二、〇五〇
一四	一四	一、二四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	三〇、七五〇	一七〇、七五〇
一五	一五	一、一七〇、〇〇〇	一三四、〇〇〇	二九、四五〇	一六三、四五〇

備考

一、本表ハ四位未満ノ数ハ切捨ト大正五年度ニ於テ参拾参萬圓同六年度ニ於テ参拾七萬圓同七年度ニ於テ八萬圓募集スヘキ處之ヲ爲ササリシニ依リ隨テ之ニ對スル利子ハ実拂ハサルヲ以テ計上セス

名古屋市公債證書取扱規程

明治四十四年六月三日
告示第二一四號

改正　昭和三年三月二日告示第六十五號
昭和七年三月八日告示第十六號

第一條　公債證書ヲ發行スルトキハ第一號樣式ノ公債證書發行簿ニ第二號樣式ノ公債證書發行番號ノ下ニ證書ト割印スヘシ

第二條　公債證書ノ交付ハ拂込金ト引換ニ之ヲ交付スヘシ但シ假證書若クハ寫ノ交付ヲ爲スヘキ場合ハ此限ニ在ラス

第三條　記名證書ヲ交付セムトスルトキハ其受取人ヲシテ市町村長ノ證明シタル印鑑ニ據リ署名セシメ又ハ記名證書ノ所有者ヨリ其改印シタル印鑑ヲ差出サシムヘシ

第四條　公債證書記名ノ變換若クハ無記名證書ヲ記名證書ニ記名證書ヲ無記名ニ變換スルトキハ市役所ニ一通ハ元利金支拂場所ニ供ヘ照合ニ供スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ公債證書發行簿公債證書記名簿ニ其事由及除權判決月日ヲ附記スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ公債證書發行簿公債證書記名簿ニ其事由及除權判決月日ヲ附記スヘシ

第五條　公債證書若クハ利札紛失ノ届出アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出ニ依リ證書ヲ交付シタル後發見シタル出來證書ハ之ヲ無效ニスル手續ヲ爲スヘシ

第六條　公債證書又ハ利札ノ紛失滅失若クハ汚損等ニ依リ代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ第一條ノ手續ヲ爲シ其發行濟記名簿ノ摘要欄ニ發行ヲ要セス

一、代證書ハ第一條ノ手續ヲ爲シ其發行濟記名簿ノ摘要欄ニ發行ヲ要セス

二、代利札ハ第四號樣式ニ依リ之ヲ調製シ第五號樣式ノ七枚一綴トシ其發行濟記名簿ニ其代證書ヲ發行シタル年月日事由及代利札ノ番號ヲ記入シ且其代利札ニ對スル公債證書ノ番號ヲ附記スヘシ

三、代利札ハ第四號樣式ニ依リ之ヲ調製シ第五號樣式ノ七枚一綴トシ其發行濟記名簿ニ其代證書ヲ發行シタル年月日事由及代利札ノ番號ヲ記入シ且其代利札ニ對スル公債證書ノ番號ヲ附記スヘシ

第七條　代證書若クハ代利札ハ其請求者ヨリ手數料ヲ納付セシメタル後之ヲ交付スヘシ

前項證書及利札ノ交付ヲ受ケタル時ハ請求者ヨリ手數料ヲ納付セシメタル後發見シタル出來證書ハ之ヲ無效ニスル手續ヲ爲シ其發行濟記名簿ニ其事由及除權判決月日ヲ附記スヘシ

第八條　代證書若クハ代利札ヲ交付シタルトキハ直ニ其紛失滅失汚損等ニ依リ代證書又ハ代利札ヲ交付シタル後發見シタル出來證書ハ之ヲ無效ニスル手續ヲ爲シ其發行濟記名簿ニ其事由及除權判決月日ヲ附記スヘシ

第九條　第四條、第七條ニ依リ請求者ヨリ納付セシムル手數料ハ市稅外諸收入收納ノ規定ニ依リ收メ置キ第六號樣式ノ原紙出納簿ニ公債證書原紙種別ニ出納ヲ登記スヘシ

第十條　發行未濟ニ係ル公債證書ノ原紙ハ鐵ワイヤーニ依リ中央ニ消印ヲ施シ十ヶ年間之ヲ保存スヘシ

第十一條　元金償還利子仕拂濟及條例第十四條但書ノ證書又ハ代利札ヲ交付シタル爲メ無效トナリタル證書利札ハ其表面金額ノ還付又ハ公債證書變換紛失滅失汚損等ニ依リ代證書ノ還付ヲ爲シタル場合ニ於テ徵收シタル過怠金ハ之ヲ收入ニ編入ス

前項ニ依リ保存期間ヲ經過シタルトキハ第十條ノ例ニ依リ出納簿ニ其出納ヲ登記シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第十二條　公債元利金ハ公債元利金拂渡所ニ資金前渡ナナシ其仕拂ヲ執行セシムヘシ

前項公債元利金拂渡所ハ市長ノ指定スル銀行トス

第十三條　公債元利金拂渡所ハ第七號樣式ノ公債元利金受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記シ每日其仕拂額ヲ證書利札竝ニ諸稅免除ニ係ル證憑書ヲ添ヘ市長ニ報告スヘシ

主務部ニ於テ前項報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ第十一號樣式ノ元利金整理簿ニ元金償還利金仕拂濟ノ證印ヲ押捺スルモノトス

第十四條　左ニ揭ケル事項ハ主務部ヨリ其都度拂渡所ニ通知スヘシ

一、前渡スヘキ公債元利金ノ區別及其仕拂期月

二、記名證書ヲ交付シ及記名變換シタルトキ

三、公債證書及利札紛失又ハ滅失ノ爲メ其元利金ノ仕拂ヲ停止及停止解除シタルトキ

四、代證書ヲ交付シタルニ依リ無效ニ歸シタル證書及利札アリタルトキ

五、公債證書ノ當籤若クハ滿期償還又ハ買入鎖却シタルトキ

六、營利ヲ目的トセサル法人ノ取得シタル無記名公債證書ニ對シ所得稅施行規則ニ依リ證明ヲ與ヘタルトキ

七、當籤又ハ滿期ノ公債證書ニ對スル元利金ノ拂渡期月ヲ定メタルトキ

前項第二號乃至第五號ノ場合ハ證書ノ種類記號番號第二號第六號ノ場合ニ於テ尙所有者ノ法人名等ヲ附記スルヲ要ス

第十五條　拂渡所ニ於テ元利金仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ左ニ揭ケル事項ヲ調査シ正當ト認メタルトキ其仕拂ヲ爲スヘシ

元利金ノ場合

一、證書ノ眞否

二、附着利札ノ員數及其眞否

三、無效又ハ紛失又ハ滅失ノ屆出ニ係ルモノニ非ラサルヤ否ヤ

利金ノミノ場合

一、利札ノ眞否

二、無效又ハ紛失又ハ滅失屆出ニ係ル利札ニ非ラサルヤ否ヤ

三、當籤等ニ依リ無效ニ歸シタル證書ニ附着セル利札ニ非ラサルヤ否ヤ

前項元利金ハ第八號樣式利金ハ第九號樣式ノ請求票ヲ證書又ハ利札ト共ニ差出サシムヘシ

記名證書ナルトキハ前項請求票ニ豫テ提出シタル印鑑ヲ押捺セシムルモノトス

第十六條　拂渡所ニ於テ公債利子ノ仕拂ヲ爲ストキハ公債利子ニ課セラレタル諸稅ヲ控除シ仕拂ヲ爲スヘシ前項控除シタル稅額ハ市長ノ交付スル計算書及拂込書ニ依リ日本銀行ニ納入ノ手續ヲ爲シ領收證ヲ得テ之ヲ市長ニ提出スヘシ

公債利子受取人ニ於テ利札截斷ノ際誤テ其利札ノ要部ヲ切斷シタルモノアルトキハ其切斷殘部ヲ接續シ其接續箇所裏面ニ本人ナシテ押印セシムルモノトス

第十七條　拂渡所ハ現金仕拂濟ノ證書及利札ノ裏面ニ仕拂濟ノ印ヲ捺スヘシ

第十八條　拂渡所ニ於テ公債元利金ノ仕拂ヲ爲サムトスルトキ其證書若クハ利札カ紛失滅失ノ屆出ニ係ルモノナルトキ又ハ汚損等ニ依リ眞否ヲ鑑別シ難キカ爲元利金ノ仕拂ヲ停止シタルトキハ其ノ額面種類ノ記號番號所持人ノ住所氏名ヲ即時市長ニ報告スヘシ

第十九條　公債證書ノ利子仕拂期日ニ至リタルモノ又ハ當籤若クハ買入鎖却ヲ爲シタルモノノ元利金等ハ第十號樣式公債元利金前渡整理簿ニ登記シ當ニ元利金現在債務額ヲ明瞭ナラシメ置クヘシ

第二十條　公債元利仕拂濟ニ係ル證書利札及領收證書ハ左ノ區分ニ依リ調理スヘシ

一、證書ハ記名無記名ニ大別シ尙之ヲ書面每ニ類別シ番號順次ニ取纏メ帶封シ其帶紙ニ證書額面ノ合金額及枚數ヲ揭記シ取扱者之ニ捺印スヘシ

二、利札ハ之ヲ利子仕拂期及額面每ニ類別シ番號ノ順次ニ取纏メ帶封シ其帶紙ニ利札ノ合金額及枚數ヲ揭記シ取扱者捺印スヘシ但シ元金償還ニ付着スル利札ハ其證書ト共ニ整理スルモノトス

三、利金請求證書ハ拂渡所ニ於テ利金仕拂期每ニ別冊ニ編纂シ利札額面金額納稅控除額利金拂渡額枚數ヲ表記シ取扱者捺印スヘシ

第一號樣式（公債證書發行簿）

番號	割印	摘要	番號	割印	摘要	番號	割印	摘要
1			6			11		
2			7			12		
3			8			13		
4			9			14		
5			10			15		

一、本簿ハ公債別ニ編綴シ券面別ニ口座ヲ區分スヘシ

一、表紙ニハ發行年月日、利率、發行價格、最終償還年月日ヲ掲記スヘシ

第二號樣式

記名者　住所　氏名

割印	額面種類 記番號 番號	記名變換年月日	事故
	圓　受渡 受渡 受渡		

公債證書記名簿用紙　　名古屋市役所

第三號號樣式　備考　利札ノ場合ハ枚數ノ欄ニ支拂期月ヲ肩書スヘシ

公債證書名　名古屋市公債證書　號

亡失證書（利札）券面額	番號	枚數	代證書（利札）券面額	番號	枚數	亡失届年月日	發見届年月日	除權判決年月日	代證書（利札）發行年月日	公告年月日	届出人	保證人	考備

亡失書留簿

公債證書名　名古屋市公債證書　號

亡失證書（利札）券面額	番號	枚數	新證書（利札）券面額	番號	枚數	亡失届年月日	發見届年月日	除權判決年月日	代證書（利札）發行年月日	公告年月日	届出人	保證人	考備

第四號樣式

札　利代債公市屋古名

第　號	債主
種類所屬記號番號	公債證書
一金何程	無記名
但明治　年　月渡利子	何圓券
	何號何番

右名古屋市小學校建築公債條例第二十二條ニ依リ發行ス

年　月　日

市　長

第五號樣式　（削除）

第六號樣式

年月日	摘要	受	拂	殘	備考
「何々」種類名					
公債證書原紙出納簿					
名古屋市役所					

第七號樣式

元利金受拂簿

年月日	摘要	受	拂	殘
		円	円	円

第八號樣式

明治　年　月渡　無記名古屋市公債元利金請求書

氏住受取名所人	課	百圓券	五百圓券	千圓券	内書	證	種類	枚數	元利小計金額	利札枚ノ金額	利札面小計金額	差引元利金仕拂高	金	所得稅控除高	金	利札額面高	金	公債額面高	金

所得稅ハ利札面金額千分ノ二十（厘位圓ハ二切捨貳錢ノ割）

第九號樣式

無記名名古屋市公債利金請求票

明治　年　月　渡

利札額面高	金
所得稅控除高	金
差引利金受領高	金

利札内譯 種類	枚數	利札壹枚ノ金額	利札面小計金額
千圓券		円	円
五百圓券			
百圓券			

受取人住所氏名

所得稅ハ利札千分ノ二十（壹圓ニ付貳錢ノ割ニテ厘位ハ切捨）

第十號樣式（元利金前渡整理簿）

年月日	摘要	引去高 所得稅	引去高 利子稅	前渡高 枚數	前渡高 一枚ノ金額	前渡高 金額	支拂濟高 枚數	支拂濟高 金額	殘額 枚數	殘額 金額
						円		円		円

第十一號樣式（元利金整理簿）

12　公債名　　券面　　圓券

元利金支拂報告月日

番號	七三	七九	八三	八九	九三	九九	一〇三	一〇九	一一三	一一九	一二三	一二九	一三三	一三九	一四三	一四九	一五三	一五九	一六三	一六九	一七三	一七九	一八三	一八九	一九三	一九九	二〇三	二〇九	二一三	二一九	二二三	二二九	二三三	二三九	二四三	二四九	二五三	二五九	二六三	二六九	二七三	二七九

公債ニ關スル收支整理ノ件

明治四十一年度第百二十三號議決

本市上水道布設費、下水道布設費、公園新設費、共同墓地新設費、精進川改修費及商工品陳列館新築費負擔大津町道路改修費負擔竝舊債辨濟ニ充ツヘキ公債ニ關スル收支ハ別途計算ヲ以テ整理ス

名古屋市公債抽籤手續

昭和二年一月二十四日達第二號

第一條　本市公債償還ノ爲ニスル抽籤ハ別ニ定ムルモノヽ外此ノ手續ニ依ルヘシ

第二條　抽籤ハ期日前五日目迄ニ其ノ日時場所及償還スヘキ公債ノ種別金額其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第三條　抽籤ノ方法ハ回轉式抽籤器ニ依リ其ノ籤球ハ額面別ニ着色シテ區分スヘシ

前項ノ外別ニ第一號書式ノ抽籤整理簿ヲ設ケ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度加除訂正スヘシ

第四條　抽籤ハ市長ノ面前ニ於テ立會人二名以上立會ノ上別ニ抽籤人ヲ定メテ執行スヘシ

第五條　主務課長ハ先ツ抽籤器内ノ空虚及籤球番號ノ相違ナキコトヲ立會人ニ示シテ之ヲ投入シ抽籤人ヲシテ抽籤器ヲ廻轉セシメ籤球ノ轉出スル毎ニ其ノ額面金額及番號ヲ朗讀セシムヘシ

前項ノ籤球ハ之ヲ抽籤整理簿ニ對査シ當籤濟其ノ他ノ事故ナキモノニ付轉出ノ順序ヲ以テ當籤ヲ定メ償還額ニ達スル迄反覆スヘシ

當籤ト決定シタル番號ハ抽籤整理簿相當欄ニ年月日當籤ノ旨ヲ記入スヘシ

第六條　二種以上ノ公債ヲ連續シテ抽籤スル場合ニ於テハ最少數ノ分ヨリ執行シ而シテ一抽籤毎ニ籤球番號ヲ整理スルヲ要セス其ノ轉出シタルモノ及不足ノ分ヲ投入シテ前條各項ノ手續ヲ行フヘシ

第七條　立會人及抽籤人ハ償還事務ニ關係ナキ市吏員中ニ就キ之ヲ命スヘシ

第八條　抽籤ヲ終リタルトキハ第二號書式ノ抽籤調書ヲ作リ主務課長及立會人署名捺印スヘシ

附　則

第九條　本手續ハ次ノ抽籤ヨリ之ヲ施行ス

大正五年二月達第六號ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式

何　回　券

當籤年月日 ― 記號番號 ― 摘　要

備考

一、本簿ハ公債毎ニ別冊トシ額面別ニ口坐ヲ設クヘシ

二、無效代證書發行、買入銷却其ノ他ノ事故ハ摘要ニ記入スヘシ

第二號書式　　抽籤調書

名古屋市何々公債償還ノ爲　年　月　日名古屋市長何某ノ面前ニ於テ抽籤ヲ執行シタリ其ノ要領左ノ如シ

一、抽籤場所　何　所

二、同開始時　午前後

三、同終了時　午前後

四、抽籤人職氏名

五、當籤證書ノ額面及記號番號

何々公債　何圓券　何枚

內譯

記號番號（列記）

右ノ通

年　月　日

主務課長　職氏名　印

立會人　職氏名　印

立會人　職氏名　印

外債ノ證券若クハ利札滅失又ハ紛失ノ場合取扱規程

大正四年五月十日告示第五十六號

第一條　名古屋市外債ノ證書若クハ利札ヲ滅失又ハ紛失シタル者ハ其證券又ハ利札ノ持參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其金額及其仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ヲ約シテ擔保ヲ提供シ其元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得但シ取扱會社ノ確實ト認メタル保證人ヲ立テ擔保ノ提供ニ代フル事ヲ得

前項ニ依リ請求スル元金又ハ利子ハ償還若クハ仕拂期ノ到達シタルモノナルコトヲ要ス

辨償スヘキ利子割合ハ一箇年百分ノ五トス

擔保ノ提供ヲ爲シタル者カ債務ノ履行ヲ爲サヽルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充テ過剩額アルトキハ之ヲ返付シ不足ヲ生シタルトキハ之ヲ追納セシム

第二條　前條ニ依リ元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名シタル額面ヲ取扱會社ニ提出シ承認ヲ受クヘシ

一、證券ノ額面金額

二、證券及利札ノ枚數

三、證券又ハ利札ノ記號番號

四、仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額

五、元金償還期又ハ利子仕拂期

六、滅失又ハ紛失ノ事由場所及年月日

七、提供スヘキ擔保ノ種類及數量又ハ保證人ノ住所氏名

八、請求ノ年月日

九、請求者ノ住所

第三條　前條ニ依リ取扱會社ノ承認ヲ得タル者ハ契約證書ヲ作リ之ヲ取扱會社ニ提出シ同時ニ之ニ對スル擔保ヲ提供スヘシ但シ保證人ヲ立テ擔保ノ提供ニ代フル場合ニ於テハ契約證書ニ保證人ノ連署ヲ要ス

擔保ハ現金又ハ取扱會社ノ確實ト認メタル有價證券トス

擔保額ハ償還ヲ受クヘキ元金又ハ仕拂ヲ受クヘキ利子ノ金額ニ其仕拂フヘキ日ヨリ元金又ハ利子ノ消滅時數完成ノ日ニ至ル迄ノ日數ニ應スル一箇年百分ノ五ノ利子金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ最下限トス

第四條　擔保物ノ價格ハ取扱會社ノ認定ニ依ル

擔保物ノ價格減少シタルトキハ取扱會社ノ指定シタル期日内ニ增擔保ヲ提出スルコトヲ要ス但シ取扱會社ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ケス

第五條　擔保ヲ提供シタル者カ其擔保物ヲ變更セントスルトキハ新ニ提供スヘキ擔保ノ種類及數量ヲ記載シ年月日住所氏名ヲ署シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱會社ニ請求スヘシ

第六條　擔保ヲ提供シタル者ハ擔保ノ原因カ一部消滅シタル場合其限度ニ應シ擔保ノ一部解除ヲ取扱會社ニ請求スルコトヲ得

第七條　擔保ノ提供ニ代フルコトヲ得ヘキ保證人ノ債務ハ主タル債務者ト連帶トス

第八條　保證人カ死亡シタルトキハ債務者ニ於テ速ニ代保證人ヲ立テ之ヲ取扱會社ニ請求シ其承認ヲ受クヘシ保證人ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第九條　債務者ハ保證人ノ資產ノ減損ニ因リ會社ヨリ更ニ擔保ヲ提供スヘキコトヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ取扱會社ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ケス

第十條　滅失又ハ紛失シタル證券若クハ利札ニ對スル元金又ハ利子ハ領收證書ト引替ニ之ヲ仕拂フ

名古屋市小學校建築公債條例

明治四十三年十一月二十五日
條例第十號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ因ル收入ハ小學校建築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ參面金額八拾七萬圓以内（實收額八拾七萬圓）トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六朱以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ノ募集期限ハ明治四十四年六月三十日迄トス但シ時宜ニヨリ市長ニ於テ募集期限ヲ延長スルコト得

第六條　本公債發行ノ價格ハ參面金額以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シテ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他ノ者ヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ付セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ滯納利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ市稅ヲ以テ之ヲ辨濟ス但シ其他ノ收入ヲ以テ辨濟スルコトヲ妨ケス

第十二條　公本債ノ利息ハ毎年三月及九月ノ二期ニ分チ之ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ付セス

第十四條　本公債ノ元金ハ明治四十八年度ヨリ同六十二年度ニ至ル期間内ニ於テ其辨濟額ヲ定メ毎年三月抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政ノ都合又ハ低利ナル内債若クハ外債ニ由リ措置者クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還スルコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第十六條　本公債ノ利息請求ノ權利ハ仕拂期日以後滿五箇年間元金請求ノ權利ハ辨濟期日以後滿十箇年間行使セサルニ因リテ消滅ス

第四章　證　書

第十七條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ五拾圓、百圓、五百圓千圓及五千圓ノ五種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トスルコトヲ得

第十八條　記名證書ノ賣買讓渡ヲナシタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十九條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲナスヘシ但シ隱居若クハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第二十條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニアラスシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲナスヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十一條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニアラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セムトスルモノハ市

長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ナス事ヲ要ス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ公共團體ノ請求ニ係ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認ムルモノハ保證人ヲ要セス

第二十三條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金貳拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十六條　第二十二條、第二十三條及前條ハ本公債利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十七條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札ノ持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十二條第三項及第五項ヲ準用ス

參考

一、明治四十四年一月十四日五分四厘利附教育公債八十七萬圓（百圓券四十枚、五百圓券八十八枚、千圓券八百二十二枚）發行セリ

一、利札金ハ四月一日ヨリ九月三十日迄分ヲ九月渡、十月一日ヨリ三月三十一日迄分ヲ三月渡トス

公債償還年次表　　明治四十四年二月十四日更正

年次	年度	元金額	償還元金	利子	計
一	明治四三	八七〇、〇〇〇 円	— 円	一〇、六二八 円	一〇、六二八 円
二	四四	八七〇、〇〇〇	—	四七、八五〇	四七、八五〇
三	四五	八七〇、〇〇〇	—	四八、八五〇	四七、八五〇
四	四六	八七〇、〇〇〇	—	四七、八五〇	四七、八五〇
五	四七	八七〇、〇〇〇	—	四七、八五〇	四七、八五〇
六	四八	八七〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	四七、八五〇	七七、八五〇
七	四九	八四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四六、二〇〇	八六、二〇〇
八	五〇	八〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四四、〇〇〇	八四、〇〇〇
九	五一	七六〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四二、八〇〇	九二、八〇〇
一〇	五二	七一〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三九、〇五〇	九九、〇五〇
一一	五三	六五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三五、七五〇	九五、七五〇
一二	五四	五九〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	三二、四五〇	一〇二、四五〇
一三	五五	五二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二八、六〇〇	四八、六〇〇
一四	五六	五〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二七、五〇〇	四七、五〇〇

一五	五七	四八〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二六、四〇〇	四六、四〇〇
一六	五八	四六〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二五、三〇〇	一〇五、三〇〇
一七	五九	三六〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、九〇〇	九〇、九〇〇
一八	六〇	三五〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一七、五五〇	一〇七、五五〇
一九	六一	三四〇、〇〇〇	一一、〇〇〇	一三、一〇〇	一三、一〇〇
二〇	六二	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	六、六五〇	一一六、六五〇
計		—	八七〇、〇〇〇	六五三、〇一八	一、五二三、〇一八

備考

一、利子ハ年率五朱五厘トシテ計上ス

一、公債ノ募集ハ明治四十四年一月十日トス

一、積算上圓以下ハ之ヲ切捨トス

名古屋市區改正事業公債條例

大正九年十一月三十日　條例第七號　改正　大正十五年九月十七日　條例第九號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ市區改正事業費ニ充ツ

第二條　本公債ハ券面金額五百八拾四萬圓以内（實收額五萬八拾四萬圓）トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率八朱以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ノ募集ハ大正九年度ヨリ大正十二年度ニ至ル期間内賚金ノ必要ニ應シ其募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付金百圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第六條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他ノ者ナシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受シムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付キ一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屬

出ツヘシ

第三章　辨濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ特別稅其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六月分宛ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ大正十三年度ヨリ同四十二年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通リ每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條　第二十一條、第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セストト認メタルトキハ當該年度豫定募集額及豫定利率ヲ減度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八朱以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章、第三章、第四章ヲ準用ス

公債償還年次表

年次	年度	元金額	償還元金	利子	計
二	大正九	二、八四〇、〇〇〇 円	— 円	二七、〇六九 円	二七、〇六九 円
三	同一〇	四、五六〇、〇〇〇	一	二六九、二〇〇	二六九、二〇〇
三	〃一一	五、八四〇、〇〇〇	—	四〇九、二〇〇	四〇九、二〇〇
四	〃一二	五、八四〇、〇〇〇	二、八四〇、〇〇〇	四〇九、二〇〇	三、二四九、二〇〇

年次	年度	元金額	償還元金	利子	計
五	〃一三	五、八四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇七、二〇〇	五〇七、二〇〇
六	〃一四	五、八〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇四、〇〇〇	五〇四、〇〇〇
七	〃一五	五、七六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇〇、八〇〇	五〇〇、八〇〇
八	〃一六	五、七二五、〇〇〇	四五、〇〇〇	四九七、二〇〇	五四二、二〇〇
九	〃一七	五、六七〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四五三、六〇〇	五一三、六〇〇
一〇	〃一八	五、六一〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四四八、八〇〇	五〇八、八〇〇
一一	〃一九	五、五五〇、〇〇〇	六五、〇〇〇	四四四、〇〇〇	五〇九、〇〇〇
一二	〃二〇	五、四八五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	四三八、八〇〇	五〇八、八〇〇
一三	〃二一	五、四一五、〇〇〇	九五、〇〇〇	四三三、二〇〇	五二八、二〇〇
一四	〃二二	五、三二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四二五、六〇〇	五二五、六〇〇
一五	〃二三	五、二二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四一七、六〇〇	五一七、六〇〇
一六	〃二四	五、一二〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	四〇八、四〇〇	五一八、四〇〇
一七	〃二五	四、九八五、〇〇〇	一二五、〇〇〇	三九八、八〇〇	五二三、八〇〇
一八	〃二六	四、八六〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	三八八、八〇〇	五二八、八〇〇
一九	〃二七	四、七二〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	三七七、六〇〇	五二七、六〇〇
二〇	〃二八	四、五七〇、〇〇〇	一六五、〇〇〇	三六五、六〇〇	五三〇、六〇〇
二一	〃二九	四、四〇五、〇〇〇	一七五、〇〇〇	三五二、四〇〇	五二七、四〇〇

二三ノ内	三〇	四、二三〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	三五八、四〇〇	五三八、四〇〇
二三ノ内	三一	四、〇四〇、〇〇〇	二三五、〇〇〇	四三、一一〇	五四八、一〇〇
二四ノ内	三二	三、八二五、〇〇〇	二四五、〇〇〇	四五、九〇〇	五五〇、一〇〇
二五ノ内	三三	三、五四〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	四八、六〇〇	五五四、六〇〇
二六ノ内	三四	三、三一〇、〇〇〇	二八五、〇〇〇	五三、四〇〇	五五九、八〇〇
二七ノ内	三五	三、〇三五、〇〇〇	三〇五、〇〇〇	五七、〇〇〇	五六七、〇〇〇
二八ノ内	三六	二、七五〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	五九、八〇〇	五七二、八〇〇
二九ノ内	三七	二、五九〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	六一、七〇〇	五七五、七〇〇
三〇ノ内	三八	二、四三〇、〇〇〇	三五五、〇〇〇	六三、四〇〇	五七七、四〇〇
三一ノ内	三九	二、二四五、〇〇〇	三四〇、〇〇〇	六三、六〇〇	五七九、六〇〇
三二ノ内	四〇	一、九三〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	九八、四〇〇	五八八、四〇〇
三三ノ内	四一	七八〇、〇〇〇	四八五、〇〇〇	九二、四〇〇	五九二、四〇〇
二四ノ内	四二	二九五、〇〇〇	二九五、〇〇〇	三八、二〇〇	三八、二〇〇
計		五、八四〇、〇〇〇	二、〇四一、四六九	一六、八八一、四六九	

本表ハ圓位未滿ヲ切捨トス

第二回小學校建築公債條例

大正十年四月二十五日
條例第一號

改正　大正十一年三月三十一日條例第三號　大正十二年七月二十一日條例第七號　大正十五年九月二十一日條例第十號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ因ル收入ハ小學校建築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ券面金額參百七拾八萬圓（實收額參百四拾萬貳千圓）以上トス

第三條　本公債ノ利息ハ年參六朱五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム但シ經濟界ノ狀況ニ依リ年率七朱以內ト爲スコトヲ得

第四條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ハ大正九年度ヨリ大正十二年度ニ至ル期間內資金ノ必要ニ應シ其募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付金九拾圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第六條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他ノ者ヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ滯納利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ市稅ヲ以テ之ヲ辨濟ス但シ其ノ他ノ收入ヲ以テ辨濟スルコトヲ妨ケス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六月分宛ヲ仕拂フ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ大正十四年度ヨリ大正三十一年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之ヲ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ實質讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハソノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲナスヘシ但シ隱居若クハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ共種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル認明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徴收ス

第二十四條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條　第二十一條第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シ之ヲ準用ス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對シ除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況ニヨリ本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ第六條ノ發行價格及利息年率七朱ヲ限度トシ償還期限五ケ年以內ノ短期債ヲ起シ又利息年率八朱以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ノ募集辨償證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ノ規定ヲ準用ス

公債償還年次表

年次	年次	起債額	每年度支出額 利子仕拂額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 計	年度未償還額
		円	円	円	円	円
一	九	—	—	—	—	—
二	一〇	五〇〇,〇〇〇	—	—	—	五〇〇,〇〇〇
三	一一	七七〇,〇〇〇	三九,六〇九	—	三九,六〇九	一,二七〇,〇〇〇
四	一二	二,四九〇,〇〇〇	二五〇,〇七五	—	二五〇,〇七五	三,七六〇,〇〇〇
五	一三	—	二六四,六〇〇	—	二六四,六〇〇	三,七六〇,〇〇〇
六	一四	—	二六四,六〇〇	一〇,〇〇〇	二六四,六〇〇	三,七五〇,〇〇〇
七	一五	—	二六三,二〇〇	二五,〇〇〇	二八八,二〇〇	三,七三五,〇〇〇
八	一六	—	二六一,四五〇	二五,〇〇〇	二八六,四五〇	三,七一〇,〇〇〇
九	一七	—	二五九,七〇〇	三〇,〇〇〇	二八九,七〇〇	三,六八〇,〇〇〇
一〇	一八	—	二五七,六〇〇	三五,〇〇〇	二九二,六〇〇	三,六四五,〇〇〇
一一	一九	—	二五五,一五〇	四五,〇〇〇	三〇〇,一五〇	三,六〇〇,〇〇〇
一二	二〇	—	二五二,〇〇〇	五〇,〇〇〇	三〇二,〇〇〇	三,五五〇,〇〇〇
一三	二一	—	二四八,五〇〇	一三〇,〇〇〇	三七八,五〇〇	三,四二〇,〇〇〇
一四	二二	—	二三九,四〇〇	二二五,〇〇〇	四六四,四〇〇	三,一九五,〇〇〇
一五	二三	—	二二三,六五〇	二九〇,〇〇〇	五一三,六五〇	二,九〇五,〇〇〇
一六	二四	—	二〇三,三五〇	三一〇,〇〇〇	五一三,三五〇	二,五九五,〇〇〇
一七	二五	—	一八一,六五〇	三三〇,〇〇〇	五一一,六五〇	二,二六五,〇〇〇
一八	二六	—	一五八,五五〇	三五〇,〇〇〇	五〇八,五五〇	一,九一五,〇〇〇
一九	二七	—	一三四,〇五〇	三七五,〇〇〇	五〇九,〇五〇	一,五四〇,〇〇〇
二〇	二八	—	一〇七,八〇〇	四〇〇,〇〇〇	五〇七,八〇〇	一,一四〇,〇〇〇
二一	二九	—	七九,八〇〇	四二五,〇〇〇	五〇四,八〇〇	七一五,〇〇〇
二二	三〇	—	五〇,〇五〇	四五〇,〇〇〇	五〇〇,〇五〇	二六五,〇〇〇
二三	三一	—	一八,五五〇	二六五,〇〇〇	二八三,五五〇	—
計		三,七六〇,〇〇〇	四,〇一三,三三四	三,七六〇,〇〇〇	七,七九三,三三四	

下水道布設事業公債條例

大正十年七月十三日
條例第六號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ下水道布設費増額ニ充ツ

第二條　本公債ハ券面金額七十七萬千七百圓以內（實收額七十三萬三千百十五圓以上）トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率七朱以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募集

第五條　本公債ノ募集ハ大正九年度ヨリ大正十年度ニ至ル期間內資金ノ必要ニ應シ其募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第六條　本公債ノ發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付九十五圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第六條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他ノ者ヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徴收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六月分宛ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ大正十四年度ヨリ同三十年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ノ通毎年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ五拾圓、百圓、五百圓千圓及五千圓ノ五種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受タルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ減失ノ場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其種類、記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書壹通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條　第二十條第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定ノ手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以内ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八朱以内ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

償還年次表

年次	年度	元金額	償還元金	利子	計
一	九	八五、〇〇〇円	一円	一六円	一六円
二	一〇	七七一、七〇〇	—	二九、九八四	二九、九八四
三	一一	七七一、七〇〇	—	五四、〇一九	五四、〇一九
四	一二	七七一、七〇〇	—	五四、〇一九	五四、〇一九
五	一三	七七一、七〇〇	—	五四、〇一九	五四、〇一九
六	一四	七七一、七〇〇	一〇、〇〇〇	五四、〇一九	六四、〇一九
七	一五	七六一、七〇〇	一五、〇〇〇	五三、三一九	六八、三一九
八	一六	七四六、七〇〇	一五、〇〇〇	五二、二六九	六七、二六九
九	一七	七三一、七〇〇	二〇、〇〇〇	五一、二一九	七一、二一九
一〇	一八	七一一、七〇〇	二〇、〇〇〇	四九、八一九	六九、八一九
一一	一九	六九一、七〇〇	三〇、〇〇〇	四八、四一九	七八、四一九
一二	二〇	六六一、七〇〇	三〇、〇〇〇	四六、三一九	七六、三一九
一三	二一	六三一、七〇〇	三五、〇〇〇	四四、二一九	七九、二一九
一四	二二	五九六、七〇〇	四〇、〇〇〇	四一、七六九	八一、七六九
一五	二三	五五六、七〇〇	四〇、〇〇〇	三八、九六九	七八、九六九
一六	二四	五一六、七〇〇	四〇、〇〇〇	三六、一六九	七六、一六九
一七	二五	四七六、七〇〇	四五、〇〇〇	三三、三六九	七八、三六九
一八	二六	四三一、七〇〇	五〇、〇〇〇	三〇、二一九	八〇、二一九
一九	二七	三八一、七〇〇	五五、〇〇〇	二六、七一九	八一、七一九
二〇	二八	三二六、七〇〇	七五、〇〇〇	二二、八六九	九七、八六九
二一	二九	二五一、七〇〇	一二五、〇〇〇	一七、六一九	一四二、六一九
二二	三〇	一二六、七〇〇	一二六、七〇〇	八、八六九	一三五、五六九
計			七七一、七〇〇	八四八、二三〇	一、六一九、九三〇

第一回電氣軌道事業公債條例

大正十一年七月二十八日
條例第六號

第一條　名古屋市ニ於ケル電氣軌道事業經營ノ費途ニ充ツル爲大正十一年度ニ於テ名古屋市第一回電氣軌道事業公債額面壹千貳百五拾五萬五千壹百圓ヲ起債スルモノトス

第二條　本公債發行ノ價格ハ額面百圓ニ付九拾五圓トス

第三條　本公債ノ利子ハ額面全額ニ對シ年率七分トス

第四條　本公債ノ利子ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チテ前六箇月分ヲ仕拂フモノトス但シ一期未滿ノ利子ハ發行ノトキニ在リテハ發行ノ日ヨリ償還ノトキハ償還期日ノ前日迄各日割ヲ以テ利子ヲ仕拂フモノトス

第五條　本公債證書ハ無記名利札附トシ五拾圓、百圓、五百圓、千圓ノ四種トス

第六條　本公債ノ元金ハ大正十五年度迄据置キ大正十六年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十箇年度間ニ於テ別紙償還年次表ノ通償還スルモノトス但シ市財政ノ都合ニ依リ年割額以上ノ償還ヲ爲シ若ハ其年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第七條　本公債元金ハ抽籤ノ方法ニ依リ毎年三月一日之ヲ償還ス但シ買入又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ臨時償還スルコトアルヘシ

買入銷却ヲ爲サントスルトキハ其價格ハ券面金額ヲ超過セサルモノニ限ル

第八條　本公債ノ元金並ニ利子ハ電氣軌道事業ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第九條　本公債ノ元利金ハ證券又ハ利札引換ニ之ヲ支拂フモノトス

第十條　本條例ノ施行ニ關スル必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公債償還年次表（第一回）

年次	年度	起債額	毎年度支出額			年度末未償還額
			利子支拂額	元金償還額	計	
一	一一	一三、五五五、一〇〇円	五三三、六六七円	—円	五三三、六六七円	一三、五五五、一〇〇円
二	一二	—	八七八、八五七	—	八七八、八五七	一三、五五五、一〇〇
三	一三	—	八七八、八五七	—	八七八、八五七	一三、五五五、一〇〇
四	一四	—	八七八、八五七	—	八七八、八五七	一三、五五五、一〇〇
五	一五	—	八七八、八五七	—	八七八、八五七	一三、五五五、一〇〇
六	一六	—	八七八、八五七	一五〇、〇〇〇	一、〇二八、八五七	一三、四〇五、一〇〇
七	一七	—	八六八、三五七	二〇五、一〇〇	一、〇七三、四五七	一三、二〇〇、〇〇〇
八	一八	—	八五四、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、一五四、〇〇〇	一二、九〇〇、〇〇〇
九	一九	—	八三三、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	一、一八三、〇〇〇	一二、五五〇、〇〇〇
一〇	二〇	—	八〇八、五〇〇	三五〇、〇〇〇	一、一五八、五〇〇	一二、二〇〇、〇〇〇
一一	二一	—	七八四、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一、一八四、〇〇〇	一〇、八〇〇、〇〇〇
一二	二二	—	七五六、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	一、二〇六、〇〇〇	一〇、三五〇、〇〇〇
一三	二三	—	七二四、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、二二四、五〇〇	九、八五〇、〇〇〇
一四	二四	—	六八九、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、一八九、五〇〇	九、三五〇、〇〇〇
一五	二五	—	六五四、五〇〇	五五〇、〇〇〇	一、二〇四、五〇〇	八、八〇〇、〇〇〇
一六	二六	—	六一六、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	一、二一六、〇〇〇	八、二〇〇、〇〇〇
一七	二七	—	五七四、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	一、二二四、〇〇〇	七、五五〇、〇〇〇
一八	二八	—	五二八、五〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二二八、五〇〇	六、八五〇、〇〇〇
一九	二九	—	四七九、五〇〇	七五〇、〇〇〇	一、二二九、五〇〇	六、一〇〇、〇〇〇
二〇	三〇	—	四二七、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	一、二二七、〇〇〇	五、三〇〇、〇〇〇
二一	三一	—	三七一、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、二七一、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇
二二	三二	—	三〇八、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、三〇八、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇
二三	三三	—	二三八、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、三三八、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇
二四	三四	—	一六一、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二六一、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
二五	三五	—	八四、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、二八四、〇〇〇	—
計		一三、五五五、一〇〇	一五、六六六、三〇九	一三、五五五、一〇〇	二八、二二一、四〇九	—

備考

一、公債利子ハ年率七分トス

一、初年度ノ利子ハ七ケ月分ヲ計上ス

一、償還ハ總テ三月一日トシテ計算ス

第一回電氣軌道事業公債條例施行細則

大正十一年七月二十八日
告示第百二號

第一條　本細則ニ於テ公債ト稱スルハ名古屋市第一回電氣軌道事業公債ヲ謂フ

第二條　公債證書發行ノ後ハ額面金額ノ分割又ハ併合ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　條例第七條ニ依リ臨時償還ヲ爲サムトスルトキハ三十日前ニ其ノ期日ヲ公告ス但シ買入銷却ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項償還ノ確定シタル證書又ハ買入銷却ヲ爲シタル證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

第四條　公債所有者證書若ハ利札ヲ紛失又ハ滅失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號等ヲ附記シテ代證書若ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

但シ辨濟期日ノ確定シタル證書及支拂期日ノ到達シタル利札ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元利金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ代證書若ハ代利札ノ交付又ハ元利金辨濟ヲ請求セムトスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニハ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第五條　公債ノ所有者ハ證書若ハ利札ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ證書若ハ利札ノ交換ヲ請求ス

ルコトヲ得

第六條　前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ其ノ費用ハ請求者ノ負擔トス

第七條　公債ノ元金拂渡ノ際現在スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ノ請求ニ依リ之ヲ仕拂フ

前項申立人ニ仕拂フ場合ハ第四條第三項及第四項ノ規定ヲ適用ス

第八條　代證書若ハ代利札ノ交付又ハ引換ノ請求アル場合ニ於テハ其ノ交付又ハ引換ヲ了スル迄之カ元利金ノ仕拂ヲ停止ス

第九條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前證書又ハ前利札ハ無効トス

代證書又ハ代利札ヲ交付ノ際ハ領收書ヲ徵ス

附　則

本則ハ名古屋市第一回電氣軌道事業公債條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一回電氣軌道事業公債條例

大正十一年七月二十八日
條例第七號

改正　大正十三年十月十四日條例第五號　大正十五年八月十六日條例第五號　大正十五年十月二十七日條例第十一號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業ノ建設費及貯藏品買收費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額六百八拾萬圓以內（實收額六百四拾六萬圓以上）トス

第三條　本公債ノ利子ハ年率七分以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ノ募集ハ大正十一年度ヨリ同十三年度ニ至ル期間內貫金ノ必要ニ應シ其ノ募集額ヲ定メテ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第六條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團体又ハ銀行其他適當ト認ムル者ヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利子ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利子ハ電氣軌道事業ノ收入ヲ以テ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利子ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ仕拂フモノトス但シ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利子ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ大正十六年度ヨリ同三十六年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合ニ依リ據置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入鎖却ヲ爲シ或ハ低利公債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債公書ノ種類、記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトスルトキハ三十一日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコト得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交附ス

第二十一條　本公債ノ所有者其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交附ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限リ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交附又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團体ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ヲ無記名ニ、無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受ケタルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ受ケタルトキ及前二條ニヨリ證書ノ交附若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收

ス

第二十四條 本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條 第二十一條第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十六條 本公債證書元金拂渡ノ際現在スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附則

第二十七條 市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ通セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ利率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

公債償還年次表（第二回）

年次	年度	起債額	毎年度支出額			年度末未償還額
			利子支拂額	元金償還額	計	
一	一二	三、五七〇、〇〇〇円	一四五、七七五円	—円	一四七、七七五円	三、五七〇、〇〇〇円
二	一三	一、八七〇、〇〇〇	三一五、三五〇	—	三一五、三五〇	五、四四〇、〇〇〇
三	一四	一、三六〇、〇〇〇	四二八、四〇〇	—	四二八、四〇〇	六、八〇〇、〇〇〇
四	一四	—	四七六、〇〇〇	—	四七六、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇
五	一五	—	四七六、〇〇〇	—	四七六、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇
六	一六	—	四七六、〇〇〇	二五四、〇〇〇	七三〇、〇〇〇	六、五四六、〇〇〇
七	一七	—	四五八、二二〇	一六七、〇〇〇	六二五、二二〇	六、三七九、〇〇〇
八	一八	—	四四六、五三〇	一七八、〇〇〇	六二四、五三〇	六、二〇一、〇〇〇
九	一九	—	四三四、〇七〇	一九一、〇〇〇	六二五、〇七〇	六、〇一〇、〇〇〇
一〇	二〇	—	四二〇、七〇〇	二〇五、〇〇〇	六二五、七〇〇	五、八〇五、〇〇〇
一一	二一	—	四〇六、三五〇	二一九、〇〇〇	六二五、三五〇	五、五八六、〇〇〇
一二	二二	—	三九一、〇二〇	二三四、〇〇〇	六二五、〇二〇	五、三五二、〇〇〇
一三	二三	—	三七四、六四〇	二五〇、〇〇〇	六二四、六四〇	五、一〇二、〇〇〇
一四	二四	—	三五七、一四〇	二六八、〇〇〇	六二五、一四〇	四、八三四、〇〇〇
一五	二五	—	三三八、三八〇	二八七、〇〇〇	六二五、三八〇	四、五四七、〇〇〇
一六	二六	—	三一八、二九〇	三〇七、〇〇〇	六二五、二九〇	四、二四〇、〇〇〇
一七	二七	—	二九六、八〇〇	三二九、〇〇〇	六二五、八〇〇	三、九一一、〇〇〇
一八	二八	—	二七三、七七〇	三五二、〇〇〇	六二五、七七〇	三、五五九、〇〇〇
一九	二九	—	二四九、一三〇	三七六、〇〇〇	六二五、一三〇	三、一八三、〇〇〇
二〇	三〇	—	二二二、八一〇	四〇二、〇〇〇	六二四、八一〇	二、七八一、〇〇〇
二一	三一	—	一九四、六七〇	四三〇、〇〇〇	六二四、六七〇	二、三五一、〇〇〇
二二	三二	—	一六四、五七〇	四六〇、〇〇〇	六二四、五七〇	一、八九一、〇〇〇
二三	三三	—	一三二、三七〇	四九三、〇〇〇	六二五、三七〇	一、三九八、〇〇〇
二四	三四	—	九七、八六〇	五二七、〇〇〇	六二四、八六〇	八七一、〇〇〇
二五	三五	—	六〇、九七〇	五六四、〇〇〇	六二四、九七〇	三〇七、〇〇〇
二六	三六	—	二一、四九〇	三〇七、〇〇〇	三二八、四九〇	
計		—	七、九九九、三〇五	六、八〇〇、〇〇〇	一四、七九九、三〇五	

備考 利子ハ年七分トス

第二回電氣軌道事業公債條例施行細則

大正十一年七月二十八日
告示第百三號

第一條 本細則ニ於テ公債ト稱スルハ名古屋市第二回電氣軌道事業公債ヲ謂フ

第二條 募入者ニ交付スル公債證書ノ種類ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

證書發行後ハ額面金額ノ分割又ハ併合ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 買入銷却ヲ爲シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

第四條 條例第二十一條第二十二條及第二十五條ニ依リ代證書若クハ代利札ノ交付又ハ交換ノ請求アル場合ハ其ノ交付若クハ交換ヲ了スル迄之カ元金又ハ利子ノ支拂ヲ停止ス

第五條 代證書若クハ代利札ヲ交付シタルトキハ前證書若クハ前利札ハ無效トス

代證書若クハ代利札ヲ交付ノ際ハ領收證ヲ徵ス

附則

本則ハ名古屋市第二回電氣軌道事業公債條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市都市計畫運河事業公債條例

大正十四年十二月十九日
條例第八號

改正 大正十五年六月二十二日條例第四號 昭和二年五月十一日條例第四號 昭和三年三月十二日條例第八號
昭和三年三月十二日條例第九號

第一章 總則

第一條 本公債ニ依ル收入ハ都市計畫運河事業ニ充ツ

第二條 本公債ハ券面金額七百貳拾萬圓以內（實收額五百六拾萬圓）トス

第三條 本公債ノ利息ハ年率八朱以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條 本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章 募集

第五條 本公債ノ募集ハ大正十四年度ヨリ昭和二年度ノ期間內ニ於テ期間內資金ノ必要ニ應シ其ノ募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第六條 本公債發行ノ價額ハ券面金額百圓ニ付金百圓以上トス但シ年率

ノ低下ニ應シ券面金額百圓ニ付金九拾七圓迄低下スルコトヲ得

第七條　本公債ハ一部ヲ事業用地買收代金トシテ發行交付シ一部ハ之ヲ募集スルトキ其旨ヲ公告シ應募者ヲシテ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第六條ノ券面金額ニ適用セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

第一項ノ公募スル公債ハ公共團體又ハ銀行其他ノ者ヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體者クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノニハ券面金額百圓ニ付一日參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ特別稅其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ付セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和四年度ヨリ同十一年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ノ通毎年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入鎖却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第二章第三章及第四章ノ規定ハ低利債ノ借換ニ之ヲ準用ス

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ニ爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ用地買收ノ時及金額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ヲ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書汚損其他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條　第二十一條、第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以内ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八朱以内ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

公債償還年次表

年次	年度	起債額	利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
		円	円	円	円	円
一	大正一三					
二	一四	△一、六九、三〇〇	七、七九二		七、七九二	一、六九、三〇〇
三	一五 昭和元	△三、一八四、四〇〇	二六七、八〇二		二六七、八〇二	四、八三二、七〇〇
四	二	三四、四〇〇 七、六七、〇〇〇	三六七、〇九九		三六七、〇九九	三六七、〇九九
五	三		四二、九八八		四二、九八八	七、三六七、〇〇〇
六	四		四二、四四五	一、七五二、〇〇〇	二、一二五、四四五	五、五二六、〇〇〇
七	五		三四、〇三〇	一、二九九、〇〇〇	一、六二三、〇三〇	四、二三七、〇〇〇

八	六		三六、七五〇	一、三四一、〇〇〇	一、五九、七五〇	二、八六、〇〇〇
九	七		一六二、〇六五	一、三七六、〇〇〇	一、四三七、〇六五	一、六〇〇、〇〇〇
一〇	八		九六、〇〇〇	六三九、〇〇〇	七三五、〇〇〇	九七一、〇〇〇
二	九		五八、二六〇	三九六、〇〇〇	四五四、二六〇	五七五、〇〇〇
三	一〇		三四、五〇〇	四〇九、〇〇〇	四四三、五〇〇	一六六、〇〇〇
二三	二		九、九六〇	一六六、〇〇〇	一七五、九六〇	—
計			七、二六七、〇〇〇	二、四八、〇〇〇	七、二六七、〇〇〇	九、六九六、七〇〇

備考

一、起債額欄△利ハ昭和三年三月ニ於テ低利債ニ借替ヲ爲ス

二、舊債額二、二四八、〇〇〇圓借替ニ依ル起債額ハ額面二、三一七、〇〇〇圓以内トシテ詮議相成タル旨昭和三年二月六日條例改正ノ件更正許可ノ際通牒在リタリ

水道事業公債條例

大正十五年二月一日
條例第一號

改正　大正十五年九月十六日條例第七號　昭和三年一月二十一日條例第四號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ水道擴張事業ニ充ツ

第二條　本公債ノ總額ハ債券發行ノ方法ニ依ル額面金額六百拾壹萬貳千圓（實收額五百九拾八萬九千七百六拾圓）及遞信省簡易保險積立金ヨリ借入ル、百萬圓トス

第三條　本公債ノ利子ハ年率八分以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ノ募集ハ大正十四年度ヨリ大正十九年度ニ至ル期間内實金ノ必要ニ應シ其募集額ヲ定メテ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付キ金九拾八圓以上トス但シ年利率ノ低下ニ應シ額面金額百圓ニ付金九拾四圓迄低下スルコトヲ得

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第六條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其他適當ト認ムル者ヨリ本公債ノ全部若クハ一部ヲ借入レ又ハ引受シムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利子ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ金元拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ以テ引受ノ旨屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利子ハ水道事業ノ收入又國庫補助金ヲ以テ之ニ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利子ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ仕拂フモノトス但シ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利子ヲ仕拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ大正二十年度ヨリ同三十二年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合ニ依リ據置キ若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入鎖却ヲ爲シ或ハ低利債ニ借換ヲ爲スコト得

第二章第三章及第四章ノ規定ハ低利債借換ノ場合ニ之ヲ準用ス

證券發行ニ依ラサル借入金ニアリテハ前項ノ規定ニ不拘別ニ貸借約款ヲ定メ償還スルモノトス此場合ニ於テハ償還期限大正三十二年度ヲ起ユルコトヲ得ス

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類、記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所持者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債證書ノ所有者其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類、記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此限ニアラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セムトスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項保證人ハ除權判決取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第十四編　公債

第二十二條

本公債ノ所有ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合ニアラサレハ證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條

記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條

本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條

第二十一條第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シ之ヲ準用ス

第二十六條

本公債證書元金物渡ノ際現在スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附則

第二十七條

市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定利率及豫定手取額ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ利率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテヲ以テ延長スル短期債ノ募集辨濟證書ニハ第二章第三章第四章ヲ準用スル本條例第二章第三章第四章ヲ準用スル

大正十年勅令第三百八十一號ヲ以テ大正十年十月一日ヨリ施行ス

四、額面百圓ニ付拂渡金額ハ左ノ割合ニ依リ算出スルモノトス

大正十年十月一日ヨリ利子支拂期ニ至ル利子ノ年數ニ應シ利子ヲ加ヘタル金額

備考

一、利子ハ拂渡金額ニ對シ年五分ノ割合ヲ以テ計算ス

年數	拂渡金額	年數	拂渡金額
一	九五、二三圓	六	七一、一一圓
二	九〇、四八圓	七	六七、七六圓
三	八五、九五圓	八	六四、五九圓
四	八一、八六圓	九	六一、四七圓
五	七七、九二圓	十	五八、五二圓

（次ノ二種發行）　發行年度　大正十年

番號	額面	償還方法	償還年限	利率	發行價格	應募者ノ資格	應募ノ方法	募集ノ時期	拂込ノ方法	發行地
一號ヨリ一、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
一、〇〇一號ヨリ二、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
二、〇〇一號ヨリ三、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
三、〇〇一號ヨリ四、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
四、〇〇一號ヨリ五、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
五、〇〇一號ヨリ六、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
六、〇〇一號ヨリ七、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
七、〇〇一號ヨリ八、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
八、〇〇一號ヨリ九、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
九、〇〇一號ヨリ一〇、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市

（次ノ一種發行）　發行年度　大正十年

番號	額面	償還方法	償還年限	利率	發行價格	應募者ノ資格	應募ノ方法	募集ノ時期	拂込ノ方法	發行地
一號ヨリ一、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
一、〇〇一號ヨリ二、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
二、〇〇一號ヨリ三、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
三、〇〇一號ヨリ四、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
四、〇〇一號ヨリ五、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
五、〇〇一號ヨリ六、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
六、〇〇一號ヨリ七、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
七、〇〇一號ヨリ八、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
八、〇〇一號ヨリ九、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
九、〇〇一號ヨリ一〇、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市

（次ノ二種發行）　發行年度　大正十年

番號	額面	償還方法	償還年限	利率	發行價格	應募者ノ資格	應募ノ方法	募集ノ時期	拂込ノ方法	發行地
一號ヨリ一、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
一、〇〇一號ヨリ二、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
二、〇〇一號ヨリ三、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
三、〇〇一號ヨリ四、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
四、〇〇一號ヨリ五、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
五、〇〇一號ヨリ六、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
六、〇〇一號ヨリ七、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
七、〇〇一號ヨリ八、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
八、〇〇一號ヨリ九、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
九、〇〇一號ヨリ一〇、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市

（次ノ三種發行）　發行年度　大正十一年

番號	額面	償還方法	償還年限	利率	發行價格	應募者ノ資格	應募ノ方法	募集ノ時期	拂込ノ方法	發行地
一號ヨリ一、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
一、〇〇一號ヨリ二、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
二、〇〇一號ヨリ三、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
三、〇〇一號ヨリ四、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
四、〇〇一號ヨリ五、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
五、〇〇一號ヨリ六、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
六、〇〇一號ヨリ七、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
七、〇〇一號ヨリ八、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
八、〇〇一號ヨリ九、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市
九、〇〇一號ヨリ一〇、〇〇〇號マテ	一、〇〇〇圓	抽籤ニ依リ年賦償還ス	十年	年五分	額面金額ニ付金九十五圓	制限ナシ	應募者ハ應募額ニ應シ保證金ヲ添ヘ應募書ヲ差出スヘシ	大正十年十月一日ヨリ同月十日マテ	拂込ハ一時ニ爲スヘシ	東京市

公債償還年次表（簡易保險積立金借入分）

年次	年度	償還期月	借入額	毎年度支出額 利子仕拂額	元金償還額	計	未償還額
一	大正一四	九月	1,000,000.00円	—円	—円	—円	1,000,000.00円
		三月	—	27,083.33	—	27,083.33	1,000,000.00
二	一五	九月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
		三月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
三	一六	九月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
		三月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
四	一七	九月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
		三月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
五	一八	九月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
		三月	—	32,500.00	—	32,500.00	1,000,000.00
六	一九	九月	—	32,500.00	28,148.91	60,648.91	971,851.09
		三月	—	31,585.16	29,063.75	60,648.91	942,787.34
七	二〇	九月	—	30,640.59	30,008.32	60,648.91	912,779.02
		三月	—	29,665.32	30,983.59	60,648.91	881,795.43
八	二一	九月	—	28,658.35	31,990.56	60,648.91	849,804.87
		三月	—	27,618.66	33,030.25	60,648.91	816,774.62
九	二二	九月	—	26,545.18	34,103.73	60,648.91	782,670.89
		三月	—	25,436.81	35,212.10	60,648.91	747,458.79
一〇	二三	九月	—	24,292.42	36,356.49	60,648.91	711,102.30
		三月	—	23,110.84	37,538.07	60,648.91	673,564.23
一一	二四	九月	—	21,890.85	38,758.06	60,648.91	634,806.17
		三月	—	20,631.21	40,017.70	60,648.91	594,788.47
一二	二五	九月	—	19,330.63	41,318.28	60,648.91	553,470.19
		三月	—	17,987.78	42,661.13	60,648.91	510,809.06
一三	二六	九月	—	16,601.30	44,047.61	60,648.91	466,761.45
		三月	—	15,169.75	45,479.16	60,648.91	421,282.29
一四	二七	九月	—	13,691.68	46,957.23	60,648.91	374,325.06
		三月	—	12,165.56	48,483.35	60,648.91	325,841.71
一五	二八	九月	—	10,589.86	50,059.05	60,648.91	275,782.66
		三月	—	8,962.94	51,685.97	60,648.91	224,096.69
一六	二九	九月	—	7,283.15	53,365.76	60,648.91	170,730.93
		三月	—	5,548.76	55,100.15	60,648.91	115,630.78
一七	三〇	九月	—	3,757.99	56,890.92	60,648.91	58,739.86
		三月	—	1,909.05	58,739.86	60,648.91	—
計			1,000,000.00	[illegible]	1,000,000.00	[illegible]	—

備考

一、本表借入額百萬圓ハ十三年度及十四年度豫借額ヲ一括シ十四年度ニ於テ借入レタルモノニシテ利子ハ年率六分五厘トス

二、初度利子ハ五ヶ月分ヲ計上ス

三、元利金支拂ハ凡テ三月一日及九月一日トシテ計上ス

四、借入金償還ハ均等償還法ニ依ル

公債償還年次表（總括）

年次	年度	起債額	毎年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	大正一四	1,000,000.00円	27,083.33円	—円	27,083.33	1,000,000.00円
二	一五	1,740,000.00	130,350.00	—	130,350.00	2,740,000.00
三	一六	1,875,000.00	265,813.00	—	265,813.00	4,615,000.00
四	一七	1,557,000.00	394,513.00	—	394,513.00	6,172,000.00
五	一八	940,000.00	485,900.00	—	485,900.00	7,112,000.00
六	一九	—	530,351.66	57,212.66	587,564.32	7,054,787.34
七	二〇	—	[illegible]	60,991.91	[illegible]	6,993,795.43
八	二一	—	[illegible]	65,020.81	[illegible]	6,928,774.62
九	二二	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一〇	二三	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一一	二四	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一二	二五	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一三	二六	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一四	二七	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一五	二八	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一六	二九	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一七	三〇	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—
計		7,112,000.00	[illegible]	7,112,000.00	[illegible]	—

備考

一、證券發行ニ依ル分ハ額面百圓ニ付實收九拾八圓トシ利率ハ年七分五厘トス

一、同上初年度ノ利子ハ六ヶ月分ヲ計上シ利子仕拂ハ凡テ三月一日及九月一日トシテ計算ス

一、保險積立金借入利子ハ年率六分五厘トス

一、同上借入年度ノ利子ハ五ヶ月分ヲ計上シ元利金支拂ハ凡テ三月一日及九月一日トシ均等償還法ニ依ル

第三回小學校建築公債條例

大正十五年六月二十二日
條例第三號

改正　大正十五年九月十七日
條例第八號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ小學校建築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ券面金額貳百六拾四萬四千圓（實收額貳百五拾九萬千百貳拾圓以上）トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率七分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ノ募集ハ大正十四年度及大正十五年度ニ於テ資金ノ必要ニ應シ其ノ募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第五條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付九拾八圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第五條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部若クハ一部ヲ借入レ又ハ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出スヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債ノ募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ付セス

第十三條　本公債ノ元金ハ大正十九年度ヨリ同三十八年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷印ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　當籤シタル公債證書ノ種類、記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戶主ノ入夫婿姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ金額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ニ變更ヲ受ケタルトキ記名證書ノ記名換ヲ受ケルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條、第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

第二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八分以內ノ借入金ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテノ之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

附　則

第二十七條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章、第三章、第四章ヲ準用ス

第二十八條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二回電氣軌道事業公債條例

大正十五年九月一日
條例第六號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業ノ改良ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額六拾五萬圓（實收額六拾五萬圓）以內トス

第三條　本公債ノ利子ハ年利七分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募集

第五條　本公債ハ大正十五年度ニ於テ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面百圓ニ付金百圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第六條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入若ヲ定ム

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ拂付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス

公債ノ金部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ本公債ノ全部ヲ一時引受ケシムルコトヲ得

第九條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ滯納利子ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルコトニ因リ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子仕拂額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 計	償還年度末未償還額
一	一四	六五、〇〇〇圓	一、一四〇圓	—	一、一四〇圓	六五、〇〇〇圓
二	一五	一二、〇〇〇圓	一三、一一五圓	—	一三、一一五圓	一二、四四〇、〇〇〇圓
三	一六		一六、三〇〇圓	—	一六、三〇〇圓	一二、四四〇、〇〇〇圓
四	一七		一六、三〇〇圓	—	一六、三〇〇圓	一二、四四〇、〇〇〇圓
五	一八		一六、三〇〇圓	—	一六、三〇〇圓	一二、四四〇、〇〇〇圓
六	一九		一六、三〇〇圓	三一、〇〇〇圓	四七、三〇〇圓	一二、四〇九、〇〇〇圓
七	二〇		一六、二四〇圓	四一、〇〇〇圓	五七、二四〇圓	一二、三六八、〇〇〇圓
八	二一		一六、〇〇〇圓	五二、〇〇〇圓	六八、〇〇〇圓	一二、三一六、〇〇〇圓
九	二二		一五、六四〇圓	四一、〇〇〇圓	五六、六四〇圓	一二、二七五、〇〇〇圓
一〇	二三		一五、二八〇圓	四一、〇〇〇圓	五六、二八〇圓	一二、二三四、〇〇〇圓
一一	二四		一四、九二〇圓	八、三〇〇圓	一九、二二〇圓	一二、二二五、七〇〇圓
一二	二五		一六、五五五圓	一一、〇〇〇圓	二七、五五五圓	一二、二一四、七〇〇圓
一三	二六		一六、一九五圓	一四、〇〇〇圓	三〇、一九五圓	一二、二〇〇、七〇〇圓
一四	二七		一五、七八〇圓	一五、〇〇〇圓	三〇、七八〇圓	一二、一八五、七〇〇圓
一五	二八		一五、三六五圓	一六、〇〇〇圓	三一、三六五圓	一二、一六九、七〇〇圓
一六	二九		一四、九四〇圓	一七、〇〇〇圓	三一、九四〇圓	一二、一五二、七〇〇圓
一七	三〇		一四、五一五圓	一七、〇〇〇圓	三一、五一五圓	一二、一三五、七〇〇圓
一八	三一		一四、〇九〇圓	一八、〇〇〇圓	三二、〇九〇圓	一二、一一七、七〇〇圓
一九	三二		一三、六六五圓	一八、〇〇〇圓	三一、六六五圓	一二、〇九九、七〇〇圓
二〇	三三		一三、二四〇圓	一九、〇〇〇圓	三二、二四〇圓	一二、〇八〇、七〇〇圓
二一	三四		一二、七九五圓	一九、〇〇〇圓	三一、七九五圓	一二、〇六一、七〇〇圓
二二	三五		一二、三四〇圓	一九、〇〇〇圓	三一、三四〇圓	一二、〇四二、七〇〇圓
二三	三六		一一、八八五圓	二〇、〇〇〇圓	三一、八八五圓	一二、〇二二、七〇〇圓
二四	三七		一一、四二〇圓	二〇、〇〇〇圓	三一、四二〇圓	一二、〇〇二、七〇〇圓
二五	三八		一〇、九四五圓	二〇、〇〇〇圓	三〇、九四五圓	一一、九八二、七〇〇圓
計			六、五六三、六八〇圓	一二、四四〇、〇〇〇圓	一九、〇〇三、六八〇圓	

第三章　募集

第十一條　本公債ノ元金及利子ハ電氣軌道事業收入ヲ以テ之ヲ辨償ス

第十二條　本公債ノ元利金ハ證券又ハ利札引換ニ仕拂フモノトス

第十三條　本公債ノ利子ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ以テ仕拂フモノトス但シ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條　第十六條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十五條　本公債ノ元金ハ大正二十年度ヨリ同三十九年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市債政運用ノ都合ニ依リ繰展若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之ヲ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十六條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證書

第十七條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓ノ四種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第十八條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十九條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本

チ添ヘ記名換ノ請求チ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戸主ノ入夫婿姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署チ要ス

第二十條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書チ讓受ケタルトキハ其ノ相續人チ以テ保證人トナシ記名換ノ請求チ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人チ要ス

第二十一條　本公債證書ハ金額拂込ノ際之チ交付ス

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十二條第二項及第三項チ準用ス

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札チ紛失若クハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號チ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付チ請求スヘシ前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付チ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署チ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明チ爲スコトチ要ス但シ共公團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人チ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害チ賠償スヘキ義務チ負フ

第二十三條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ノ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號チ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付チ請求スルコトチ得

第二十四條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付チ了スル迄之カ元利金ノ仕拂チ停止ス

第二十五條　記名證書チ無記名ニ無記名證書チ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ書名換チ爲ストキ及前二條ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付チ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢チ徵收ス

第六條　代證書又ハ代利札チ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十七條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アリタルトキハ之ニ相當スル金額チ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十二條第二項及第三項チ準用ス

附　則

市長ハ經濟界ノ狀況本公債チ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率チ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債チ起シ又ハ利率九分以內ノ借入金チ爲スコトチ得此ノ場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之チ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金チ以テ償還ス短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章、第三章、第四章ニ準用ス

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
1	15	六五〇、〇〇〇圓	二四、三七五圓		二四、三七五圓	六五〇、〇〇〇圓
2	16		四八、七五〇		四八、七五〇	六五〇、〇〇〇
3	17		四八、七五〇		四八、七五〇	六五〇、〇〇〇
4	18		四八、七五〇		四八、七五〇	六五〇、〇〇〇
5	19		四八、七五〇		四八、七五〇	六五〇、〇〇〇
6	20		四八、七五〇	一〇、〇〇〇	五八、七五〇	六四〇、〇〇〇
7	21		四八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五八、〇〇〇	六三〇、〇〇〇
8	22		四七、二五〇	一〇、〇〇〇	五七、二五〇	六二〇、〇〇〇
9	23		四六、五〇〇	一〇、〇〇〇	五六、五〇〇	六一〇、〇〇〇
10	24		四五、七五〇	一九、〇〇〇	六四、七五〇	五九一、〇〇〇
11	25		四四、三五五	二〇、〇〇〇	六四、三五五	五七一、〇〇〇
12	26		四三、八二五	二一、〇〇〇	六四、八二五	五五〇、〇〇〇
13	27		四二、二五〇	二二、〇〇〇	六四、二五〇	五二七、〇〇〇
14	28		四一、三五五	二三、〇〇〇	六四、三五五	五〇三、〇〇〇
15	29		四〇、七二五	二四、〇〇〇	六四、七二五	四七九、〇〇〇
16	30		三五、七七五	二八、〇〇〇	六三、七七五	四四九、〇〇〇
17	31		三五、〇七五	二九、〇〇〇	六四、〇七五	四一〇、〇〇〇
18	32		三一、三〇〇	三一、〇〇〇	六二、三〇〇	三七九、〇〇〇
19	33		二九、一七五	三二、〇〇〇	六一、一七五	三四七、〇〇〇
20	34		二六、七七五	三四、〇〇〇	六〇、七七五	三一三、〇〇〇
21	35		二四、〇五五	三六、〇〇〇	六〇、〇五五	二七七、〇〇〇
22	36		二〇、六二五	九〇、〇〇〇	一一〇、六二五	一八七、〇〇〇
23	37		一三、八七五	九七、〇〇〇	一一〇、八七五	八八、〇〇〇
24	38		六、六〇〇	八〇、〇〇〇	八六、六〇〇	八、〇〇〇
25	39		六〇〇	八、〇〇〇	八、六〇〇	
計		六五〇、〇〇〇	八八三、九五〇	一、五三三、九五〇		

備考　一、公債利子ハ年率七分五厘トス

名古屋市第四回小學校建築公債條例

昭和二年八月二十日條例第六號　昭和三年一月二十一日條例第三號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ小學校及幼稚園建築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額參百八拾壹萬圓（實收額參百七拾參萬參千八百圓以上トス）

第三條　本公債ノ利息ハ年率七分五厘以內トシ募集ノ際之チ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ノ募集ハ大正十六年度ヨリ大正十八年度ニ至ル期間內實金ノ必要ニ應シ其ノ募集額チ定メ之チ募集ス

第五條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付九拾八圓以上トス但シ年利率ノ低下ニ應シ券面金額百圓ニ付九拾四圓迄低下スルコトチ得

第六條　本公債チ募集スルトキハ其旨チ公告シ應募者チ求メ申込價格ノ

高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第五條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部又ハ一部ヲ借入レ又ハ引受クシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ニハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受シメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出スヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分ヲ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ大正十九年度ヨリ同三十八年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ寶買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ證居若ハ女主人ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ金額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ書換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ書換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前條ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

第五章　短期債及借入金

第二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五ケ年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テ第四條ノ募集期限ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

附　則

第二十七條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章、第三章、第四章ヲ準用ス

第二十八條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	一六	一、七〇八、〇〇〇圓	六四、〇五〇圓	一、七〇八、〇〇〇圓	一、七七二、〇五〇圓	一、七〇八、〇〇〇圓
二	一七	九七一、〇〇〇	一六四、五二三	—	一六四、五二三	一、六七九、〇〇〇
三	一八	一、三二一、〇〇〇	二四三、三三八	—	二四三、三三八	一、八一〇、〇〇〇
四	一九	二六五、七五〇	二四、〇〇〇	三二九、七五〇	三五三、七五〇	一、七五六、〇〇〇
五	二〇	二八三、二〇〇	五九、〇五〇	三四二、二〇〇	三七七、〇五〇	一、七一七、〇〇〇
六	二一	二七八、七五五	五二、〇〇〇	三五九、七五五	三六六、八五五	一、六六〇、〇〇〇
七	二二	二七四、九五〇	六、〇〇〇	二八〇、九五〇	二八六、九五〇	一、六三〇、〇〇〇

八	三三	二七四、五〇〇	六、〇〇〇	二八〇、五〇〇	三、六五四、〇〇〇
九	二四	二七四、〇五〇	二、〇〇〇	二八五、〇五〇	二、六四三、〇〇〇
一〇	二五	二七三、三五	一七、〇〇〇	二九〇、三五	三、六三六、〇〇〇
一一	二六	二七二、九五〇	一九、〇〇〇	二九〇、九五〇	三、六〇七、〇〇〇
一二	二七	二七〇、五五	二三、〇〇〇	二九三、五五	三、五八四、〇〇〇
一三	二八	二六八、八〇〇	九五、〇〇〇	三六三、八〇〇	三、四九九、〇〇〇
一四	二九	二六一、六五	一四七、〇〇〇	四〇八、六五	三、三四二、〇〇〇
一五	三〇	二五〇、六五〇	一七五、〇〇〇	四二五、六五〇	三、一六七、〇〇〇
一六	三一	二三七、五五	五八七、五五〇	二、八一七、〇〇〇	
一七	三二	二二一、二五	四三、〇〇〇	六三三、二五	二、三九五、〇〇〇
一八	三三	一九九、六二五	四三、〇〇〇	六〇一、六二五	一、九三三、〇〇〇
一九	三四	一四七、九七五	四三、〇〇〇	五六九、九七五	一、五五一、〇〇〇
二〇	三五	一二六、三五	四三、〇〇〇	五三八、三五	一、一七九、〇〇〇
二一	三六	八四、六五	四三、〇〇〇	五〇六、六五	七〇七、〇〇〇
二二	三七	五三、〇五	四三、〇〇〇	四七六、〇五	二八五、〇〇〇
二三	三八	二一、三五	二八五、〇〇〇	三〇六、三五	—
計		三、八一〇、〇〇〇	四、九一、七二	三、八一〇、〇〇〇	八、六〇一、七二

名古屋市市區改正事業公債償還ニ關スル公債條例

昭和三年二月一日條例第五號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ市區改正事業公債ノ舊債償還ニ充ツ

第二條　本公債ノ手取額ハ五百六拾七萬圓以上トシ額面金額ヲ六百參萬壹千圓以内トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率五分五厘以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ハ昭和二年度ニ於テ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付金九拾四圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲシテ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス、但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第六條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他ノ者ヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム、但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス公共團體若クハ銀行ヲシテ公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利息ハ特別稅其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六月分宛ヲ支拂フ

本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス、第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ付セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和三年度ヨリ同二十七年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス、但シ市財政運用ノ都合上措置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入鎖却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス、但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ニ爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居者クハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ、但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此限ニ在ラス

前項ノ但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ以テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルト

キ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徴收ス

第二十四條 本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十五條 第二十一條第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十六條 本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

公債償還年次表

年次	年度	起債額	毎年度支出額			年度末未償還額
			利子支拂額	元金償還額	計	
一	昭和二	六,〇三一,〇〇〇円	—円	—円	—円	六,〇三一,〇〇〇円
二	三		三三一,七〇五	九一,〇〇〇	四二二,七〇五	五,九四〇,〇〇〇
三	四		三二六,七〇〇	九二,〇〇〇	四一八,七〇〇	五,八四八,〇〇〇
四	五		三二一,六四〇	九八,〇〇〇	四一九,六四〇	五,七五〇,〇〇〇
五	六		三一六,二五〇	一〇五,〇〇〇	四二一,二五〇	五,六四五,〇〇〇
六	七		三一〇,四七五	一三一,〇〇〇	四四一,四七五	五,五一四,〇〇〇
七	八		三〇三,二七〇	一二七,〇〇〇	四三〇,二七〇	五,三八七,〇〇〇
八	九		二九五,七三五	一五三,〇〇〇	四四八,七三五	五,二三四,〇〇〇
九	一〇		二八七,三一〇	一六〇,〇〇〇	四四七,三一〇	五,〇七四,〇〇〇
一〇	一一		二七八,五二〇	一六六,〇〇〇	四四四,五二〇	四,九〇八,〇〇〇
一一	一二		二六九,三九〇	一八二,〇〇〇	四五一,三九〇	四,七二六,〇〇〇
一二	一三		二五九,三八〇	一九三,〇〇〇	四五二,三八〇	四,五三三,〇〇〇
一三	一四		二四八,七六五	二〇九,〇〇〇	四五七,七六五	四,三二四,〇〇〇
一四	一五		二三七,二七〇	二二〇,〇〇〇	四五七,二七〇	四,一〇四,〇〇〇
一五	一六		二二五,一七〇	二三六,〇〇〇	四六一,一七〇	三,八六八,〇〇〇
一六	一七		二一二,一九〇	二七二,〇〇〇	四八四,一九〇	三,五九六,〇〇〇
一七	一八		一九七,二三〇	二九二,〇〇〇	四八九,二三〇	三,三〇四,〇〇〇
一八	一九		一八一,一七〇	三〇八,〇〇〇	四九八,一七〇	二,九八六,〇〇〇
一九	二〇		一六四,三三〇	三三三,〇〇〇	四九七,三三〇	二,六五三,〇〇〇
二〇	二一		一四五,九一五	三五三,〇〇〇	四九八,九一五	二,三〇〇,〇〇〇
二一	二二		一二六,五〇〇	三七八,〇〇〇	五〇四,五〇〇	一,九二二,〇〇〇
二二	二三		一〇五,七一〇	四〇八,〇〇〇	五一三,七一〇	一,五一四,〇〇〇
二三	二四		八三,二七〇	四三二,〇〇〇	五一五,二七〇	一,〇八二,〇〇〇
二四	二五		五九,五一〇	四六一,〇〇〇	五二〇,五一〇	六二一,〇〇〇
二五	二六		三四,一五五	四九四,〇〇〇	五二八,一五五	一二七,〇〇〇
二六	二七		六,九八五	一二七,〇〇〇	一三三,九八五	
計		六,〇三一,〇〇〇	五,三三八,四五五	六,〇三一,〇〇〇	一一,三六九,四五五	

名古屋市市區改正事業公債償還ニ關スル公債條例施行細則

昭和三年二月七日
告示第百二十號

第一條 昭和三年二月條例第五號名古屋市市區改正事業公債償還ニ關スル公債條例ニ依リ發行スル公債ハ之ヲ市區改正公債（波號）（に號）ト稱ス

第二條 本公債募集ノ場合ニ於テ大正十四年十月一日及大正十五年十月一日發行ノ市區改正公債（い號）（ろ號）ノ證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ未タ支拂期ノ到達セサル利札ノ欠缺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

額面五千圓ノ證書 五千百七拾五圓
額面壹千圓ノ證書 壹千參拾五圓
額面五百圓ノ證書 五百拾七圓五拾錢
額面百圓ノ證書 百參圓五拾錢

第三條 本公債條例第七條第二項ニ依リ之ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ仍前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條 本公債ノ元利支拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ之ヲ取扱フ

附 則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市下水道布設事業公債償還ニ關スル公債條例

昭和三年一月二十一日
條例第二號

第一章 總則

第一條 本公債ニ依ル收入ハ本市下水道布設事業公債ノ借換ニ充ツ

第二條 本公債ハ實收額金四拾參萬五千貳百圓トシ額面總額ノ四拾六萬參千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 本公債ノ利息ハ年率五分五厘以下トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章 募集

第四條 本公債ハ昭和二年度ニ於テ之ヲ募集ス

第五條 本公債發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九拾四圓以上トス

第六條 本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一

部ヲ借入レ又ハ引受シムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受シメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ由リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ヲ以テ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ仕拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債ノ募入及償還ノ際ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條第一項但書ニ依リ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和三年度ヨリ同十四年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通毎年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

前項但書ニ依リ借換ヲナス場合ニ於テ證券發行ヲ爲ストキハ本條例第二章乃至第四章ヲ準用ス

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第六條第二項ニ依リ引受ケヲ爲サシムル場合ニ於テハ證書ノ種類ハ前項ニ依ラサルコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若クハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲナスヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者其ノ證書又ハ利札ヲ滅失シタル場合ハ種類記號番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲナスコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚損シタルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付キ金五拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ仕拂ヲ停止ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十七條　第二十一條第二十二條及前條ハ保證金領收書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十八條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	二	四六三、〇〇〇円	一、一円		一、一円	四六三、〇〇〇円
二	三		二五、四六五	二五、〇〇〇	五〇、四六五	四六八、〇〇〇
三	四		二四、〇九〇	二五、〇〇〇	四九、〇九〇	四四三、〇〇〇
四	五		二三、七一五	二五、〇〇〇	四八、七一五	四一七、〇〇〇
五	六		二〇、七九〇	二五、〇〇〇	四五、七九〇	三九二、〇〇〇
六	七		一八、八六五	四〇、〇〇〇	五八、八六五	三五三、〇〇〇
七	八		一六、六六五	四四、〇〇〇	六〇、六六五	三〇九、〇〇〇

八	九		一四、二四五	四四、〇〇〇	五八、二四五	二二五、〇〇〇
九	一〇		二一、八二五	四四、〇〇〇	五五、八二五	一七一、〇〇〇
一〇	一一		九、四〇五	四八、〇〇〇	五七、四〇五	二三三、〇〇一
一一	一二		六、七九五	五三、〇〇〇	五九、七九五	七〇、〇〇〇
一二	一三		三、八五〇	五七、〇〇〇	六〇、八五〇	一三〇、〇〇〇
一三	一四		七一五	一三、〇〇〇	一三、七一五	—
計		四六三、〇〇〇	一七五、三九五	四六三、〇〇〇	六三八、三九五	

備考

一、利率ハ年五分五厘トス

名古屋市下水道布設事業公債償還ニ關スル公債條例施行細則

昭和三年二月七日
告示第百十七號

第一條　昭和三年一月條例第二號名古屋市下水道布設事業公債償還ニ關スル公債條例ニ依リ發行スル公債ハ之ヲ下水道公債（以下公債ト稱ス）ト稱ス

第二條　本公債募集ノ場合ニ於テ大正十四年九月一日發行名古屋市下水道公債ノ證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ未タ支拂期ノ到達セサル利札ノ欠缺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

額面五千圓ノ證書　五千百七拾五圓
額面壹千圓ノ證書　壹千參拾五圓
額面五百圓ノ證書　五百拾七圓五拾錢
額面百圓ノ證書　百參圓五拾錢

第三條　本公債條例第六條第二項ニ依リ之ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ仍前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條　本公債ノ元利支拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ之ヲ取扱フ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市電氣軌道事業公債整理償還ニ關スル公債條例

昭和二年十一月十二日
條例第八號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業ノ爲メ發行シタル公債ノ借換ニ充ツ

第二條　本公債ハ實收額千九百五拾四萬壹千百圓以上トシ額面貳千七拾八萬八千四百圓以内トス

第三條　本公債ノ利子ハ年率五分五厘以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ハ昭和二年度ニ於テ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面百圓ニ付金九拾四圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第六條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヽシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利子ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利子ハ電氣軌道事業收入ヲ以テ辨濟ス

第十二條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ仕拂フモノトス

第十三條　本公債ノ利子ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ仕拂フモノトス但シ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十五條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利子ヲ仕拂フ

第十四條　第十六條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十五條　本公債ノ元金ハ昭和三年度ヨリ同二十二年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ毎年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ抽籤ノ方法ニ依ラス市場ニ於テ買入償却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十六條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十七條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第十八條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十九條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第二十條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十一條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十三條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ仕拂ヲ停止ス

第二十五條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及前二條ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十六條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十七條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十二條第二項及第三項ヲ準用ス

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 計	年度末未償還額
	二	二〇、七八八、四〇〇円	円	円	円	円
一	三		一、一四三、三六二	四七八、四〇〇	一、六二一、七六二	二〇、三一〇、〇〇〇
二	四		一、一一七、〇五〇	五八〇、〇〇〇	一、六九七、〇五〇	一九、七三〇、〇〇〇
三	五		一、〇八五、一五〇	六四〇、〇〇〇	一、七二五、一五〇	一九、〇九〇、〇〇〇
四	六		一、〇四九、九五〇	六七〇、〇〇〇	一、七一九、九五〇	一八、四二〇、〇〇〇
五	七		一、〇一三、一〇〇	七三〇、〇〇〇	一、七四三、一〇〇	一七、六九〇、〇〇〇
六	八		九七二、九五〇	八〇〇、〇〇〇	一、七七二、九五〇	一六、八九〇、〇〇〇
七	九		九二八、九五〇	八六〇、〇〇〇	一、七八八、九五〇	一六、〇三〇、〇〇〇
八	一〇		八八一、六五〇	八九〇、〇〇〇	一、七七一、六五〇	一五、一四〇、〇〇〇
九	一一		八三二、七〇〇	九六〇、〇〇〇	一、七九二、七〇〇	一四、一八〇、〇〇〇
一〇	一二		七七九、九〇〇	一、〇三〇、〇〇〇	一、八〇九、九〇〇	一三、一五〇、〇〇〇
一一	一三		七二三、二五〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、八二三、二五〇	一二、〇五〇、〇〇〇
一二	一四		六六二、七五〇	一、一七〇、〇〇〇	一、八三二、七五〇	一〇、八八〇、〇〇〇
一三	一五		五九八、四〇〇	一、二四〇、〇〇〇	一、八三八、四〇〇	九、六四〇、〇〇〇
一四	一六		五三〇、二〇〇	一、三一〇、〇〇〇	一、八四〇、二〇〇	八、三三〇、〇〇〇
一五	一七		四五八、一五〇	一、四四〇、〇〇〇	一、八九八、一五〇	六、八九〇、〇〇〇
一六	一八		三七八、九五〇	一、五六〇、〇〇〇	一、九三八、九五〇	五、三三〇、〇〇〇
一七	一九		二九三、一五〇	一、六八〇、〇〇〇	一、九七三、一五〇	三、六五〇、〇〇〇
一八	二〇		二〇〇、七五〇	一、七一〇、〇〇〇	一、九一〇、七五〇	一、九四〇、〇〇〇
一九	二一		一〇六、七〇〇	一、八四〇、〇〇〇	一、九四六、七〇〇	一〇〇、〇〇〇
二〇	二二		五、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇五、五〇〇	—
計		二〇、七八八、四〇〇	一三、七六一、五六二	二〇、七八八、四〇〇	三四、五五〇、九六二	—

備考

一、發行價格　百圓ニ付　九拾四圓

一、利　率　年五分五厘

名古屋市電氣軌道事業公債整理償還ニ關スル公債條例施行細則

昭和二年十二月八日
告示第三百四十四號

第一條　昭和二年十一月本市條例第八號名古屋市電氣軌道事業公債整理償還ニ關スル公債條例ニ依リ發行スル公債ハ之ヲ名古屋市電氣軌道事業整理公債ト稱ス

第二條　本公債募集ノ場合ニ於テ大正十一年八月一日發行名古屋市公債は號同十五年八月三十日發行名古屋市第二回電氣軌道事業公債い號同年九月一日發行名古屋市第二回電氣軌道事業公債ろ號同年十月一日發行名古屋市第二回電氣軌道事業公債は號及昭和二年二月一日發行名古屋市第三回電氣軌道事業公債ノ各證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ仕拂期未到達ノ利札欠缺セルモノハ此ノ限ニアラス

額面壹萬圓ノ證書　壹萬貳百壹圓參拾六錢
額面五千圓ノ證書　五千百圓六拾八錢
額面壹千圓ノ證書　壹千貳拾圓拾參錢
額面五百圓ノ證書　五百拾圓六錢
額面百圓ノ證書　百貳圓壹錢
額面五拾圓ノ證書　五拾壹圓

第三條　本公債條例第七條第二項ニ依リ本公債ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條　本公債ニ對シテハ本證書ヲ交付スルニ至ル迄假證書ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ假證書ハ本證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第五條　本公債ノ元利仕拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ取拂フ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

名古屋市第二回小學校建築公債償還ニ關スル公債條例

昭和三年二月一日條例第六號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市第二回小學校建築公債ノ借換ニ充ツ

第二條　本公債ハ實收額金參百五拾貳萬五千九百圓ト額面總額參百七拾五萬千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　本公債ノ利子ハ年率五分五厘以下トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和二年度ニ於テ之ヲ募集ス

第五條　本公債發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九拾四圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受シメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利子ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ由リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利子ハ市稅及其他ノ收入ヲ以テ辨濟ハ

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利子ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ支拂フ

本公債募入及償還ノ際ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條第一項但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利子ヲ支拂フ

第十三條　當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟ス

ヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和三年度ヨリ同十七年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

前項但書ニ依リ書換ヲ爲ス場合ニ於テ證書發行ヲ爲ストキハ本條例第二章乃至第四章ヲ準用ス

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第六條第二項ニ依リ引受ナサシムル場合ニ於テハ證書ノ種類ハ前項ニ依ラサルコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ノ滅失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲナスコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚損シタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新調證書ノ書換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付キ金五拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十七條　第二十一條第二十二條及前條ノ保證金領收書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十八條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前條ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 計	年度末未償還額
一	二	三、七五一、〇〇〇円	一円	一円	一円	三、七五一、〇〇〇円
二	三		二〇六、三〇五	三〇、〇〇〇	二三六、三〇五	三、七二一、〇〇〇
三	四		二〇四、六五五	三五、〇〇〇	二三九、六五五	三、六八六、〇〇〇
四	五		二〇二、七三〇	四五、〇〇〇	二四七、七三〇	三、六四一、〇〇〇
五	六		二〇〇、二五五	五〇、〇〇〇	二五〇、二五五	三、五九一、〇〇〇
六	七		一九七、五〇五	一三〇、〇〇〇	三二七、五〇五	三、四六一、〇〇〇
七	八		一九〇、三五五	二二五、〇〇〇	四一五、三五五	三、二三六、〇〇〇
八	九		一七七、九八〇	二九〇、〇〇〇	四六七、九八〇	二、九四六、〇〇〇
九	一〇		一六二、〇三〇	三一〇、〇〇〇	四七二、〇三〇	二、六三六、〇〇〇
一〇	一一		一四四、九八〇	三三〇、〇〇〇	四七四、九八〇	二、三〇六、〇〇〇
一一	一二		一二六、八三〇	三五〇、〇〇〇	四七六、八三〇	一、九五六、〇〇〇
一二	一三		一〇七、五八〇	三八五、〇〇〇	四九二、五八〇	一、五七一、〇〇〇
一三	一四		八六、四〇五	四一〇、〇〇〇	四九六、四〇五	一、一六一、〇〇〇
一四	一五		六三、八五五	四三五、〇〇〇	四九八、八五五	七二六、〇〇〇
一五	一六		三九、九三〇	四六〇、〇〇〇	四九九、九三〇	二六六、〇〇〇
一六	一七		一四、六三〇	二六六、〇〇〇	二八〇、六三〇	
計		三、七五一、〇〇〇	二、一二六、〇二五	三、七五一、〇〇〇	五、八七七、〇二五	

備考

一、利率ハ年五分五厘

名古屋市第二回小學校建築公債償還ニ關スル公債條例施行細則

昭和三年二月七日
告示第百十八號

第一條　昭和三年二月條例第六號名古屋市第二回小學校建築公債償還ニ關スル公債條例ニ依リ發行スル公債ハ之ヲ第二回教育公債（波號）（に號）ト稱ス

第二條　本公債募集ノ場合ニ於テ大正十四年九月一日及大正十五年十月一日發行ノ第二回教育公債（波號）（に號）ノ證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ未タ支拂期ノ到達セサル利札ノ欠缺シタルモノハ此ノ限リニ在ラス

額面五千圓ノ證書　五千百七拾五圓
額面壹千圓ノ證書　壹千參拾五圓
額面五百圓ノ證書　五百拾七圓五拾錢
額面百圓ノ證書　百參圓五拾錢

第三條　本公債條例第六條第二項ニ依リ之ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ仍前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條　本公債ノ元利支拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ之ヲ取扱フ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市第三回小學校建築公債償還ニ關スル公債條例

昭和三年一月二十一日
條例第一號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市第三回小學校建築公債ノ借換ニ充ツ

第二條　本公債ハ實收額金貳百五拾八萬九千七百圓トシ額面總額貳百七拾五萬五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　本公債ノ利息ハ年率五分五厘以下トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和二年度ニ於テ之ヲ募集ス

第五條　本公債發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九拾四圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體、銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入レ又ハ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受シメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ由リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ

屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ヲ以テ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ仕拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債ノ募入及償還ノ際ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條第一項但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十三條　當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和四年度迄据置キ昭和五年度ヨリ同二十四年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通リ每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若クハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入鎖却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

前項但書ニ依リ借換ヲ爲ス場合ニ於テ證券發行ヲ爲ストキハ本條例第二章乃至第四章ヲ準用ス

第十五條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第六條第二項ニ依リ引受ケナサシムル場合ニ於テハ證書ノ種類ハ前項ニ依ラサルコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲナスヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ損失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲナスコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚損シタルトキハ其ノ他正當ノ事由アルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　記名證書ヲ無記名ニ、無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付キ金五拾錢ヲ徵收ス

第二十四條　第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ仕拂ヲ停止ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十七條　第二十一條第二十二條及前條ハ保證金領收書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十八條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前條ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

公債償還年次表

年次	年度	起債額	利子支拂額	每年度支出額 元金償還額	計	年度末未償還額
一	二	二、七五五、〇〇〇圓	圓 —	圓 —	圓 —	二、七五五、〇〇〇圓
二	三		一五二、五二五	—	一五二、五二五	二、七五五、〇〇〇
三	四		一五二、五二五	—	一五二、五二五	二、七五五、〇〇〇
四	五		一五一、五二五	二三、〇〇〇	一七四、五二五	二、七三二、〇〇〇
五	六		一五〇、二五〇	四二、〇〇〇	一九二、二五〇	二、六九〇、〇〇〇
六	七		一四八、〇〇五	五五、〇〇〇	二〇三、〇〇五	二、六三五、〇〇〇
七	八		一四六、〇八〇	四、〇〇〇	一五〇、〇八〇	二、六三一、〇〇〇
八	九		一四五、八六〇	四、〇〇〇	一四九、八六〇	二、六二七、〇〇〇
九	一〇		一四五、六四〇	八、〇〇〇	一五三、六四〇	二、六四〇、〇〇〇
一〇	一一		一四五、二〇〇	一三、〇〇〇	一五七、二〇〇	二、六二七、〇〇〇
一一	一二		一四四、五四〇	一四、〇〇〇	一五八、五四〇	二、六一四、〇〇〇
一二	一三		一四三、七七〇	一六、〇〇〇	一五九、七七〇	二、五九八、〇〇〇
一三	一四		一四二、八九〇	七四、〇〇〇	二一六、八九〇	二、五二四、〇〇〇
一四	一五		一三八、八三〇	二一、〇〇〇	二九、八三〇	二、四九三、〇〇〇
一五	一六		一三一、七二五	二六、〇〇〇	二五七、七二五	二、二三六、〇〇〇

一六	一七		一二五、五一〇	二五〇、〇〇〇	三七五、五一〇	二、〇三二、〇〇〇
一七	一八		一一一、七六〇	三〇二、〇〇〇	四一三、七六〇	一、七三〇、〇〇〇
一八	一九		九五、一五〇	三〇二、〇〇〇	三九七、一五〇	一、四二八、〇〇〇
一九	二〇		七八、五四〇	三一二、〇〇〇	三九〇、五四〇	一、一一六、〇〇〇
二〇	二一		六一、三八〇	三一二、〇〇〇	三七三、三八〇	八〇四、〇〇〇
二一	二二		四四、二二〇	三一二、〇〇〇	三五六、二二〇	四九二、〇〇〇
二二	二三		二七、〇六〇	三一二、〇〇〇	三三九、〇六〇	一八〇、〇〇〇
二三	二四		九、九〇〇	一八〇、〇〇〇	一八九、九〇〇	—
計		二、七五五、〇〇〇	二、五九一、八七五	二、七五五、〇〇〇	五、三四六、八七五	

名古屋市第三回小學校建築公債償還ニ關スル公債條例施行細則

昭和三年二月七日
告示第百十九號

第一條　昭和三年一月條例第一號名古屋市第三回小學校建築公債償還ニ關スル公債條例ニ依リ發行スル公債ハ之ヲ第三回教育公債（ハ號）ト稱ス

第二條　本公債募集ノ場合ニ於テ大正十五年十月一日發行ノ第三回教育公債ノ證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ未タ支拂期ノ到達セサル利札ノ欠缺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

額面五千圓ノ證書　五千百七拾五圓
額面壹千圓ノ證書　壹千參拾五圓
額面五百圓ノ證書　五百拾七圓五拾錢
額面百圓ノ證書　百參圓五拾錢

第三條　本公債條例第六條第二項ニ依リ之ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ仍前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條　本公債ノ元利支拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ之ヲ取扱フ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市水道事業公債條例施行細則

昭和三年二月七日
告示第百二十一號

第一條　大正十五年二月條例第一號名古屋市水道事業公債條例ニ依リ昭和三年二月二十八日發行スル公債ハ之ヲ第二回水道公債（波號）ト稱ス

第二條　本公債募集ノ場合ニ於テ昭和二年二月一日發行ノ第二回水道公債（ハ號）ノ證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ未タ支拂期ノ到達セサル利札ノ欠缺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

額面壹萬圓ノ證書　壹萬參百五拾圓
額面壹千圓ノ證書　壹千參拾五圓

第三條　本公債條例第七條第二項ニ依リ之ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ仍前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條　本公債ノ元利支拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ之ヲ取扱フ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市都市計畫運河事業公債條例施行細則

昭和三年二月七日
告示第百十七號

第一條　大正十四年十二月條例第八號名古屋市都市計畫運河事業公債條例ニ依リ昭和三年三月十六日發行スル公債ハ之ヲ運河公債（波號）（に號）（ほ號）ト稱ス

第二條　本公債募集ノ場合ニ於テ大正十四年十二月十五日發行ノ名古屋市運河公債ノ證書ハ左記ノ割合ヲ以テ本公債ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得但シ未タ支拂期ノ到達セサル利札ノ欠缺シタルモノハ此ノ限リニ在ラス

額面五千圓ノ證書　五千拾八圓四拾九錢
額面壹千圓ノ證書　壹千參圓六拾九錢

額面五百圓ノ證書　五百壹圓八拾四錢
額面壹百圓ノ證書　壹百圓參拾六錢

第三條　本公債條例第七條第二項ニ依リ之ヲ引受ケシメタル場合ニ於テモ仍前條ヲ適用スルコトヲ得

第四條　本公債ノ元利支拂ニ關スル事務ハ別ニ定ムル場所ニ於テ之ヲ取扱フ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

名古屋市第四回電氣軌道事業公債條例

昭和三年五月九日
條例第十號
改正　昭和五年六月十三日條例第七號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業ノ建設及改良費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額四百五拾七萬圓（實收額四百貳拾五萬壹百圓）以内トス

第三條　本公債ノ利子ハ年率六分五厘以下トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ノ募集ハ昭和二年度ヨリ同九年度ニ至ル期間内資金ノ必要ニ應シ其ノ募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面百圓ニ付九拾參圓以上トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第六條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受セシムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額元金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利子ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利子ハ電氣軌道事業收入ヲ以テ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ仕拂フモノトス

第十三條　本公債ノ利子ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月ヲ仕拂フモノトス但シ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十五條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利子ヲ仕拂フ但シ一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條　第十六條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十五條　本公債ノ元金ハ昭和七年度ヨリ同二十五年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ毎年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合ニ依リ据置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入鎖却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十六條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十七條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第十八條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十九條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第二十條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十一條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十三條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　前二條ノ場合ニ於テ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十五條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及前二條ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五十錢ヲ徵收ス

第二十六條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十七條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂込金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十二條第二項及第三項ヲ準用ス

附　則

市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ利率九分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

公債償還年次表

年次	年度	起算額	毎年度支出額 利子支拂額	毎年度支出額 元金償還額	毎年度支出額 計	年度末未償還額
一	二	一、二七〇、〇〇〇円	—円	—円	—円	一、二七〇、〇〇〇円
二	三	一、三九〇、〇〇〇	六五、九二七 四五、一七五	—	一一一、一〇二	二、六六〇、〇〇〇
三	四	五七〇、〇〇〇	一七二、九〇〇	—	一七二、九〇〇	三、二三〇、〇〇〇
四	五	一、三四〇、〇〇〇	二〇九、九五〇 四三、五五〇	—	二五三、五〇〇	四、五七〇、〇〇〇
五	六	—	二九七、〇五〇	—	二九七、〇五〇	四、五七〇、〇〇〇
六	七	—	二九七、〇五〇	一〇、〇〇〇	三〇七、〇五〇	四、五六〇、〇〇〇
七	八	—	二九六、四〇〇	二〇、〇〇〇	三一六、四〇〇	四、五四〇、〇〇〇

八　九	—	二九五、一〇〇	四〇、〇〇〇	三五五、一〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	
九一〇	—	二九二、三五〇	二一〇、〇〇〇	四二、三五〇	四、三八〇、〇〇〇	
一〇一一	一	二八四、七〇〇	一八〇、〇〇〇	四六四、七〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	
一一一二	—	二七三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四七三、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
一二一三	一	二六〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四七〇、〇〇〇	三、七九〇、〇〇〇	
一三一四	—	二四六、二五〇	三〇、〇〇〇	四六六、二五〇	三、五七〇、〇〇〇	
一四一五	一	二三三、〇五〇	三〇、〇〇〇	四六三、〇五〇	三、三四〇、〇〇〇	
一五一六	—	二一七、一〇〇	二五〇、〇〇〇	四六七、一〇〇	三、〇九〇、〇〇〇	
一六一七	—	二〇〇、九五〇	二七〇、〇〇〇	四七〇、九五〇	二、八三〇、〇〇〇	
一七一八	—	一八三、三〇〇	二九〇、〇〇〇	四七三、三〇〇	二、五三〇、〇〇〇	
一八一九	—	一六四、四五〇	三一〇、〇〇〇	四七四、四五〇	二、二一〇、〇〇〇	
一九二〇	—	一四四、三〇〇	三一〇、〇〇〇	四六四、三〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	
二〇二一	—	一二三、五〇〇	三四〇、〇〇〇	四六三、五〇〇	一、五八〇、〇〇〇	
二一二二	—	一〇一、四〇〇	三七〇、〇〇〇	四七一、四〇〇	一、二八〇、〇〇〇	
二二二三	—	七七、三五〇	四〇〇、〇〇〇	四七七、三五〇	七八〇、〇〇〇	
二三二四	—	五二、三五〇	四三〇、〇〇〇	四七二、三五〇	二八〇、〇〇〇	
二四二五	—	二四、〇五〇	三五〇、〇〇〇	三九四、〇五〇	—	
計	四、五七〇、〇〇〇	四、五九九、三五二	四、五七〇、〇〇〇	九、一六九、三五二	—	

備考

一、起債額ハ額面百圓ニ付實收額九拾參圓トシテ計算ス

一、公債利子ハ年率六分五厘トス

一、四年起債額五七〇、〇〇〇圓ハ年度末募集ノ見込ミニ付利子ヲ計上セス

名古屋市衞生事業公債條例

昭和三年五月九日
條例第十一號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ衞生事業ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額貳百八拾萬參千圓（實收額貳百六拾參萬四千八百貳拾圓以上）トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率七分以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ノ募集ハ昭和二年度ヨリ昭和五年度ニ至ル期間内資金ノ必要ニ應シ其ノ募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

第五條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付九拾四圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入シ又ハ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ依リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ支拂フ

本公債募入ノ初期及償還ノ際ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和六年度ヨリ同二十二年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ノ通毎年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居者ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類及記號番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキハ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徴收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前條ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

第五章　短期債借入金

第二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五ヶ年以内ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八分以内ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

附　則

第二十七條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十七條ノ二　本公債ハ大藏省預金部ノ引受ヲ請フコトヲ得此ノ場合ニ於ケル債券發行ノ方法償還ノ方法ハ資金供給ノ條件ニ依ル

第二十八條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	毎年度支出額 利子支拂額	毎年度支出額 元金償還額	毎年度支出額 計	年度末未償還額
一	二	四三五,〇〇〇円	—円	—円	—円	四三五,〇〇〇円
二	三	一,三八三,四〇〇	四九,五八五	—	四九,五八五	一,八一八,四〇〇
三	四	五二〇,八〇〇	一三六,三二七	—	一三六,三二七	二,三三九,二〇〇
四	五	四七三,八〇〇	一七一,三三六	—	一七一,三三六	二,八一三,〇〇〇
五	六		一九六,二一〇	一三,〇〇〇	二〇九,二一〇	二,七九〇,〇〇〇
六	七		一九五,三〇〇	三〇,〇〇〇	二二五,三〇〇	二,七六〇,〇〇〇
七	八		一九三,二〇〇	五〇,〇〇〇	二四三,二〇〇	二,七一〇,〇〇〇
八	九		一八九,七〇〇	七五,〇〇〇	二六四,七〇〇	二,六三五,〇〇〇
九	一〇		一八四,四五〇	一〇〇,〇〇〇	二八四,四五〇	二,五三五,〇〇〇
一〇	一一		一七七,四五〇	一二五,〇〇〇	三〇二,四五〇	二,四一〇,〇〇〇
一一	一二		一六八,七〇〇	一五〇,〇〇〇	三一八,七〇〇	二,二六〇,〇〇〇
一二	一三		一五八,二〇〇	一七五,〇〇〇	三三三,二〇〇	二,〇八五,〇〇〇
一三	一四		一四五,九五〇	二〇〇,〇〇〇	三四五,九五〇	一,八八五,〇〇〇
一四	一五		一三一,九五〇	二〇〇,〇〇〇	三三一,九五〇	一,六八五,〇〇〇
一五	一六		一一七,九五〇	二二五,〇〇〇	三四二,九五〇	一,四六〇,〇〇〇
一六	一七		一〇二,二〇〇	二二五,〇〇〇	三二七,二〇〇	一,二三五,〇〇〇
一七	一八		八六,四五〇	二五〇,〇〇〇	三三六,四五〇	九八五,〇〇〇
一八	一九		六八,九五〇	二五〇,〇〇〇	三一八,九五〇	七三五,〇〇〇
一九	二〇		五一,四五〇	二五〇,〇〇〇	三〇一,四五〇	四八五,〇〇〇
二〇	二一		三三,九五〇	二五〇,〇〇〇	二八三,九五〇	二三五,〇〇〇
二一	二二		一六,四五〇	二三五,〇〇〇	二五一,四五〇	—
計			二,五七五,六五八	二,八〇三,〇〇〇	五,三七八,六五八	—

名古屋市下水道幹線築造事業公債條例

昭和四年五月一日
條例第三號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ西部下水道幹線築造費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額貳百四拾貳萬五千圓（實收額貳百貳拾七萬九千五百圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分五厘以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募集

第四條　本公債ハ毎年度左ノ通募集ス但シ工事又ハ財政ノ都合ニ依リ毎年度ノ募集額ハ之ヲ繰上又ハ昭和六年度迄繰下ヲ爲スコトヲ得

昭和三年度　額面金四拾萬四千圓
昭和四年度　額面金五拾八萬五千圓
昭和五年度　額面金六拾壹萬七千圓
昭和六年度　額面金八拾壹萬九千圓

第五條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付九拾四圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第五條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入レ又ハ引受シムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ

對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受セシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ支拂フ

本公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和七年度ヨリ同二十二年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方ノ連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全部拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セムトスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交換ヲ請書スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前條ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

第五章　短期債及借入金

條二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定爭取額及豫定利率ヲ限度シ償還期限五ケ年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集ヲ以テ償還ス

附　則

第二十七條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十八條　本條例施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

名古屋市下水道幹線築造事業公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	昭和三	四四四、〇〇〇圓	一圓	一圓	一圓	四四四、〇〇〇圓
二	四	五八五、〇〇〇	四〇、七二八	—	四〇、七二八	九八九、〇〇〇
三	五	六二七、〇〇〇	八四、一七三	—	八四、一七三	一、六〇六、〇〇〇
四	六	八二九、〇〇〇	一三〇、七八九	—	一三〇、七八九	二、四三五、〇〇〇
五	七	一五七、六三五	九〇、〇〇〇	二四七、六三五	二、三五五、〇〇〇	
六	八	二五一、七七五	九七、〇〇〇	二四八、七七五	二、一三八、〇〇〇	
七	九	一四五、四七〇	一〇四、〇〇〇	二四九、四七〇	二、一三四、〇〇〇	
八	一〇	一三八、七一〇	一一〇、〇〇〇	二四八、七一〇	二、〇三四、〇〇〇	
九	一一	一三一、三五〇	一一八、〇〇〇	二四九、三五〇	一、九〇五、〇〇〇	
一〇	一二	一二三、八九〇	一二六、〇〇〇	二四九、八九〇	一、七八〇、〇〇〇	
一一	一三	一一五、六〇〇	一三四、〇〇〇	二四九、七〇〇	一、六四六、〇〇〇	

一三	一四	一〇六、九九〇	二四五、〇〇〇	二四九、九九〇	一、五〇三、〇〇〇	
一四	一五	九七、六九五	一五三、〇〇〇	二四九、六九五	一、三五二、〇〇〇	
一五	一六	八七、八三五	一六一、〇〇〇	二四八、八三五	一、一九〇、〇〇〇	
一六	一七	七七、三五〇	一七一、〇〇〇	二四八、三五〇	一、〇一九、〇〇〇	
一七	一八	六六、三五	一八一、〇〇〇	二四七、三五	八三八、〇〇〇	
一八	一九	五四、四五〇	一九一、〇〇〇	二四六、四五〇	六四六、〇〇〇	
一九	二〇	四一、九九〇	二〇三、〇〇〇	二四四、九九〇	四四三、〇〇〇	
二〇	二一	二八、七九五	二二五、〇〇〇	二四三、七九五	二三八、〇〇〇	
二一	二二	一四、八一〇	二三八、〇〇〇	二四二、八一〇		
計		二、四三五、〇〇〇	一、七九八、五八〇	二、四三五、〇〇〇	四、三二、五八〇	

備考

一、利率ハ年六分五厘トシテ計上ス

二、昭和三年度起債額ハ昭和四年五月一日起債ノ豫定ニテ利子十ケ月分ヲ昭和四年度ニ計上ス

三、昭和四、五、六年ニ於ケル起債ハ各其ノ年度九月一日起債ノ豫定ニテ利子ヲ計上ス

名古屋市都市計畫街路新設擴築及路面改良事業公債條例

昭和五年五月十七日條例第三號　改正　昭和五年九月二十五日條例第十號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ都市計畫街路新設擴築及路面改良事業費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額百五拾壹萬圓（實收額百四拾四萬九千六百圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募集

第四條　本公債ノ募集ハ昭和四年度及昭和五年度其ノ募集額ヲ定メ之ヲ募集ス

但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ昭和四年度募集額ノ全部若ハ一部ヲ昭和五年度迄繰下ケ起債スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ券面金額百圓ニ付金九拾六圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス

但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此場合ニ於テ募入金額第五條ノ券面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入レ又ハ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム

但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付ス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受シメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ券面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルモノハ券面金額百圓ニ付一日金參錢ノ滯納利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金支拂込期日ヨリ參拾日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ特別稅及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ支拂フ

本公債募入ノ初期竝ニ償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日數ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和九年度ヨリ同三十三年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通リ每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス

但シ市財政運用ノ都合上据置若ハ辨濟期間中ト雖モ臨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若クハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其期日公告ス

第四章　證書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ

但シ隱居若クハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非ラスシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ

但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ還付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元

金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若クハ市長ニ於テ特ニ必要ナリト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其他正當ノ事由アル場合其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ書換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ニ變更ヲ受クルトキ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若クハ書換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金參拾錢ヲ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本證書ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

第五章　短期債及借入金

第二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五ケ年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ年率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

附　則

第二十七條　短期債ノ募集辨濟方法ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十八條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

公債償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子仕拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	昭和四	九四、〇〇〇円	一円	一円	一円	九四、〇〇〇円
二	五	一、四一六、〇〇〇	四六、九〇八	—	四六、九〇八	一、五一〇、〇〇〇
三	六	—	九〇、六〇〇	—	九〇、六〇〇	一、五一〇、〇〇〇
四	七	—	九〇、六〇〇	—	九〇、六〇〇	一、五一〇、〇〇〇
五	八	—	九〇、六〇〇	—	九〇、六〇〇	一、五一〇、〇〇〇
六	九	—	九〇、六〇〇	四一、〇〇〇	一三一、六〇〇	一、四六九、〇〇〇
七	一〇	—	八八、一四〇	四三、〇〇〇	一三一、一四〇	一、四二六、〇〇〇
八	一一	—	八五、五六〇	四六、〇〇〇	一三一、五六〇	一、三八〇、〇〇〇
九	一二	—	八二、八〇〇	四九、〇〇〇	一三一、八〇〇	一、三三一、〇〇〇
一〇	一三	—	七九、八六〇	五二、〇〇〇	一三一、八六〇	一、二七九、〇〇〇
一一	一四	—	七六、七四〇	五五、〇〇〇	一三一、七四〇	一、二二四、〇〇〇
一二	一五	—	七三、四四〇	五八、〇〇〇	一三一、四四〇	一、一六六、〇〇〇
一三	一六	—	六九、九六〇	六二、〇〇〇	一三一、九六〇	一、一〇四、〇〇〇
一四	一七	—	六六、二四〇	六五、〇〇〇	一三一、二四〇	一、〇三九、〇〇〇
一五	一八	—	六二、三四〇	六九、〇〇〇	一三一、三四〇	九七〇、〇〇〇
一六	一九	—	五八、二〇〇	七三、〇〇〇	一三一、二〇〇	八九七、〇〇〇
一七	二〇	—	五三、八二〇	七八、〇〇〇	一三一、八二〇	八一九、〇〇〇
一八	二一	—	四九、一四〇	八二、〇〇〇	一三一、一四〇	七三七、〇〇〇
一九	二二	—	四四、二二〇	八七、〇〇〇	一三一、二二〇	六五〇、〇〇〇
二〇	二三	—	三九、〇〇〇	九二、〇〇〇	一三一、〇〇〇	五五八、〇〇〇
二一	二四	—	三三、四八〇	九九、〇〇〇	一三二、四八〇	四五九、〇〇〇
二二	二五	—	二七、五四〇	一〇五、〇〇〇	一三二、五四〇	三五四、〇〇〇
二三	二六	—	二一、二四〇	一一一、〇〇〇	一三二、二四〇	二四三、〇〇〇
二四	二七	—	一四、五八〇	一一八、〇〇〇	一三二、五八〇	一二五、〇〇〇
二五	二八	—	七、五〇〇	一二五、〇〇〇	一三二、五〇〇	—
計		一、五一〇、〇〇〇	一、四四三、一〇八	一、五一〇、〇〇〇	二、九五三、一〇八	—

備考

一、公債利子ハ年率六分トス

一、額面百圓ニ付九十六圓ノ割トス

一、昭和四年度起債ハ昭和五年五月二十日ノ豫定

一、昭和五年起債ハ同年九月一日ノ豫定

名古屋市水道第四期擴張事業公債條例

昭和五年九月二十二日　條例第九號　改正　昭和七年五月十四日　條例第十二號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ第四期水道擴張事業費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額參百四拾萬壹千圓（實收額金參百四拾萬壹千圓）トス

第三條　本公債ノ利子ハ年率六分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ハ左ノ年度割ノ通之ヲ募集ス但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ年額割ノ全部若ハ一部ヲ最終年度迄遞次繰下ケ起債スルコトヲ得

昭和五年度　百貳拾六萬七千圓

昭和六年度　百五拾壹萬六千圓

昭和七年度　六拾壹萬八千圓

第六條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付百圓トス

第七條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價額ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ

募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第六條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他適當ト認ムル者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入又ハ引受シムルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利子ヲ附セス

保證金ハ元金利拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第十條第三項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第九條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利子ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨届出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十一條　本公債ノ元金及利子ハ水道事業ノ收入及市一般歲入ヲ以テ之ヲ辨濟ス

第十二條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十三條　本公債ノ利子ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ本公債募入ノ初期ニ於ケル一期未滿ノ利子ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條　第十五條ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利子ヲ支拂フ

第十四條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利子ヲ附セス

第十五條　本公債ノ元金ハ昭和十三年度ヨリ同十九年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ノ通リ每年三月一日抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス

但シ市財政運用ノ都合ニ依リ據置若ハ辨濟ノ期間中ト雖隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ或ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十六條　當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトセルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十七條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第十八條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十九條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第二十條　記名證書所持者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人トナシ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十一條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十二條　本公債證書ノ所有者其ノ證書ノ紛失若ハ亡失ノ場合ハ其ノ種類、記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限リニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セムトスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項保證人ハ除權判決取消シタリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十三條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニアリテハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受ケタルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ受ケタルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ同收ス

第二十六條　第二十一條、第二十二條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シ之ヲ準用ス

第二十七條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ利率六分五厘以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第五條ノ募集期間ハ短期債又ハ募入金ノ償還終期マテ之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第一項ノ場合ト雖別表ノ償還年次表ニ定ムル每年度ノ償還額ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額			年度末未償還額
			利子支拂額	元金償還額	計	
一	昭和五	一、三五七、〇〇〇圓	六ケ月分 四一、一七八圓	圓	圓	一、三五七、〇〇〇圓
二	六	一、三五二、〇〇〇 同	八三、三五五 四九、二七〇	—	—	一、三五二、〇〇〇
三	七	六八、〇〇〇 同	一八〇、八九五 二〇、〇八五	—	—	二〇〇、九二〇
四	八	—	三三、〇六五	—	—	三三、〇六五
五	九	—	三三、〇六五	—	—	三三、〇六五
六	一〇	—	三三、〇六五	—	—	三三、〇六五
七	二	—	三三、〇六五	—	—	三三、〇六五

八	一二	—	二二一、〇六五	—	二二一、〇六五	三、四〇一、〇〇〇
九	一三	—	二二一、〇六五	一〇、〇〇〇	二三一、〇六五	三、三九一、〇〇〇
一〇	一四	—	二二〇、四一四	三八、〇〇〇	二五八、四一五	三、三五三、〇〇〇
一一	一五	—	二一七、九四五	五一、〇〇〇	二六八、九四五	三、三〇二、〇〇〇
一二	一六	—	二一四、六三〇	七五一、〇〇〇	九六五、六三〇	二、五五一、〇〇〇
一三	一七	—	一六五、八五一	一、〇六〇、〇〇〇	一、二二五、八一五	一、四九一、〇〇〇
一四	一八	—	九六、九一五	一、二〇〇、〇〇〇	一、二九六、九一五	二九一、〇〇〇
一五	一九	—	一八、九一五	二九一、〇〇〇	三〇九、九一五	—
計		三、四〇一、〇〇〇	二、六三四、八〇八	三、四〇一、〇〇〇	六、〇三五、八〇八	—

備考

一、公債利子ハ年率六分五厘トシ額面百圓ニ付實收百圓トス

二、初年度ノ利子ハ六ケ月分ヲ計上ス

名古屋都市計畫街路新設擴築及路面改良事業第二公債條例

昭和六年八月十九日
條例第十三號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ都市計畫水主町線街路新設事業費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額參拾四萬貳千圓（實收額參拾貳萬八千參百貳拾圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和六年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ事業ノ都合ニ依リ翌年度ニ繰下ケ起債スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾六圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入レ又ハ引受シムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保書金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ參拾日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ特別稅其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期並ニ償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條但シ書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十二條　第十四條ニ依リ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和十年度ヨリ同二十四年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　前條ニ依ル抽籤償還ハ毎年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス前項但書ハ元金辨濟請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受クルトキ

名古屋都市計畫街路新設擴築及路面改良事業第二公債條例

條例第八六號　昭和九年六月二日

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ都市計畫街路新設擴築事業費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額八拾貳萬四千五百圓（實收額七拾九萬五千四百圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年參分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本公債ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ募集スル但シ事業其他ノ都合ニ依リ次年度ニ繰越起債スルコトヲ得

第五條　本公債ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾七圓以上トス

第二章　募集

第六條　此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期マデノ期間ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ延長スル短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還スル但シ此ノ場合ハ本公債ノ償還年次表ノ通リ償還スルモノトス

第七條　本公債ノ應募者ハ申込ノ際保證金ヲ拂フヲ要ス但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ償還年次表ノ通リ償還スルモノトス

第八條　保證金ハ額面金額百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ違約利息ヲ拂込期日ヨリ參拾日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

第十條　本公債ノ應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ參拾日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

第十一條　本公債ノ應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨濟

第十二條　本公債ノ元金及利息ハ市稅其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十三條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分宛ヲ支拂フ

本公債ノ募入ノ利益ニ關スル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條　本公債ハ額面金額八拾貳萬四千五百圓（實收額七拾九萬五千四百圓）以下トス

第十五條　本公債ノ利息ハ年參分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度ニ限リ豫定手取額及豫定利率ヲ變更シ償還期限五ケ年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ年參分六厘以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第四章　短期債及借入金

第十七條　短期債ノ募集竝償還ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

附則

第十八條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 利子支拂額	每年度支出額 計額	償還年度末現在額
一	昭和六	四八二、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一八、六〇〇円	一九、六〇〇円	四八一、〇〇〇円
二	七		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四八〇、〇〇〇
三	八		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七九、〇〇〇
四	九		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七八、〇〇〇
五	10		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七七、〇〇〇
六	11		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七六、〇〇〇
七	12		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七五、〇〇〇
八	13		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七四、〇〇〇
九	14		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七三、〇〇〇
10	15		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七二、〇〇〇
11	16		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七一、〇〇〇
12	17		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四七〇、〇〇〇
13	18		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六九、〇〇〇
14	19		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六八、〇〇〇
15	20		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六七、〇〇〇
16	21		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六六、〇〇〇
17	22		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六五、〇〇〇
18	23		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六四、〇〇〇
19	24		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六三、〇〇〇
20	25		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六二、〇〇〇
21	26		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六一、〇〇〇
22	27		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四六〇、〇〇〇
23	28		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五九、〇〇〇
24	29		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五八、〇〇〇
25	30		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五七、〇〇〇
26	31		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五六、〇〇〇
27	32		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五五、〇〇〇
28	33		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五四、〇〇〇
29	34		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五三、〇〇〇
30	35		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五二、〇〇〇
31	36		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五一、〇〇〇
32	37		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四五〇、〇〇〇
33	38		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四九、〇〇〇
34	39		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四八、〇〇〇
35	40		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四七、〇〇〇
36	41		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四六、〇〇〇
37	42		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四五、〇〇〇
38	43		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四四、〇〇〇
39	44		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四三、〇〇〇
40	45		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四二、〇〇〇
41	46		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四一、〇〇〇
42	47		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四四〇、〇〇〇
43	48		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三九、〇〇〇
44	49		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三八、〇〇〇
45	50		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三七、〇〇〇
46	51		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三六、〇〇〇
47	52		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三五、〇〇〇
48	53		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三四、〇〇〇
49	54		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三三、〇〇〇
50	55		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三二、〇〇〇
51	56		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三一、〇〇〇
52	57		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四三〇、〇〇〇
53	58		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二九、〇〇〇
54	59		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二八、〇〇〇
55	60		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二七、〇〇〇
56	61		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二六、〇〇〇
57	62		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二五、〇〇〇
58	63		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二四、〇〇〇
59	64		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二三、〇〇〇
60	65		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二二、〇〇〇
61	66		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二一、〇〇〇
62	67		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四二〇、〇〇〇
63	68		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一九、〇〇〇
64	69		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一八、〇〇〇
65	70		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一七、〇〇〇
66	71		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一六、〇〇〇
67	72		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一五、〇〇〇
68	73		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一四、〇〇〇
69	74		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一三、〇〇〇
70	75		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一二、〇〇〇
71	76		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一一、〇〇〇
72	77		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四一〇、〇〇〇
73	78		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇九、〇〇〇
74	79		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇八、〇〇〇
75	80		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇七、〇〇〇
76	81		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇六、〇〇〇
77	82		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇五、〇〇〇
78	83		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇四、〇〇〇
79	84		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇三、〇〇〇
80	85		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇二、〇〇〇
81	86		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇一、〇〇〇
82	87		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	四〇〇、〇〇〇
83	88		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九九、〇〇〇
84	89		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九八、〇〇〇
85	90		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九七、〇〇〇
86	91		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九六、〇〇〇
87	92		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九五、〇〇〇
88	93		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九四、〇〇〇
89	94		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九三、〇〇〇
90	95		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九二、〇〇〇
91	96		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九一、〇〇〇
92	97		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三九〇、〇〇〇
93	98		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八九、〇〇〇
94	99		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八八、〇〇〇
95	100		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八七、〇〇〇
96	101		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八六、〇〇〇
97	102		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八五、〇〇〇
98	103		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八四、〇〇〇
99	104		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八三、〇〇〇
100	105		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八二、〇〇〇
101	106		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八一、〇〇〇
102	107		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三八〇、〇〇〇
103	108		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七九、〇〇〇
104	109		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七八、〇〇〇
105	110		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七七、〇〇〇
106	111		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七六、〇〇〇
107	112		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七五、〇〇〇
108	113		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七四、〇〇〇
109	114		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七三、〇〇〇
110	115		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七二、〇〇〇
111	116		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七一、〇〇〇
112	117		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三七〇、〇〇〇
113	118		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六九、〇〇〇
114	119		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六八、〇〇〇
115	120		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六七、〇〇〇
116	121		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六六、〇〇〇
117	122		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六五、〇〇〇
118	123		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六四、〇〇〇
119	124		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六三、〇〇〇
120	125		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六二、〇〇〇
121	126		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六一、〇〇〇
122	127		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三六〇、〇〇〇
123	128		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五九、〇〇〇
124	129		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五八、〇〇〇
125	130		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五七、〇〇〇
126	131		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五六、〇〇〇
127	132		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五五、〇〇〇
128	133		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五四、〇〇〇
129	134		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五三、〇〇〇
130	135		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五二、〇〇〇
131	136		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五一、〇〇〇
132	137		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三五〇、〇〇〇
133	138		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四九、〇〇〇
134	139		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四八、〇〇〇
135	140		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四七、〇〇〇
136	141		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四六、〇〇〇
137	142		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四五、〇〇〇
138	143		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四四、〇〇〇
139	144		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四三、〇〇〇
140	145		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四二、〇〇〇
141	146		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四一、〇〇〇
142	147		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三四〇、〇〇〇
143	148		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三九、〇〇〇
144	149		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三八、〇〇〇
145	150		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三七、〇〇〇
146	151		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三六、〇〇〇
147	152		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三五、〇〇〇
148	153		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三四、〇〇〇
149	154		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三三、〇〇〇
150	155		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三二、〇〇〇
151	156		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三一、〇〇〇
152	157		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三三〇、〇〇〇
153	158		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二九、〇〇〇
154	159		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二八、〇〇〇
155	160		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二七、〇〇〇
156	161		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二六、〇〇〇
157	162		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二五、〇〇〇
158	163		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二四、〇〇〇
159	164		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二三、〇〇〇
160	165		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二二、〇〇〇
161	166		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二一、〇〇〇
162	167		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三二〇、〇〇〇
163	168		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一九、〇〇〇
164	169		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一八、〇〇〇
165	170		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一七、〇〇〇
166	171		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一六、〇〇〇
167	172		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一五、〇〇〇
168	173		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一四、〇〇〇
169	174		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一三、〇〇〇
170	175		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一二、〇〇〇
171	176		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一一、〇〇〇
172	177		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三一〇、〇〇〇
173	178		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇九、〇〇〇
174	179		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇八、〇〇〇
175	180		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇七、〇〇〇
176	181		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇六、〇〇〇
177	182		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇五、〇〇〇
178	183		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇四、〇〇〇
179	184		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇三、〇〇〇
180	185		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇二、〇〇〇
181	186		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇一、〇〇〇
182	187		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	三〇〇、〇〇〇
183	188		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九九、〇〇〇
184	189		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九八、〇〇〇
185	190		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九七、〇〇〇
186	191		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九六、〇〇〇
187	192		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九五、〇〇〇
188	193		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九四、〇〇〇
189	194		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九三、〇〇〇
190	195		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九二、〇〇〇
191	196		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九一、〇〇〇
192	197		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二九〇、〇〇〇
193	198		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八九、〇〇〇
194	199		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八八、〇〇〇
195	200		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八七、〇〇〇
196	201		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八六、〇〇〇
197	202		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八五、〇〇〇
198	203		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八四、〇〇〇
199	204		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八三、〇〇〇
200	205		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八二、〇〇〇
201	206		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八一、〇〇〇
202	207		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二八〇、〇〇〇
203	208		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七九、〇〇〇
204	209		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七八、〇〇〇
205	210		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七七、〇〇〇
206	211		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七六、〇〇〇
207	212		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七五、〇〇〇
208	213		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七四、〇〇〇
209	214		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七三、〇〇〇
210	215		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七二、〇〇〇
211	216		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七一、〇〇〇
212	217		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二七〇、〇〇〇
213	218		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六九、〇〇〇
214	219		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六八、〇〇〇
215	220		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六七、〇〇〇
216	221		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六六、〇〇〇
217	222		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六五、〇〇〇
218	223		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六四、〇〇〇
219	224		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六三、〇〇〇
220	225		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六二、〇〇〇
221	226		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六一、〇〇〇
222	227		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二六〇、〇〇〇
223	228		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五九、〇〇〇
224	229		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五八、〇〇〇
225	230		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五七、〇〇〇
226	231		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五六、〇〇〇
227	232		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五五、〇〇〇
228	233		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五四、〇〇〇
229	234		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五三、〇〇〇
230	235		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五二、〇〇〇
231	236		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五一、〇〇〇
232	237		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二五〇、〇〇〇
233	238		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四九、〇〇〇
234	239		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四八、〇〇〇
235	240		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四七、〇〇〇
236	241		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四六、〇〇〇
237	242		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四五、〇〇〇
238	243		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四四、〇〇〇
239	244		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四三、〇〇〇
240	245		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四二、〇〇〇
241	246		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四一、〇〇〇
242	247		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二四〇、〇〇〇
243	248		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三九、〇〇〇
244	249		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三八、〇〇〇
245	250		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三七、〇〇〇
246	251		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三六、〇〇〇
247	252		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三五、〇〇〇
248	253		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三四、〇〇〇
249	254		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三三、〇〇〇
250	255		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三二、〇〇〇
251	256		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三一、〇〇〇
252	257		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二三〇、〇〇〇
253	258		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二九、〇〇〇
254	259		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二八、〇〇〇
255	260		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二七、〇〇〇
256	261		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二六、〇〇〇
257	262		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二五、〇〇〇
258	263		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二四、〇〇〇
259	264		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二三、〇〇〇
260	265		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二二、〇〇〇
261	266		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二一、〇〇〇
262	267		一、〇〇〇	一七、六一〇	一八、六一〇	二二〇、〇〇〇
263	268		一、〇〇〇	一七

第十三條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對シ利息ヲ支拂フ

第十二條　第十四條ニ依リ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和十二年度ヨリ同三十一年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　前條ニ依ル抽籤償還ハ毎年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ

但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ滅失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受クルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

第二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ償還期限五ケ年以内ニ於テ當該年度手取額及年率七分五厘以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四條ノ募集期間ハ短期債ノ償還終期マテ之ヲ延長ス

前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス但シ此ノ場合ト雖別表ノ償還年次表ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二十七條　短期債ニシテ債券發行ノ方法ニ依ル場合ハ其ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十八條　短期債ニシテ債券發行ニ依ラサル場合ハ之ヲ債券發行ノ方法ニ依ルコトニ變更スルコトヲ得

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年度	起債額	毎年度支出額 元金償還額	利子支拂額	計	年度末未償還額
昭和八	八二〇、〇〇〇円	一円	一円	一円	八二〇、〇〇〇円
九		一	三九、九七五	三九、九七五	八二〇、〇〇〇
一〇		一	五三、三〇〇	五三、三〇〇	八二〇、〇〇〇
一一		一	五三、三〇〇	五三、三〇〇	八二〇、〇〇〇
一二		二〇、〇〇〇	五三、三〇〇	七三、三〇〇	八〇〇、〇〇〇
一三		二三、〇〇〇	五二、〇〇〇	七四、〇〇〇	七七八、〇〇〇
一四		二五、〇〇〇	五〇、五七〇	七五、五七〇	七五三、〇〇〇
一五		二七、〇〇〇	四八、九四五	七五、九四五	七二六、〇〇〇
一六		二九、〇〇〇	四七、一九〇	七六、一九〇	六九七、〇〇〇
一七		三一、〇〇〇	四五、三〇五	七六、三〇五	六六六、〇〇〇
一八		三四、〇〇〇	四三、二九〇	七七、二九〇	六三二、〇〇〇
一九		三六、〇〇〇	四一、〇八〇	七七、〇八〇	五九六、〇〇〇
二〇		三八、〇〇〇	三八、七四〇	七六、七四〇	五五八、〇〇〇
二一		四〇、〇〇〇	三六、二七〇	七六、二七〇	五一八、〇〇〇
二二		四二、〇〇〇	三三、六七〇	七五、六七〇	四七六、〇〇〇
二三		四四、〇〇〇	三〇、九四〇	七四、四九〇	四三二、〇〇〇
二四		四七、〇〇〇	二八、〇八〇	七五、〇八〇	三八五、〇〇〇
二五		四九、〇〇〇	二五、〇二五	七四、〇二五	三三六、〇〇〇
二六		五一、〇〇〇	二一、八四〇	七二、八四〇	二八五、〇〇〇
二七		五三、〇〇〇	一八、五二五	七一、五二五	二三二、〇〇〇
二八		五五、〇〇〇	一五、〇八〇	七〇、〇八〇	一七七、〇〇〇

元		五七、〇〇〇	二、三〇五	六八、三〇五	二〇、〇〇〇
三〇		五九、〇〇〇	七、八〇〇	六六、八〇〇	六一、〇〇〇
三一		六一、〇〇〇	三、九六五	六四、九六五	—
計	八二〇、〇〇〇	八二〇、〇〇〇	七九八、六九五	一、六二九、六九五	—

備考

一、利子ハ年率六分五厘トス

二、九年度利子ハ九ケ月分ヲ計上

名古屋都市計畫運河事業公債償還ニ關スル公債條例

昭和六年十月二十一日條例第十六號

改正　昭和七年三月十日條例第三號　昭和七年十一月七日條例第十四號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ都市計畫運河事業公債ノ舊債償還ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額千貳拾貳萬五千圓（實收額九百八拾壹萬六千圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募集

第四條　本公債ハ昭和六年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ都合ニ依リ市長ニ於テ募集期間ヲ翌年度迄延長スルコトヲ得

第五條　本公債ノ發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾六圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノ者ヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入レ又引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

公共團體若ハ銀行ヲシテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ仕拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ參拾日ヲ經過スルニ因リ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ特別稅其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨償ス

第十一條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分ヲ前六ケ月分宛ヲ仕拂フ

本公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條　但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ仕拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和十年度ヨリ同二十九年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上據置若ハ辨濟期間中ト雖隨時之ヲ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十四條　前條ニ依ル抽籤償還ハ三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證書

第十五條　本公債證書ノ樣式ハ無記名利札付トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケメルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ亡失ノ場合ニ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セムトスルモノハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受クルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書壹通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條 本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ仕拂フ

前項ノ申立人ニ仕拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

附 則

第二十六條 市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ豫定手取額及年率六分五厘ヲ限度トシ償還期限五箇年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ募入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ募入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル毎年ノ償還額ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章及第四章ヲ準用ス

第二十七條 本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	毎年度支出額 元金償還額	利子支拂額	計	年度末未償還額
一	昭和六	10,225,000円	—円	178,938円	178,938円	10,225,000円
二	七		—	613,500	613,500	10,225,000
三	八		—	613,500	613,500	10,225,000
四	九		—	613,500	613,500	10,225,000
五	10		275,000	613,500	888,500	9,950,000
六	一一		290,000	597,000	887,000	9,660,000
七	一二		310,000	579,600	889,600	9,350,000
八	一三		325,000	561,000	886,000	9,025,000
九	一四		345,000	541,500	886,500	8,680,000
10	一五		365,000	520,800	885,800	8,315,000
一一	一六		390,000	498,900	888,900	7,925,000
一二	一七		415,000	475,500	890,500	7,510,000
一三	一八		445,000	450,600	895,600	7,065,000
一四	一九		465,000	423,900	888,900	6,600,000
一五	二0		495,000	396,000	891,000	6,105,000
一六	二一		530,000	366,300	896,300	5,575,000
一七	二二		560,000	334,500	894,500	5,015,000
一八	二三		595,000	300,900	895,900	4,420,000
一九	二四		635,000	265,200	900,200	3,785,000
二0	二五		670,000	227,100	897,100	3,115,000
二一	二六		715,000	186,900	901,900	2,400,000
二二	二七		755,000	144,000	899,000	1,645,000
二三	二八		800,000	98,700	898,700	845,000
二四	二九		845,000	50,700	895,700	
計			10,225,000	9,652,038	19,877,038	

備考
一、公債利子ハ年率六朱トス
一、昭和六年度分利子ハ三ヶ月半分ヲ計上ス

名古屋市第五回電氣軌道事業公債條例

昭和六年十一月十六日 條例第十八號

第一章 總則

第一條 本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業ノ建設及改良費ニ充ツ

第二條 本公債ハ額面金額六拾萬圓（實收額五拾七萬圓）以下トス

第三條 本公債ノ利息ハ年率六分內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章 募集

第四條 本公債ハ昭和六年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ工事又ハ財政ノ都合上翌年度ニ繰越シ起債スルコトヲ得

第五條 本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾五圓以上トス

第六條 本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團体又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條 本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條 保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條 本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シハルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屆出ツヘシ

第三章 辨濟

第十條 本公債ノ元金及利息ハ電氣軌道事業收入其ノ他一般歲入ヲ以テ辨濟ス

第十一條 本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ヶ月分ヲ支拂モノトス但シ公債募入ノ初期竝償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ記算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十一年度ヨリ同二十九年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合ニ依リ据置若ハ辨償期間中ト雖隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ毎年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無効トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以内ノ短期債ヲ起シ又ハ利率八分以内ノ募入金ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖別紙償還年次表ニ定ムル毎年度ノ元金償還ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 計	年度末未償還額
一	昭和六	六〇〇,〇〇〇円	九,〇〇〇円	—円	九,〇〇〇円	六〇〇,〇〇〇円
二	七		三六,〇〇〇	—	三六,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
三	八		三六,〇〇〇	—	三六,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
四	九		三六,〇〇〇	—	三六,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
五	一〇		三六,〇〇〇	—	三六,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
六	一一		三六,〇〇〇	一七,八〇〇	五三,八〇〇	五八二,二〇〇
七	一二		三四,九三二	一八,八〇〇	五三,七三二	五六三,四〇〇
八	一三		三三,八〇四	二〇,〇〇〇	五三,八〇四	五四三,四〇〇
九	一四		三二,六〇四	二一,二〇〇	五三,八〇四	五二二,二〇〇
一〇	一五		三一,三三二	二二,四〇〇	五三,七三二	四九九,八〇〇
一一	一六		二九,九八八	二三,八〇〇	五三,七八八	四七六,〇〇〇
一二	一七		二八,五六〇	二五,二〇〇	五三,七六〇	四五〇,八〇〇
一三	一八		二七,〇四八	二六,七〇〇	五三,七四八	四二四,一〇〇
一四	一九		二五,四四六	二八,三〇〇	五三,七四六	三九五,八〇〇
一五	二〇		二三,七四八	三〇,〇〇〇	五三,七四八	三六五,八〇〇
一六	二一		二一,九四八	三一,八〇〇	五三,七四八	三三四,〇〇〇
一七	二二		二〇,〇四〇	三三,七〇〇	五三,七四〇	三〇〇,三〇〇
一八	二三		一八,〇一八	三五,八〇〇	五三,八一八	二六四,五〇〇
一九	二四		一五,八七〇	三七,九〇〇	五三,七七〇	二二六,六〇〇
二〇	二五		一三,五九六	四〇,二〇〇	五三,七九六	一八六,四〇〇

三二	三六		二、一八四	四二、六〇〇	五三、七八四	一四二、八〇〇
三三	三七		八、四二八	四五、二〇〇	五三、八二八	九八、六〇〇
三三	三八		五、九二六	四七、九〇〇	五三、八二六	五〇、七〇〇
三四	三九		三、〇四三	五〇、七〇〇	五三、七四三	
計		六〇〇、〇〇〇	五七四、七〇四	六〇〇、〇〇〇	一、一七四、七〇四	

備考
一、年率ハ六分トス

名古屋市水道淨配水設備擴張事業公債條例

昭和七年十二月八日
條例第十五號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル水道淨配水設備擴張費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額九拾貳萬圓（實收額八拾九萬貳千四百圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募集

第四條　本公債ハ左ノ年度割ノ通リ之ヲ募集ス但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ年度割額ノ全部若ハ一部ヲ最終年度迄繰下ケ起債スルコトヲ得

昭和七年度　貳拾五萬五千圓

同　八年度　六拾六萬五千圓

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾七圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屬出ツヘシ

第三章　辨濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ水道事業收入及市一般歲入ヲ以ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期或償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ計算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十六年度ヨリ同二十年度迄ニ抽籤又ハ買入銷却ノ方法ヲ以テ償還ス但シ市財政運用ノ都合ニ依リ據置又ハ辨濟期間中ト雖隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ毎年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無効トス

第二十六條 本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附則

第二十七條 市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額以內ノ額面金額ヲ以テ償還期間五ケ年度年率八分以內ノ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

第二十八條 本公債ニ關スル規定ハ短期債ニ之ヲ準用ス

第二十九條 本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 元金償還額	每年度支出額 利子支拂額	每年度支出額 計	年度末未償還額
一	昭和七	二五五、〇〇〇		五、五二五	五、五二五	二五五、〇〇〇
二	八	六六五、〇〇〇		三〇、九八四	三〇、九八四	九二〇、〇〇〇
三	九			五九、八〇〇	五九、八〇〇	九二〇、〇〇〇
四	一〇			五九、八〇〇	五九、八〇〇	九二〇、〇〇〇
五	一一			五九、八〇〇	五九、八〇〇	九二〇、〇〇〇
六	一二			五九、八〇〇	五九、八〇〇	九二〇、〇〇〇
七	一三			五九、八〇〇	五九、八〇〇	九二〇、〇〇〇
八	一四			五九、八〇〇	五八、八〇〇	九二〇、〇〇〇
九	一五			五九、八〇〇	五九、八〇〇	九二〇、〇〇〇
一〇	一六		三七、〇〇〇	五九、八〇〇	五九、八〇〇	八八三、〇〇〇
一一	一七		三七、〇〇〇	五七、三九五	九四、三九五	八四六、〇〇〇
一二	一八		一一四、〇〇〇	五四、九九〇	一六八、九九〇	七三二、〇〇〇
一三	一九		四五〇、〇〇〇	四七、五八〇	四九七、五八〇	二八二、〇〇〇
一四	二〇		二八二、〇〇〇	一八、三三〇	三〇〇、三三〇	
計		九二〇、〇〇〇	九二〇、〇〇〇	六九三、二〇四	一、六一三、二〇四	

備考

一、利率ハ年六分五厘計算

名古屋市第五回小學校建築公債條例

昭和七年四月二十日 條例第九號

第一章 總則

第一條 本公債ニ依ル收入ハ小學校建築費ニ充ツ

第二條 本公債ハ額面金額百八拾壹萬五千四百圓（實收額百七拾六萬九百參拾八圓）以下トス

第三條 本公債ノ利息ハ年率六分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章 募集

第四條 本公債ハ昭和六年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ次年度ニ繰越シ之ヲ起債スルコトヲ得

第五條 本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾七圓以上トス

第六條 本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ銀行其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條 本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條 保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條 本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屆出ツヘシ

第三章 辨濟

第十條 本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條 本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條 本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期竝償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條 第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條 本公債ノ元金ハ昭和九年度ヨリ同二十八年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合ニ依リ据置若ハ辨濟期間中ト雖隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條 前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章 證書

第十六條 本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書

チ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條 記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條 記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條 本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條 本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條 本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條 記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名換ニ變更スルトキハ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキハ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徴收ス

第二十五條 代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條 本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附 則

第二十七條 市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ利率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖償還年次表ニ定ムル毎年ノ元利償還額ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

第一項ニ依リ短期債ヲ發行スル場合ノ發行價格ハ額面全額トス

第二十八條 短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條 本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	毎年度支出額 利子支拂額	毎年度支出額 元金償還額	毎年度支出額 計	未償還額
一	昭和六	1,825,400.00円	—円	—円	—円	1,825,400.00円
二	七		43,310.91 59,325.50	—	43,310.91 59,325.50	1,825,400.00
三	八		59,325.50 59,325.50	—	59,325.50 59,325.50	1,825,400.00
四	九		59,325.50 59,325.50	— 60,400.00	59,325.50 119,725.50	1,765,000.00
五	10		57,362.50 57,362.50	— 54,000.00	57,362.50 111,362.50	1,711,000.00
六	11		55,607.50 55,607.50	— 58,000.00	55,607.50 113,607.50	1,653,000.00
七	12		53,722.50 53,722.50	— 62,000.00	53,722.50 115,722.50	1,591,000.00
八	13		51,707.50 51,707.50	— 66,000.00	51,707.50 117,707.50	1,525,000.00
九	14		49,562.50 49,562.50	— 70,000.00	49,562.50 119,562.50	1,455,000.00
10	15		47,287.50 47,287.50	— 74,000.00	47,287.50 121,287.50	1,381,000.00
11	16		44,882.50 44,882.50	— 78,000.00	44,882.50 122,882.50	1,303,000.00
12	17		42,347.50 42,347.50	— 82,000.00	42,347.50 124,347.50	1,221,000.00
13	18		39,682.50 39,682.50	— 86,000.00	39,682.50 125,682.50	1,135,000.00
14	19		36,887.50 36,887.50	— 90,000.00	36,887.50 126,887.50	1,045,000.00
15	20		33,962.50 33,962.50	— 95,000.00	33,962.50 128,962.50	950,000.00
16	21		30,875.00 30,875.00	— 100,000.00	30,875.00 130,875.00	850,000.00
17	22		27,625.00 27,625.00	— 105,000.00	27,625.00 132,625.00	745,000.00
18	23		24,212.50 24,212.50	— 110,000.00	24,212.50 134,212.50	635,000.00
19	24		20,637.50 20,637.50	— 115,000.00	20,637.50 135,637.50	520,000.00
20	25		16,900.00 16,900.00	— 121,000.00	16,900.00 137,900.00	399,000.00
21	26		12,967.50 12,967.50	— 127,000.00	12,967.50 139,967.50	272,000.00
22	27		8,840.00 8,840.00	— 133,000.00	8,840.00 141,840.00	139,000.00
23	28		4,517.50 4,517.50	— 139,000.00	4,517.50 143,517.50	—
計		1,825,400.00	[illegible]	1,825,400.00	[illegible]	

名古屋市第二回衛生事業公債條例

昭和八年一月十一日
條例第一號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ衛生事業費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額百四拾萬貳千五百圓（實收百參拾六萬四百貳拾五圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ左ノ年度割ノ通之ヲ募集ス但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ昭和七年度起債額ノ一部ヲ昭和八年度ニ繰下ケ起債スルコトヲ得

昭和七年度　額面金百貳拾四萬五千圓
昭和八年度　額面金拾五萬七千五百圓

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾七圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屬出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅納付金及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並ニ償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和九年度ヨリ同二十一年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス

但シ市財政運用ノ都合ニ依リ据置若ハ辨濟期間中ト雖臨時之カ償還又

ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號又番號ハ之ヲ公告ス前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ實質讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ其ノ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連書ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シテ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲナストキ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ償還期限五年以内ニ於テ豫定利率以内ノ短期債ヲ起シ又ハ年利率八分以内ノ募入金ヲ爲シ一時本公債ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借

入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ募入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ニ依リ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲ス場合ト雖別紙償還年次表ニ定ムル元金償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	昭和七	一、〇二四、八〇〇円	五、一二四円	—円	五、一二四円	一、〇二四、八〇〇円
二	八	一五七、五〇〇	六三、〇六三	—	六三、〇六三	一、一八二、三〇〇
三	九		七〇、九三八	一四七、八〇〇	二一八、七三八	一、〇三四、五〇〇
四	一〇		六二、〇七〇	一六二、〇〇〇	二二四、〇七〇	八七二、五〇〇
五	一一		五二、三五〇	一七二、〇〇〇	二二四、三五〇	七〇〇、五〇〇
六	一二		四二、〇三〇	一八四、〇〇〇	二二六、〇三〇	五一六、五〇〇
七	一三		三〇、九九〇	一九四、〇〇〇	二二四、九九〇	三二二、五〇〇
八	一四		一九、三五〇	一三三、〇〇〇	一五二、三五〇	一八九、五〇〇
九	一五		一一、三七〇	三一、〇〇〇	四二、三七〇	一五八、五〇〇
一〇	一六		九、五一〇	二三、〇〇〇	三二、五一〇	一三五、五〇〇
一一	一七		八、一三〇	二四、〇〇〇	三二、一三〇	一一一、五〇〇
一二	一八		六、六九〇	二六、〇〇〇	三二、六九〇	八五、五〇〇
一三	一九		五、一三〇	二七、〇〇〇	三二、一三〇	五八、五〇〇
一四	二〇		三、五一〇	二八、〇〇〇	三一、五一〇	三〇、五〇〇
一五	二一		一、八三〇	三〇、五〇〇	三二、三三〇	—
計		一、一八二、三〇〇	三九二、〇八五	一、一八二、三〇〇	一、五七四、三八五	

備考

一、利率ハ年六分トシテ計算ス

一、昭和七年度利子ハ一ヶ月分ヲ計上ス

一、昭和八年度起債額ノ利子ハ二ヶ月分ヲ計上ス

償還年次表（大藏省預金部ヨリ借入ノ分）

年次	年度	起債額	元利支拂期日	利子支拂額	元金償還額	計	各期末未償還額
一	昭和七	二一三、五〇〇円	三月一日	六四〇.五〇円	—円	六四〇.五〇円	二一三、五〇〇円
二	八		九月一日	三、八四三.〇〇	—	三、八四三.〇〇	二一三、五〇〇
			三月一日	三、八四三.〇〇	—	三、八四三.〇〇	二一三、五〇〇
三	九		九月一日	三、八四三.〇〇	六、五〇〇.〇〇	一〇、三四三.〇〇	二〇七、〇〇〇
			三月一日	三、七二六.〇〇	六、〇〇〇.〇〇	九、七二六.〇〇	二〇一、〇〇〇
四	一〇		九月一日	三、六一八.〇〇	六、〇〇〇.〇〇	九、六一八.〇〇	一九五、〇〇〇
			三月一日	三、五一〇.〇〇	六、〇〇〇.〇〇	九、五一〇.〇〇	一八九、〇〇〇
五	一一		九月一日	三、四〇二.〇〇	六、五〇〇.〇〇	九、九〇二.〇〇	一八二、五〇〇
			三月一日	三、二八五.〇〇	六、五〇〇.〇〇	九、七八五.〇〇	一七六、〇〇〇
六	一二		九月一日	三、一六八.〇〇	七、〇〇〇.〇〇	一〇、一六八.〇〇	一六九、〇〇〇
			三月一日	三、〇四二.〇〇	七、〇〇〇.〇〇	一〇、〇四二.〇〇	一六二、〇〇〇
七	一三		九月一日	二、九一六.〇〇	七、〇〇〇.〇〇	九、九一六.〇〇	一五五、〇〇〇
			三月一日	二、七九〇.〇〇	七、〇〇〇.〇〇	九、七九〇.〇〇	一四八、〇〇〇
八	一四		九月一日	二、六六四.〇〇	七、五〇〇.〇〇	一〇、一六四.〇〇	一四〇、五〇〇
			三月一日	二、五二九.〇〇	七、五〇〇.〇〇	一〇、〇二九.〇〇	一三三、〇〇〇
九	一五		九月一日	二、三九四.〇〇	八、〇〇〇.〇〇	一〇、三九四.〇〇	一二五、〇〇〇
			三月一日	二、二五〇.〇〇	八、〇〇〇.〇〇	一〇、二五〇.〇〇	一一七、〇〇〇
一〇	一六		九月一日	二、一〇六.〇〇	八、五〇〇.〇〇	一〇、六〇六.〇〇	一〇八、五〇〇
			三月一日	一、九五三.〇〇	八、五〇〇.〇〇	一〇、四五三.〇〇	一〇〇、〇〇〇
一一	一七		九月一日	一、八〇〇.〇〇	九、〇〇〇.〇〇	一〇、八〇〇.〇〇	九一、〇〇〇
			三月一日	一、六三八.〇〇	九、〇〇〇.〇〇	一〇、六三八.〇〇	八二、〇〇〇
一二	一八		九月一日	一、四七六.〇〇	九、五〇〇.〇〇	一〇、九七六.〇〇	七二、五〇〇
			三月一日	一、三〇五.〇〇	九、五〇〇.〇〇	一〇、八〇五.〇〇	六三、〇〇〇
一三	一九		九月一日	一、一三四.〇〇	一〇、〇〇〇.〇〇	一一、一三四.〇〇	五三、〇〇〇
			三月一日	九五四.〇〇	一〇、〇〇〇.〇〇	一〇、九五四.〇〇	四三、〇〇〇
一四	二〇		九月一日	七七四.〇〇	一〇、五〇〇.〇〇	一一、二七四.〇〇	三二、五〇〇
			三月一日	五八五.〇〇	一〇、五〇〇.〇〇	一一、〇八五.〇〇	二二、〇〇〇
一五	二一		九月一日	三九六.〇〇	一一、〇〇〇.〇〇	一一、三九六.〇〇	一一、〇〇〇
			三月一日	一九八.〇〇	一一、〇〇〇.〇〇	一一、一九八.〇〇	—
計		二一三、五〇〇		六五、七八二.五〇	二一三、五〇〇.〇〇	二七九、二八二.五〇	

備考

一、起債年度ノ利子ハ一ヶ月分ヲ計上

一、利率ハ年三分六厘ノ計算

名古屋市小學校建築公債條例

昭和九年一月二十日
條例第一號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ小學校建築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額百八拾九萬七千圓（實收額百八拾貳萬壹千壹百貳拾圓）以下トス

第三條　本公債ノ利子ハ年率六分以內トシ募集ノ際此ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ事業其他ノ都合ニ依リ起債額ノ一部ヲ翌年度ニ繰越シ起債スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾六圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格ノ同等モノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコト得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屆出スヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其ノ他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期竝償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十三年度ヨリ同二十七年度迄ニ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス

但シ市財政運用ノ都合ニ依リ据置若ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之ガ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之ガ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付キ金五十錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及年利率六分五厘ヲ限度トシ償還期限五年以內ニ於テ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖償還年次表ニ定ムル每年ノ元利償還額ハ豫定ノ通リ之ヲ償還スルモノトス

第一項ニ依リ短期債ヲ發行スル場合ノ發行價格ハ額面金額トス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章及第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	昭和八	一、八九七、000円	九、四八五円	一円	九、四八五円	一、八九七、000円
二	九	—	一一三、八二〇	—	一一三、八二〇	一、八九七、000
三	一〇	—	一一三、八二〇	—	一一三、八二〇	一、八九七、000
四	一一	—	一一三、八二〇	—	一一三、八二〇	一、八九七、000
五	一二	—	一一三、八二〇	—	一一三、八二〇	一、八九七、000
六	一三	—	一一三、八二〇	八二、000	一九五、八二〇	一、八一五、000
七	一四	—	一〇八、九〇〇	八九、000	一九五、九〇〇	一、七二八、000
八	一五	—	一〇三、六八〇	九二、000	一九五、六八〇	一、六三六、000
九	一六	—	九八、一六〇	九八、000	一九六、一六〇	一、五三八、000
一〇	一七	—	九二、二八〇	一〇三、000	一九五、二八〇	一、四三五、000
一一	一八	—	八六、一〇〇	一一〇、000	一九六、一〇〇	一、三二五、000
一二	一九	—	七九、五〇〇	一一六、000	一九五、五〇〇	一、二〇九、000
一三	二〇	—	七二、五四〇	一二三、000	一九五、五四〇	一、〇八六、000
一四	二一	—	六五、一六〇	一三〇、000	一九五、一六〇	九五六、000
一五	二二	—	五七、三六〇	一三八、000	一九五、三六〇	八二八、000
一六	二三	—	四九、〇八〇	一四六、000	一九五、〇八〇	六七二、000
一七	二四	—	四〇、三二〇	一五五、000	一九五、三二〇	五一七、000
一八	二五	—	三一、〇二〇	一六四、000	一九五、〇二〇	三五三、000
一九	二六	—	二一、一八〇	一七三、000	一九四、一八〇	一八〇、000
二〇	二七	—	一〇、八〇〇	一八〇、000	一九〇、八〇〇	—
計		一、八九七、000	一、四九四、六六五	一、八九七、000	三、三九一、六六五	

備考

一、利率ハ年六分トシ八年度利子ハ一ヶ月ヲ計上ス

名古屋市公債整理ニ關スル公債條例

昭和九年一月二十日
條例第二號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ左記各種公債及借入金ノ借替ニ充ツ

下水道公債　ゐ號　貳拾五萬九千圓

第二回水道公債　は號　百貳拾四萬九千圓

同　に號　六拾參萬四千壹百圓

同　ゑ號　貳百五拾壹萬壹千圓

第二回教育公債　はに號　參百貳拾參萬六千圓

第二回衛生公債　ゐ號　九拾九萬四千圓

水道事業公債　ゐ號　貳百九拾萬圓

同　は號　五拾萬壹千圓

第二回下水道公債　ゐ號　拾六萬七千七百圓

西部下水幹線事業簡易保險積立金借入金

百五拾參萬四千七百四拾參圓六拾四錢

衛生公債　は號　參拾貳萬四千四百圓

衛生事業簡易保險積立金借入金

百七拾貳萬八千七百拾參圓貳拾八錢

電氣軌道事業整理公債

ゐ號　壹千參百參拾六萬四千圓

同　ゐ號　參百五拾貳萬六千圓

同　甲號　百貳拾壹萬五千圓

水道公債　ゐ號　貳拾四萬七千圓

第三回教育公債　ゐ號　貳百六拾五萬貳千圓

第四回教育公債　ゐ號　六拾五萬壹千圓

同　に號　百拾貳萬圓

電氣軌道建設改良事業公債

ゐ號　百貳拾壹萬參千五百圓

同　ゐ號　百參拾貳萬貳千圓

同　ほ號　百八拾壹萬參千圓

市區改正公債　はに號　五百參拾七萬七千圓

第五回教育公債　百六萬九千八百圓

電氣軌道事業公債　五拾七萬圓

運河事業公債　壹千壹萬六千圓

合計　六千拾九萬五千九百五拾六圓九拾貳錢

第二條　本公債ハ實收額金六千拾九萬五千五百貳拾圓トシ額面總額ハ六千百四拾貳萬四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　本公債ノ利息ハ年率四分五厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ都合ニ依リ市長ニ於テ募集期間ヲ翌年度迄延長スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價額ハ額面金額百圓ニ付金九拾八圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノモノヨリ本公債ノ全部若クト一部ヲ借入又ハ之等ヲシテ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ充當シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ニ依リ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徴收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ其ノ前六ケ月分宛ヲ利札引換ニ支拂フ但シ公債募入ノ初期竝ニ償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條但書ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨ヲ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和九年度ヨリ同二十九年度ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若ハ辨濟期間中ト雖隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

第十四條　前條ニ依ル抽籤償還ハ三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條但書ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種以内トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十六條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十七條　記名證書ヲ相續シタルトキハ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書ノ紛失又ハ死亡ノ場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限リニ在ラス

前項但書ハ元金辨濟ノ請求ヲ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ於テハ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ新舊證書ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ヲ受クルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徴收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之ヲ回收ス

第二十四條　第二十條第二十一條及前條ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之ヲ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該札利持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合第二十條第三項及第四項ヲ準用ス

附　則

第二十六條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ豫定手取額及年率五分五厘ヲ限度トシ償還期限五ケ年以内ノ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借人金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル毎年ノ償還額ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章及第四章ヲ準用ス

第二十七條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	毎年度支出額 元金償還額	利子支拂額	計	年度末未償還額
一	昭和八	六一、四二四、〇〇〇円	一円	三四五、五一〇円	三四五、五一〇円	六一、四二四、〇〇〇円
二	九	—	二、一三二、〇〇〇	二、七六四、〇八〇	四、八九六、〇八〇	五九、二九二、〇〇〇
三	一〇	—	二、六七七、〇〇〇	二、六六八、一四〇	五、三四五、一四〇	五六、六一五、〇〇〇
四	一一	—	三、〇八〇、〇〇〇	二、五四七、六七五	五、六二七、六七五	五三、五三五、〇〇〇
五	一二	—	三、三七四、〇〇〇	二、四〇九、〇七五	五、七八三、〇七五	五〇、一六一、〇〇〇
六	一三	—	三、六七七、〇〇〇	二、二五七、二四五	五、九三四、二四五	四六、四八四、〇〇〇
七	一四	—	二、九六一、〇〇〇	二、〇九一、七八〇	六、〇五二、七八〇	四二、五二三、〇〇〇
八	一五	—	四、〇九七、〇〇〇	一、九一三、五三五	六、〇一〇、五三五	三八、四二六、〇〇〇
九	一六	—	四、三〇〇、〇〇〇	一、七二九、一七〇	六、〇二九、一七〇	三四、一二六、〇〇〇
一〇	一七	—	四、六八二、〇〇〇	一、五三五、六七〇	六、二一七、六七〇	二九、四四四、〇〇〇
一一	一八	—	四、八七六、〇〇〇	一、三二四、九八〇	六、二〇〇、九八〇	二四、五六八、〇〇〇
一二	一九	—	四、二五二、〇〇〇	一、一〇五、五六〇	五、三五七、五六〇	二〇、三一六、〇〇〇

一三	三〇	—	四、〇六七、〇〇〇	九、四四、三三〇	四、九八一、三三〇	二六、四四九、〇〇〇		
一四	二	—	四、三三、〇〇〇	七三、三〇五	四、九五四、三〇五	二三、〇三六、〇〇〇		
一五	三	—	二、四九八、〇〇〇	五四一、一七〇	三、〇三九、一七〇	九、五八八、〇〇〇		
一六	二三	—	二、〇一七、〇〇〇	四二八、七五〇	二、四四五、七五〇	七、五二一、〇〇〇		
一七	二四	—	一、八五〇、〇〇〇	三七、九九五	二、一八七、九九五	五、六五一、〇〇〇		
一八	二五	—	一、五五五、〇〇〇	二五四、七四五	一、八二九、七四五	四、〇八六、〇〇〇		
一九	二六	—	一、四〇八、〇〇〇	一八三、八七〇	一、五九一、八七〇	二、六七八、〇〇〇		
二〇	二七	—	一、〇七六、〇〇〇	二三〇、五二〇	一、一九六、五二〇	一、六〇二、〇〇〇		
二一	二八	—	九四四、〇〇〇	七二、〇九〇	一、〇一六、〇九〇	六九八、〇〇〇		
二二	二九	—	六五八、〇〇〇	二九、六二〇	六八七、六二〇	—		
計			六一、四二四、〇〇〇	六一、四二四、〇〇〇	三六、三〇六、五九五	八七、七三〇、五九五	—	

備考

一、利率ハ年四分五厘トシ八年度利子ハ一ケ月半ヲ計上ス

名古屋市電氣軌道事業費整理公債條例

昭和八年五月十日
條例第九號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業費ノ整理ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額百弐拾九萬圓（實收額百弐拾弐萬五千五百圓ヲ以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和七年度ニ於テ之ヲ募集ス

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾五圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若クハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠タリルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ申出ヅベシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ電氣軌道事業收入其ノ他一般歲入ヲ以テ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條　ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十一年度ヨリ昭和二十二年度迄ニ抽籤又ハ買入銷却ノ方法ヲ以テ償還ス

前項据置又ハ辨濟期間中ト雖臨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ毎年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條第二項ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期間ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ實買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄

之ガ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニヨリ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權利決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及豫定利率ヲ限度トシ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起シ又ハ利率八分以內ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	毎年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度未末償還額
一	昭和七	一、二九〇、〇〇〇円	一九、三五〇円	—円	一九、三五〇円	一、二九〇、〇〇〇円
二	八	—	七七、四〇〇	—	七七、四〇〇	一、二九〇、〇〇〇
三	九	—	七七、四〇〇	—	七七、四〇〇	一、二九〇、〇〇〇
四	一〇	—	七七、四〇〇	—	七七、四〇〇	一、二九〇、〇〇〇
五	一一	—	七七、四〇〇	七六、〇〇〇	一五三、四〇〇	一、二一四、〇〇〇
六	一二	—	七二、八四〇	八一、〇〇〇	一五三、八四〇	一、一三三、〇〇〇
七	一三	—	七六、九八〇	八六、〇〇〇	一五三、九八〇	一、〇四七、〇〇〇
八	一四	—	六二、八二〇	九一、〇〇〇	一五三、八二〇	九五六、〇〇〇
九	一五	—	五七、三六〇	九七、〇〇〇	一五四、三六〇	八五九、〇〇〇
一〇	一六	—	五一、五四〇	一〇三、〇〇〇	一五四、五四〇	七五六、〇〇〇
一一	一七	—	四五、三六〇	一〇九、〇〇〇	一五四、三六〇	六四七、〇〇〇
一二	一八	—	三八、八二〇	一一六、〇〇〇	一五四、八二〇	五三一、〇〇〇
一三	一九	—	三一、八六〇	一二三、〇〇〇	一五三、八六〇	四〇九、〇〇〇
一四	二〇	—	二四、五四〇	一三〇、〇〇〇	一五四、五四〇	二七九、〇〇〇
一五	二一	—	一六、七四〇	一三六、〇〇〇	一五二、七四〇	一四三、〇〇〇
一六	二二	—	八、五八〇	一四三、〇〇〇	一五一、五八〇	—
計		一、二九〇、〇〇〇	八〇七、三九〇	一、二九〇、〇〇〇	二、〇九七、三九〇	—

備考

一、公債利子ハ年率六分トス

一、昭和七年度ノ利子ハ三ヶ月分ヲ計上ス

名古屋市第二回公債整理ニ關スル公債條例

昭和九年六月八日
條例第九號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ左記借入金ノ借替ニ充ツ

公設市場建設借入金　參拾四萬參千參百六拾壹圓貳拾貳錢

共同宿泊所建設借入金　拾萬六千貳百四拾八圓八拾八錢

市民病院建設借入金　七拾萬貳千八百參拾圓六拾壹錢

公益質屋建設積立金　貳拾四萬參千四百拾四圓九拾貳錢

合　計　百參拾九萬五千八百五拾五圓六拾參錢

第二條　本公債ハ實收額百參拾九萬五千七百貳圓トシ額面總額ハ百四拾萬九千八百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　本公債ノ利息ハ年率四分三厘以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和九年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ都合ニ依リ市長ニ於テ募集期間ヲ翌年度迄延長スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付金九拾九圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入金額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項方法ニ依ラス公共團體銀行其ノ他ノモノヨリ本公債ノ全部若ハ一部ヲ借入又ハ之等ヲシテ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ充當シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ニ依リ本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシメタルトキハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ付一日金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ使用料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ其ノ前六ケ月分宛チ利札引換ニ支拂フ但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割チ以テ之チ計算ス

第十三條但書ニ依リテ元金チ辨濟スル場合ハ同時ニ其ノ元金ニ對スル利息チ支拂フ

第十二條　第十四條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨チ公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息チ附セス

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和九年度ヨリ同二十六年ニ至ル期間内ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ買入銷却又ハ抽籤ノ方法チ以テ之チ償還ス但シ市財政運用ノ都合上据置若ハ辨濟期間中ト雖臨時之カ償還又ハ買入銷却チ爲シ若ハ低利債ニ借替チ爲スコトチ得

第十四條　前條ニ依ル抽籤償還ハ三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類及番號ハ之チ公告ス

前條但書ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其ノ期日チ公告ス

第四章　證　書

第十五條　本公債證書ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種以内トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトチ得

第十六條　記名證書ノ實質讓渡チ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書チ添ヘ記名換チ請求スヘシ

第十七條　記名證書チ相續シタルトキハ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本チ添ヘ記名換ノ請求チ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署チ要ス

第十八條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書チ讓受ケタルトキハ其ノ相續人チ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求チ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人チ要ス

第十九條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之チ交付ス

第二十條　本公債ノ所有者其ノ證書チ紛失又ハ亡失シタルトキハ其ノ種類及番號チ附記シテ新證書ノ交付チ請求スルコトチ得但シ辨濟期日ノ確定シタル證書ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ハ元金辨濟ノ請求チ妨ケス

前二項ニ依リ新證書ノ交付又ハ元金ノ辨濟チ請求セムトスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署チ以テ該證書ニ對シ除權判決アリタル證明チ爲スコトチ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人チ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ於テ本人ト連帶シテ其ノ損害チ賠償スヘキ義務チ負フ

第二十一條　本公債ノ所有者ハ證書ノ汚損其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ其ノ種類及番號チ附記シテ新舊證書ノ交換チ請求スルコトチ得

第二十二條　記名證書チ無記名ニ無記名證書チ記名ニ變更チ受クルトキ又ハ記名證書ノ記名換チ受クルトキ及前二條ニ依リ證書ノ交付若ハ交換チ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢チ徵收ス

第二十三條　本公債證書ハ元金拂渡ノ際之チ回收ス

第二十四條　第二十條乃至前條ノ規定ハ本公債ノ利札及保證金領收證書ニ對シテ之チ準用ス

第二十五條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額チ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十條第三項及第四項チ準用ス

附　則

第二十六條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之チ定ム

償還年次表

年度	起債額	每年度支出額			年度末未償還額
		元金償還額	利子支拂額	計	
	円	円	円	円	円
昭和九	一、一四九、八〇〇	六三、八〇〇	四七、九九二、九〇	二二、七九二、九〇	一、三四六、〇〇〇
一〇	六六、九〇〇	五七、八七八、〇〇	一三四、七九八、〇〇	一、二七九、一〇〇	
一一	七〇、一〇〇	五五、〇二三、〇	一三五、一〇二三、〇	一、二〇九、〇〇〇	
一二	七三、三〇〇	五一、九八七、〇〇	一三五、二八七、〇〇	一、一三五、七〇〇	
一三	七七、一〇〇	四八、八三五、一〇	一三五、九三五、一〇	一、〇九八、六〇〇	
一四	八〇、八〇〇	四五、五二、九八〇	一三六、三二九八〇	九七七、八〇〇	
一五	八四、七〇〇	四二、〇四五、四〇	一三六、七四五、四〇	八九三、一〇〇	
一六	八八、九〇〇	三八、四〇三、二〇	一三七、二〇三、二〇	八〇四、一〇〇	
一七	九三、一〇〇	三四、五八〇、六〇	一三七、六八〇、六〇	七一一、一〇〇	
一八	九七、七〇〇	三〇、五七三、三〇	一三八、三七三、三〇	六一三、四〇〇	
一九	一〇二、三〇〇	二六、三六六、三〇	一三八、六六六、三〇	五一一、一〇〇	
二〇	一〇六、三〇〇	二二、九七七、三〇	一三八、二七七、三〇	四〇四、八〇〇	
二一	八八、三〇〇	一七、四〇六、四〇	一三九、八〇六、四〇	三一六、三〇〇	
二二	九三、一〇〇	一三、八〇〇、九〇	一三九、八〇〇、九〇	二二四、一〇〇	
二三	九八、三〇〇	九、六三六、三〇	一三九、六三六、三〇	一二五、九〇〇	
二四	五二、一〇〇	七、〇三四、八〇	一三九、一三四、八〇	一一二、五〇〇	
二五	五四、五〇〇	四、九四四、五〇	一三九、九四四、五〇	五七、〇〇〇	
二六	五七、〇〇〇	二、四九二、〇〇	一三九、四九二、〇〇		
計	一、四〇九、八〇〇	一、四〇九、八〇〇、〇〇	一、九六五、八九七、一〇		

備考

一、利率ハ年四分三厘

二、九年度利子ハ九ケ月半分チ計上ス

名古屋市第七回小學校建築公債條例

昭和十年一月十八日條例第一號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ小學校建築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額貳百貳拾五萬圓（實收額貳百貳拾萬五千圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率四分五厘以内トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和九年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ事業其他ノ都合ニ依リ起債額ノ一部ヲ翌年度ニ繰越シ起債スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾八圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ關スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨屬出ス

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條第二項及第三項ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十四年度ヨリ同二十八年度迄ニ別紙償還年次表ニ依リ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス

前項ノ規定ニ拘ラス隨時本公債ノ全部又ハ一部ノ繰上償還ヲ爲シ又ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ償還ニ代ヘ臨時買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條第二項ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種以内トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書

ヲ添ヘ記名ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ノ請求アリタルトキ及記名證書ノ記名換並代證書又ハ代利札ノ交付ノ請求アリタルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付キ金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヨリ拂渡金額ヲ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決アリタルトキハ其ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項第三項ノ規定ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ辨濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ豫定手取額及年率六分ヲ限度トシ償還期限五年以内ニ於テ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖償還年次表ニ定ムル每年ノ元利償還額ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

第一項ニ依リ短期債ヲ發行スル場合ノ發行價格ハ額面金額トス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章及ヒ第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
昭和九	二、二五〇、〇〇〇円	三三、七五〇円	—円	三三、七五〇円	二、二五〇、〇〇〇円
一〇	—	一〇一、二五〇	—	一〇一、二五〇	二、二五〇、〇〇〇
一一	—	一〇一、二五〇	—	一〇一、二五〇	二、二五〇、〇〇〇
一二	—	一〇一、二五〇	—	一〇一、二五〇	二、二五〇、〇〇〇
一三	—	一〇一、二五〇	—	一〇一、二五〇	二、二五〇、〇〇〇
一四	—	一〇一、二五〇	一〇八、〇〇〇	二〇九、二五〇	二、一四二、〇〇〇
一五	—	九六、三九〇	一一三、〇〇〇	二〇九、三九〇	二、〇二九、〇〇〇
一六	—	九一、三〇五	一一八、〇〇〇	二〇九、三〇五	一、九一一、〇〇〇
一七	—	八五、九九五	一二四、〇〇〇	二〇九、九九五	一、七八七、〇〇〇
一八	—	八〇、四一五	一二九、〇〇〇	二〇九、四一五	一、六五八、〇〇〇
一九	—	七四、六一〇	一三五、〇〇〇	二〇九、六一〇	一、五二三、〇〇〇
二〇	—	六八、五三五	一四一、〇〇〇	二〇九、五三五	一、三八二、〇〇〇
二一	—	六二、一九〇	一四七、〇〇〇	二〇九、一九〇	一、二三五、〇〇〇
二二	—	五五、五七五	一五四、〇〇〇	二〇九、五七五	一、〇八一、〇〇〇
二三	—	四八、六四五	一六一、〇〇〇	二〇九、六四五	九二〇、〇〇〇
二四	—	四一、四〇〇	一六八、〇〇〇	二〇九、四〇〇	七五二、〇〇〇
二五	—	三三、八四〇	一七六、〇〇〇	二〇九、八四〇	五七六、〇〇〇
二六	—	二五、九二〇	一八四、〇〇〇	二〇九、九二〇	三九二、〇〇〇
二七	—	一七、六四〇	一九二、〇〇〇	二〇九、六四〇	二〇〇、〇〇〇
二八	—	九、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇九、〇〇〇	—
計	二、二五〇、〇〇〇	一、三三一、四六〇	二、二五〇、〇〇〇	三、五八一、四六〇	—

備考

一、利率ハ年四分五厘トシテ計算

一、九年度利子ハ四ヶ月分計上ス

名古屋市電氣軌道事業費整理公債條例

昭和九年十一月十九日
條例第十二號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道事業費ノ整理ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額八拾五萬圓（實收額八拾壹萬六千圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率六分以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和九年度ニ於テ之ヲ募集ス

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾六圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其ノ他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若シクハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其ノ引受人ニ於テ引受ノ旨屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ電氣軌道事業收入其ノ他一般歲入ヲ以テ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ毎年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十二年度ヨリ昭和二十三年度迄ニ抽籤又ハ買入銷却ノ方法ヲ以テ償還ス

前項据置又ハ辨濟期間中ト雖モ隨時之カ償還又ハ買入銷却ヲ爲シ若ハ低利債ニ借換ヲナスコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ毎年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條第二項ニ依リ償還セントスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種トシテ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ人夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ

相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之ガ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更スルトキ又ハ記名證書ノ記名換ヲ爲ストキ及代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徴收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及年利率六分五厘ヲ限度トシ償還期限五年以内ニ於テ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次表ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年次	年度	起債額	每年度支出額 利子支拂額	元金償還額	計	年度末未償還額
一	昭和九	八五〇、〇〇〇	一七、〇〇〇	—	一七、〇〇〇	八五〇、〇〇〇
二	一〇		五一、〇〇〇	—	五一、〇〇〇	八五〇、〇〇〇
三	二		五一、〇〇〇	—	五一、〇〇〇	八五〇、〇〇〇
四	三		五一、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇一、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
五	一三		四八、〇〇〇	五三、〇〇〇	一〇一、〇〇〇	七四七、〇〇〇
六	一四		四四、八二〇	五七、〇〇〇	一〇一、八二〇	六九〇、〇〇〇
七	一五		四一、四〇〇	六〇、〇〇〇	一〇一、四〇〇	六三〇、〇〇〇
八	一六		三七、八〇〇	六四、〇〇〇	一〇一、八〇〇	五六六、〇〇〇
九	一七		三三、九六〇	六七、〇〇〇	一〇〇、九六〇	四九九、〇〇〇
一〇	一八		二九、九四〇	七一、〇〇〇	一〇〇、九四〇	四二八、〇〇〇
一一	一九		二五、六八〇	七六、〇〇〇	一〇一、六八〇	三五二、〇〇〇
一二	二〇		二一、二一〇	八〇、〇〇〇	一〇一、二一〇	二七二、〇〇〇
一三	二一		一六、三三〇	八四、〇〇〇	一〇一、三三〇	一八七、〇〇〇
一四	二二		一一、三三〇	九〇、〇〇〇	一〇一、三三〇	九七、〇〇〇
一五	二三		五、八二〇	九七、〇〇〇	一〇二、八二〇	—
計		八五〇、〇〇〇	四六、〇六〇	八五〇、〇〇〇	一、三五六、〇六〇	—

備考

一、利子ハ年率六分トス

一、昭和九年度ノ利子ハ四ヶ月分ヲ計上ス

名古屋市電氣軌道改良事業費公債條例

昭和十年三月四日
條例第二號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ本市ニ於ケル電氣軌道改良事業費ニ充ツ

第二條　本公債ノ額面金額四拾九萬五千圓（實收額四拾八萬五千百圓）以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率五分以内トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和九年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ都合ニ依リ市長ニ於テ募集期間ヲ翌年度迄延長スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾八圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徴收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ引受人ニ於テ引受ノ旨屆出ツヘシ

第三章　辨　濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ電氣軌道事業收入其ノ他一般歲入ヲ以テ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十二年度ヨリ昭和三十一年度ニ至ル期間內ニ於テ別紙償還年次表ニ依リ抽籤又ハ買入銷却ノ方法ヲ以テ償還ス據置又ハ辨濟期間中ト雖隨時之ヲ償還又ハ買入銷却ノ爲メ若ハ低利債ニ借換ヲナスコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條第二項ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種以內トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニヨリ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタル者ハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其ノ相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其ノ種類記號番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ヲ請求セントスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其ノ證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其ノ種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ノ請求アリタルトキ及記名證書ノ記名換並代證書又ハ代利札ノ交付ノ請求アリタルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決アリタルトキハ其ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セストト認メタルトキハ豫定手取額及年率六分ヲ限度トシ償還期限五年以內短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖償還年次表ニ定ムル每年ノ元利償還額ハ豫定ノ範圍之ヲ償還スルモノトス

第十四類　公　債

第一項ニ依リ短期債ヲ發行スル場合ノ發行額格ハ額面金額トス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章及第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年度	起債額	每年度支出額			年度末未償還額
		利子支拂額	元金償還額	計	
昭和九	四九五、〇〇〇 円	円	円	円	四九五、〇〇〇 円
一〇	二四、七五〇	二四、七五〇	—	二四、七五〇	四九五、〇〇〇
一一	二四、七五〇	二四、七五〇	—	二四、七五〇	四九五、〇〇〇
一二	二四、七五〇	二四、七五〇	—	二四、七五〇	四九五、〇〇〇
一三	二四、七五〇	二四、七五〇	一一、〇〇〇	三五、七五〇	四八四、〇〇〇
一四	二三、二五〇	二三、二五〇	一八、〇〇〇	四一、二五〇	四四九、〇〇〇
一五	二二、四五〇	二二、四五〇	一九、〇〇〇	四一、四五〇	四三〇、〇〇〇
一六	二一、五〇〇	二一、五〇〇	二〇、〇〇〇	四一、五〇〇	四一〇、〇〇〇
一七	二〇、五〇〇	二〇、五〇〇	二一、〇〇〇	四一、五〇〇	三八九、〇〇〇
一八	一九、四五〇	一九、四五〇	二二、〇〇〇	四一、四五〇	三六七、〇〇〇
一九	一八、三五〇	一八、三五〇	二三、〇〇〇	四一、三五〇	三四四、〇〇〇
二〇	一七、二〇〇	一七、二〇〇	二四、〇〇〇	四一、二〇〇	三二〇、〇〇〇

名古屋市下水道事業公債條例

昭和十年三月二十八日　條例第三十八號

第一章　總則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ下水道築造及改良並ニ下水處理場設備費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額八拾五萬四千五百四拾圓（實收額八拾參萬七千四拾圓ニ以下トス）

第三條　本公債ノ利息ハ年率五分以內トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第二章　募集

第四條　本公債ハ左ノ年度割額ノ通之ヲ募集ス但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ年度割額ノ全部若ハ一部ヲ翌年度ニ繰下ケ起債スルコトヲ得

昭和十年度　額面　金五拾萬八千五百四

昭和九年度　額面　金參拾四萬六千四

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付九拾八圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其旨ヲ公告シ應募者ヲシテ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付金參錢ノ遲滯利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ元金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ因リテ消滅ス

應募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨届出ヘシ

第三章　辨濟

第十條　本公債ノ元金及利息ハ市稅及其他ノ收入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六ケ月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條第二項ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其ノ元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ償還又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十四年度ヨリ昭和三十三年度ニ別紙償還表ニ依リ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還スル外臨時本公債ノ全部又ハ一部ノ繰上償還ヲ爲シ又ハ前項ノ規定ニ拘ラス臨時本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其ノ當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條第二項ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附ニシテ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種以內トス應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證券ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其ノ相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戸主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ遺言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタル者其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證人ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ償還ニ代ヘ隨時買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第十四類　公債

前項ノ規定ニ拘ラス隨時本公債ノ全部又ハ一部ノ繰上償還ヲ爲シ又ハ每年表裏ニ依リ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還スル外臨時本公債ノ全部又ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第十四類　公債

一		一六、〇〇〇	二五、〇〇〇	四一、〇〇〇	二五六、〇〇〇
二		一四、五〇〇	二六、〇〇〇	四〇、五〇〇	二六九、〇〇〇
三		一三、四五〇	二七、〇〇〇	四〇、四五〇	二八二、〇〇〇
四		一二、一〇〇	二八、〇〇〇	四〇、一〇〇	二九四、〇〇〇
五		一〇、七〇〇	二九、〇〇〇	三九、七〇〇	三〇六、〇〇〇
六		九、二五〇	三〇、〇〇〇	三九、二五〇	三一八、〇〇〇
七		七、七五〇	三一、〇〇〇	三八、七五〇	三三〇、〇〇〇
八		六、二〇〇	三二、〇〇〇	三八、二〇〇	三四二、〇〇〇
九		四、六〇〇	三三、〇〇〇	三七、六〇〇	三五四、〇〇〇
一〇		二、九五〇	三四、〇〇〇	三六、九五〇	三六六、〇〇〇
計	四九五、〇〇〇	三四〇、二五〇	四九五、〇〇〇	八三五、二五〇	

備考

一、利率ハ年五分ヲ以テ計算ス

市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタルモノハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之ガ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ノ請求アクタルトキ及記名證書ノ記名換並代證書又ハ代利札ノ交付ノ請求アリタルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徴收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決アリタルトキハ其ノ申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セスト認メタルトキハ當該年度豫定手取額及年利率六分ヲ限度ト償還期限五年以内ニ於テ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ短期債又ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス

短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖償還年次表ニ定ムル毎年ノ元利償還額ハ豫定ノ通リ之ヲ償還スルモノトス

第一項ニ依リ短期債ヲ發行スル場合ノ發行價格ハ額面金額トス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章及第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

年度	起債額	毎年度支出額 元金償還額	利子支拂額	計	年度末未償還額
昭和九	三四六、〇〇〇円	—円	—円	—円	三四六、〇〇〇円
一〇	五〇八、五〇〇	—	二八、五七〇八三	二八、五七〇八三	八五四、五〇〇
一一		—	四二、七二五〇〇	四二、七二五〇〇	八五四、五〇〇
一二		—	四二、七二五〇〇	四二、七二五〇〇	八五四、五〇〇
一三		—	四二、七二五〇〇	四二、七二五〇〇	八五四、五〇〇
一四		二六、〇〇〇	四二、七二五〇〇	六八、七二五〇〇	八二八、五〇〇
一五		二七、〇〇〇	四一、四二五〇〇	六八、四二五〇〇	八〇一、五〇〇
一六		二八、〇〇〇	四〇、〇七五〇〇	六八、〇七五〇〇	七七三、五〇〇
一七		三〇、〇〇〇	三八、六七五〇〇	六八、六七五〇〇	七四三、五〇〇
一八		三一、〇〇〇	三七、一七五〇〇	六八、一七五〇〇	七一三、五〇〇
一九		三三、〇〇〇	三五、六二五〇〇	六八、六二五〇〇	六七九、五〇〇
二〇		三四、〇〇〇	三三、九七五〇〇	六七、九七五〇〇	六四五、五〇〇
二一		三六、〇〇〇	三二、二七五〇〇	六八、二七五〇〇	六〇九、五〇〇
二二		三八、〇〇〇	三〇、四七五〇〇	六八、四七五〇〇	五七一、五〇〇
二三		四〇、〇〇〇	二八、五七五〇〇	六八、五七五〇〇	五三一、五〇〇
二四		四二、〇〇〇	二六、五七五〇〇	六八、五七五〇〇	四八九、五〇〇
二五		四四、〇〇〇	二四、四七五〇〇	六八、四七五〇〇	四四五、五〇〇
二六		四六、〇〇〇	二二、二七五〇〇	六八、二七五〇〇	三九九、五〇〇
二七		四九、〇〇〇	一九、九七五〇〇	六八、九七五〇〇	三五〇、五〇〇
二八		五一、〇〇〇	一七、五二五〇〇	六八、五二五〇〇	二九九、五〇〇
二九		五四、〇〇〇	一四、九七五〇〇	六八、九七五〇〇	二四五、五〇〇
三〇		五七、〇〇〇	一二、二七五〇〇	六九、二七五〇〇	一八八、五〇〇
三一		五九、〇〇〇	九、四二五〇〇	六八、四二五〇〇	一二九、五〇〇
三二		六二、〇〇〇	六、四七五〇〇	六八、四七五〇〇	六七、五〇〇
三三		六七、五〇〇	三、三七五〇〇	七〇、八七五〇〇	—
計	八五四、五〇〇	八五四、五〇〇	六七五、〇九五八三	一、五二九、五九五八三	—

備考

一、利率ハ年五分トス

二、十年度利子ハ三四六、〇〇〇圓ニ對シテハ十一ヶ月分五〇八、五〇〇圓ニ對シテハ六ヶ月分ヲ計上

名古屋市社會事業公債條例

昭和十年五月二十七日
條例第九號

第一章　總　則

第一條　本公債ニ依ル收入ハ社會館及中東食品小賣市場ノ改築費ニ充ツ

第二條　本公債ハ額面金額參拾九萬六千九百圓（社會館建設貳拾萬四千圓、中東食品小賣市場改築拾九萬貳千九百圓）此ノ實收額參拾八萬九千四拾貳圓以下トス

第三條　本公債ノ利息ハ年率四分五厘以内トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第二章　募　集

第四條　本公債ハ昭和九年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ事業其ノ他ノ都合ニ依リ起債額ノ一部ヲ翌年度ニ繰越シ起債スルコトヲ得

第五條　本公債發行ノ價格ハ額面金額百圓ニ付金九拾八圓以上トス

第六條　本公債ヲ募集スルトキハ其ノ旨ヲ公告シ應募者ヲ求メ申込價格ノ高キモノヨリ之ヲ募入ス但シ價格同等ノモノハ申込金額ニ比例シテ募入金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ募入額第五條ノ額面金額ニ適當セサルトキハ抽籤又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ適宜募入者ヲ定ム

前項ノ方法ニ依ラス公共團體又ハ銀行其他適當ト認ムルモノヲシテ本公債ノ全部若ハ一部ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七條　本公債ノ應募者ニハ申込ノ際保證金ヲ納付セシム但シ保證金ニ對シテハ利息ヲ附セス

保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ算入シ第九條第二項ノ場合ニハ之ヲ還付セス

前條第二項ノ場合ニ於テハ保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條　保證金ハ額面金額ノ百分ノ二以上トシ募集ノ際市長之ヲ定ム

第九條　本公債ノ元金拂込ヲ怠リタルトキハ額面金額百圓ニ對シ一日ニ付キ金參錢ノ滯納利息ヲ支拂フコトヲ要ス

應募者ニ屬スル權利ハ利金拂込期日ヨリ三十日ヲ經過スルニ依リテ消滅ス

募募者拂込未濟ニシテ死亡シタルトキハ其引受人ニ於テ引受ノ旨屬出スヘシ

第三章　償　還

第十條　本公債ハ元金及利息ハ慈善事業資金繰入金市場使用料及市一般歲入ニ依リ之ヲ辨濟ス

第十一條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十二條　本公債ノ利息ハ每年三月一日及九月一日ノ二期ニ分チ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債募入ノ初期並償還ノ場合ニ於ケル一期未滿ノ利息ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條第二項及第三項ニ依リテ元金ヲ辨濟スル場合ハ同時ニ日割ヲ以テ其元金ニ對スル利息ヲ支拂フ

第十三條　第十五條ニ依リテ當籤又ハ辨濟ノ旨公告シタル公債ノ元金ニ對シテハ辨濟スヘキ期日以後ノ利息ヲ附セス

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十一年度ヨリ同二十八年度迄ニ別紙償還年次表ニ依リ抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ償還ス

前項ノ規定ニ拘ラス隨時本公債ノ全部又ハ一部ノ繰上償還ヲ爲シ又ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ償還ニ代ヘ隨時買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第十五條　前條ニ依ル抽籤償還ハ每年三月一日トシ其當籤シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス

前條第二項ニ依リ償還セムトスルトキハ三十日前其ノ期日ヲ公告ス

第四章　證　書

第十六條　本公債證書ハ無記名利札附トシ百圓、五百圓、千圓、五千圓壹萬圓、五萬圓及拾萬圓ノ七種以內トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十七條　記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名換ヲ請求スヘシ

第十八條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ隱居若ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ依リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戶主ノ連署ヲ要ス

第十九條　記名證書所有者ノ證言ニ依リ相續ニ非スシテ證書ヲ讓受ケタルトキハ其相續人ヲ以テ保證人ト爲シ記名換ノ請求ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ノ保證ヲ要ス

第二十條　本公債證書ハ全額拂込ノ際之ヲ交付ス

第二十一條　本公債ノ所有者ハ其證書又ハ利札ヲ紛失若ハ亡失シタル場合ハ其種類記號及番號ヲ附記シ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ市長ノ適當ト認メタル保證人二名以上ノ連署ヲ以テ該證書又ハ利札ニ對シ除權判決アリタル證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ公共團體ノ請求ニ依ルモノ若ハ市長ニ於テ特ニ必要ナシト認メタル者ハ保證人ヲ要セス

前項ノ保證人ハ除權判決ノ取消アリタル場合ニ本人ト連帶シテ其損害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フ

第二十二條　本公債ノ所有者ハ其證書又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ其種類記號及番號ヲ附記シテ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第二十四條　記名證書ヲ無記名ニ無記名證書ヲ記名ニ變更ノ請求アリタルトキ及記名證書ノ記名換竝代證書又ハ代利札ノ交付ノ請求アリタルトキハ手數料トシテ證書一通ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

第二十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無效トス

第二十六條　本公債證書元金拂渡ノ際現存スヘキ利札ノ枚數ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ拂渡金額ヨリ控除ス

前項ニ依リ控除シタル金額ハ該利札持參人又ハ該利札ニ對スル除權判決アリタルトキハ其申立人ニ支拂フ

前項ノ申立人ニ支拂フ場合ハ第二十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス、

附　則

第二十七條　市長ハ經濟界ノ狀況本公債ヲ募集スルニ適セストト認メタルトキハ豫定手取額及年率六分ヲ限度トシ償還期限五年以內ニ於テ短期債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ第四條ノ募集期間ハ借入金ノ償還終期迄之ヲ延長ス短期債又ハ借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス

前項ノ場合ト雖償還年次表ニ定ムル每年ノ元利償還額ハ豫定ノ通之ヲ償還スルモノトス

第一項ニ依リ短期債ヲ發行スル場合ノ發行價格ハ額面金額トス

第二十八條　短期債ノ募集辨濟證書ニ關シテハ本條例第二章第三章第四章ヲ準用ス

第二十九條　本條例ノ施行ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

償還年次表

總括（社會館建設中、東食品小賣市場改築）

年度	起債額	元金償還額	利子支拂額	計	每年度支出額	年度末償還額
昭和九	三九六、九〇〇	円 —	円 八、九三〇、三五	円 八、九三〇、三五	三九六、九〇〇	円
一〇		—	一七、八六〇、三五	一七、八六〇、三五	三九六、九〇〇	
二		一四、八〇〇	一七、八四〇、三五	三一、六六〇、三五	三八二、一〇〇	
三		一五、〇〇〇	一七、一四四、三五	三二、一五四、三五	三六七、一〇〇	
一三		一六、一〇〇	一六、九五二、五〇	三三、〇六二、五〇	三五〇、〇〇〇	

一四		一七、〇〇〇	一五、七七七 00	三二、七七七 00	三三三、六〇〇
一五		一七、六〇〇	一五、〇二三 00	三二、六二三 00	三一六、〇〇〇
一六		一八、五〇〇	一四、二三〇 00	三二、七三〇 00	二九七、五〇〇
一七		一九、三〇〇	一三、三八七 五〇	三二、六八七 五〇	二七八、二〇〇
一八		二〇、二〇〇	一二、五一九 00	三二、七一九 00	二五八、〇〇〇
一九		二一、一〇〇	一一、六一〇 00	三二、七一〇 00	二三六、九〇〇
二〇		二二、一〇〇	一〇、六六〇 五〇	三二、七六〇 五〇	二一四、八〇〇
二一		二三、〇〇〇	九、六六六 00	三二、六六六 00	一九一、八〇〇
二二		二四、〇〇〇	八、六三一 00	三二、六三一 00	一六七、八〇〇
二三		二五、二〇〇	七、五五一 00	三二、七五一 00	一四二、六〇〇
二四		二六、三〇〇	六、四一七 00	三二、七一七 00	一一六、三〇〇
二五		二七、四〇〇	五、二三三 五〇	三二、六三三 五〇	八八、九〇〇
二六		二八、二〇〇	四、〇〇〇 五〇	三二、二〇〇 五〇	六〇、七〇〇
二七		二九、八〇〇	二、七三一 五〇	三二、五三一 五〇	三〇、九〇〇
二八		三〇、九〇〇	一、三九〇 五〇	三二、二九〇 五〇	
計	三九六、九〇〇	三九六、九〇〇	二一七、一五四 三五	六一四、〇五四 三五	

備考

一、利率ハ年四分五厘トシ九年度利子ハ半ケ年分ヲ計上ス

公債償還年次表（社會館）

年度	起債額	每年度支出額			年度末未償還額
		元金償還額	利子支拂額	計	
昭和九	二〇四、〇〇〇円	—円	四、五九〇円 00	四、五九〇円 00	二〇四、〇〇〇円
一〇		—	九、一八〇 00	九、一八〇 00	二〇四、〇〇〇
一一		七、六〇〇	九、一八〇 00	一六、七八〇 00	一九六、四〇〇
一二		七、九〇〇	八、八三八 00	一六、七三八 00	一八八、五〇〇
一三		八、三〇〇	八、四八二 五〇	一六、七八二 五〇	一八〇、二〇〇
一四		八、七〇〇	八、一〇九 00	一六、八〇九 00	一七一、五〇〇
一五		九、一〇〇	七、七一七 五〇	一六、八一七 五〇	一六二、四〇〇
一六		九、五〇〇	七、三〇八 00	一六、八〇八 00	一五二、九〇〇
一七		九、九〇〇	六、八八〇 五〇	一六、七八〇 五〇	一四三、〇〇〇
一八		一〇、三〇〇	六、四三五 00	一六、七三五 00	一三二、七〇〇
一九		一〇、八〇〇	五、九七一 五〇	一六、七七一 五〇	一二一、九〇〇
二〇		一一、三〇〇	五、四八五 五〇	一六、七八五 五〇	一一〇、六〇〇
二一		一一、八〇〇	四、九七七 00	一六、七七七 00	九八、八〇〇
二二		一二、三〇〇	四、四四六 00	一六、七四六 00	八六、五〇〇
二三		一二、九〇〇	三、八九二 五〇	一六、七九二 五〇	七三、六〇〇
二四		一三、五〇〇	三、三一二 00	一六、八一二 00	六〇、一〇〇
二五		一四、一〇〇	二、七〇四 五〇	一六、八〇四 五〇	四六、〇〇〇
二六		一四、七〇〇	二、〇七〇 00	一六、七七〇 00	三一、三〇〇
二七		一五、四〇〇	一、四〇八 五〇	一六、八〇八 五〇	一五、九〇〇
二八		一五、九〇〇	七一五 五〇	一六、六一五 五〇	
計	二〇四、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	一一一、七〇二 五〇	三一五、七〇二 五〇	

公債償還年次表（中、東公設市場）

年度	起債額	每年度支出額			年度末未償還額
		元金償還額	利子支拂額	計	
昭和九	一九二、九〇〇円	—円	四、三四〇円 二五	四、三四〇円 二五	一九二、九〇〇円
一〇		—	八、六八〇 五〇	八、六八〇 五〇	一九二、九〇〇
一一		七、二〇〇	八、六八〇 五〇	一五、八八〇 五〇	一八五、七〇〇
一二		七、五〇〇	八、三五六 五〇	一五、八五六 五〇	一七八、二〇〇
一三		七、八〇〇	八、〇一九 00	一五、八一九 00	一七〇、四〇〇
一四		八、三〇〇	七、六六八 00	一五、九六八 00	一六二、一〇〇
一五		八、五〇〇	七、二九四 五〇	一五、七九四 五〇	一五三、六〇〇
一六		九、〇〇〇	六、九一二 00	一五、九一二 00	一四四、六〇〇
一七		九、四〇〇	六、五〇七 00	一五、九〇七 00	一三五、二〇〇
一八		九、九〇〇	六、〇八四 00	一五、九八四 00	一二五、三〇〇
一九		一〇、三〇〇	五、六三八 五〇	一五、九三八 五〇	一一五、〇〇〇
二〇		一〇、八〇〇	五、一七五 00	一五、九七五 00	一〇四、二〇〇
二一		一一、二〇〇	四、六八九 00	一五、八八九 00	九三、〇〇〇
二二		一一、七〇〇	四、一八五 00	一五、八八五 00	八一、三〇〇
二三		一二、三〇〇	三、六五八 五〇	一五、九五八 五〇	六九、〇〇〇
二四		一二、八〇〇	三、一〇五 00	一五、九〇五 00	五六、二〇〇
二五		一三、三〇〇	二、五二九 00	一五、八二九 00	四二、九〇〇
二六		一三、五〇〇	一、九三〇 五〇	一五、四三〇 五〇	二九、四〇〇
二七		一四、四〇〇	一、三二三 00	一五、七二三 00	一五、〇〇〇
二八		一五、〇〇〇	六七五 00	一五、六七五 00	—
計		一九二、九〇〇	一〇五、四四〇 七五	二九八、三四〇 七五	

甲					
乙					
丙					
丁					
戊					
己					
庚					
辛					
壬					
癸					
子					
丑					
寅					
卯					
辰					
巳					
午					
未					
申					
酉					
戌					
亥					
甲					
乙					
丙					
丁					
戊					
己					
庚					
辛					
壬					
癸					
子					
丑					
寅					
卯					
辰					
巳					
午					
未					
申					
酉					
戌					
亥					

第十五類　市有財產及管理

基本財産蓄積條例

明治三十八年度第十一號議決
同　年八月　許可

改正　大正十二年三月二十九日條例第三號

第一條　本市ハ本條例ノ規定ニ依リ毎年度基本財産ヲ蓄積ス

第二條　左ノ收入ハ基本財産トシテ蓄積スルモノトス

一、基本財産ヨル生スル收入

二、公用ヲ廢シタル官有地ノ拂下ヲ受ケタル場合ニ於テ之ヲ賣拂ヒタル代金

第三條　前條ノ外明治三十八年度ニ於テ土木費ニ費消スル基本財産金四萬八千百七拾四圓九拾九錢ノ補充トシテ明治四十二年度ヨリ明治四十五年度マデ毎年度金壹萬圓宛明治四十六年度ニ於テ金八千百七拾四圓九拾九錢ヲ市費ヨリ積立テ大正十二年度ニ於テ商業學校基本財産總額壹千百九圓ヲ繰入基本財産トシテ蓄積ス

第四條　公債ヲ起ス場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ以テ其償還ヲ了スル迄ノ間第二條及第三條ノ蓄積ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ其停止年數ニ應シ第三條ノ蓄積年數ヲ延長スルモノトス

第五條　基本財産ノ收支精算ノ要領ハ每翌年度ニ於テ之ヲ市內ニ公告スヘシ

第六條　此條例ニ依リ蓄積スル處ノ基本財産ハ特別會計トシ一般歲入歲出ノ豫算ニ編入セス但シ收支ノ手續ハ一般歲入出ノ例ニ依ル

附　則

第七條　本條例ハ明治三十九年度ヨリ施行ス

第十五類　市有財產及管理

基本財産管理規程

大正二年六月五日
告示第八十一號

第一條　基本財産ハ有價證券若クハ不動產ト爲シ之ヲ管理ス但シ時宜ニ因リ郵便貯金銀行預金ト爲スコトヲ得

第二條　不動產貸與ニ關シテハ市有土地貸與規則ヲ準用ス

第三條　有價證券ノ種類及預金スヘキ銀行ノ選定ハ市參事會ノ議決ニ依ル

第四條　有價證券及不動產ノ買入ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五條　積立金ノ管理ハ本規定ヲ適用ス

附　則

第六條　名古屋市基本財産規則ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

基本財産蓄積停止ノ件

明治四十一年度
第六十一號議決

改正　大正五年第九十二號議決

本市公債ノ償還ヲ了スル迄ノ間基本財産蓄積條例第四條ニ依リ同條例第二條第一號ノ外蓄積ヲ停止ス

市有地貸與規則

明治四十二年八月十七日
告示第二十二號

第一條　市有地ノ貸與ハ公入札ヲ以テス

第二條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ公入札ニ拠ラスシテ貸與スルコトアルヘシ

一、百坪未滿ノ貸與

二、借地内ニアル造設物ノ全部若クハ一部ノ所有權ヲ取得シタル者ニ對スル貸與

三、一時ノ貸與

四、入札者無キトキ又ハ再入札ニ付スルモ尚建定借地料額ニ達セサル場合ノ貸與

第三條　市有地貸與ノ年限ハ二十ケ年以内トス但シ期間滿了ノ後市ノ指定地料ヲ支拂フトキハ繼續貸與スルコトアルヘシ

第四條　市有地ヲ借用セムトスル者ハ使用ノ目的其位置坪數ヲ記載シ造設物等ノ圖面ヲ添ヘ保證人連署ノ上當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　借地料ハ使用許可アリタル日ヨリ一ケ年内ニ使用ニ必要ナル設備ヲ完成スヘシ但シ當廳ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

第六條　造設物ノ新築改築及ヒ增築ハ工事仕樣明細書ニ圖面ヲ添ヘ保證人連署ノ上當廳ノ許可ヲ受ケ工事落成ノ上ハ届出檢査ヲ受クヘシ其地盤ニ工事ヲ施サントスル者亦同シ

第七條　護岸等ノ改築修繕ヲ要スル場合ニ於ケル該地所在ノ物件維持竝ニ其費用ハ使用人ノ負擔タルヘシ

第八條　借用地ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第九條　借用期間内ニ其地所ヲ返納シ又ハ使用ノ目的ヲ變更セントスルトキハ保證人連署ノ上當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　左ニ掲クル場合ニ於テハ保證人連署ノ上十日以内ニ當廳ニ届出スヘシ

一、家督又ハ遺産相續ノトキ

二、改氏名及轉居ノトキ

第十一條　借地人本市ニ住所ヲ有セサルトキハ其借地ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理スヘキ代理人ヲ定メ當廳ニ届出ツヘシ

代理人ハ本市ニ住所ヲ有スル能力者タルコトヲ要ス

第十二條　保證人ハ本市ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ土地又ハ家屋ヲ有スル者ニ限ル

保證人ノ債務ハ借地人ト連帶トス

第十三條　保證人ヲ換ヘムトスルトキハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　保證人ハ當廳ノ見込ヲ以テ變更セシムルコトアルヘシ

第十五條　保證人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ借地人ハ更ニ保證人ヲ立テ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一、第十二條第一項ノ要件ヲ缺キタルトキ

二、失踪ノ宣告アリタルトキ

三、死亡シタルトキ

第十六條　貸與期間中本市ノ使用ニ供スルカ又ハ公共ノ用ニ供スルノ必要アルトキハ許可ヲ取消シ期限ヲ指定シ之ヲ返還セシム

第十七條　貸與期間中左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三ケ月以前ニ通告シ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、當廳ノ許可ヲ經スシテ使用ノ目的ヲ變更シタルトキ

二、借地料ヲ滯納シタルトキ

三、借地内ニアル造設物ノ所有權ヲ喪失シタルトキ

四、第五條第六條第八條第十二條第十五條ノ規定ニ違背シタルトキ

五、第七條及第十四條ノ規定ニ應セサルトキ

第十八條　借用期間滿了ノトキ又ハ其期間内ニ前二條ノ通告ヲ受ケタル時ハ指定期間内ニ土地ヲ原狀ニ復スヘシ

第十九條　借地人前條ノ期間内ニ土地ヲ原狀ニ復セサルトキハ當廳ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ徵收ス

第二十條　地料ノ計算方法左ノ如シ

一、年ヲ以テ定メタルモノハ四月ヨリ翌年三月マテヲ一年額トシ其他ハ月割ヲ以テ計算ス

二、月ヲ以テ定メタルモノハ初月終月ヲ問ハス總テ全月額トス

第二十一條　借地料ノ徵收期左ノ如シ

一、年ヲ以テ許可シタルモノハ會計年度ニ依リ一年度ヲ二期ニ分チ其第一期分ヲ四月中ニ第二期分ヲ十月中ニ徵收ス但シ四月以後新ニ許可シタルモノハ初年度第一期分ニ限リ許可ノ日ヨリ十日以内ニ徵收スス

二、月又ハ日ヲ以テ許可シタルモノハ其許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徵收ス

第二十二條　借地料ノ額ハ其年限中ト雖モ滿三ケ年ヲ經ル毎ニ增減スルコトアルヘシ此場合ハ三ケ月前ニ之ヲ通告ス

第二十三條　本則ニ違背シ許可ヲ取消タルトキハ既納ニ係ル地料ハ之ヲ還付セス

第十六條ニ依リ許可ヲ取消タル場合ハ既納ノ地料ハ月割又ハ日割ヲ以テ還付ス

基本財産有價證券ノ種類及領金スヘキ銀行選定ノ件

大正二年七月四日市參事會決議
改正　大正十一年二月七日市參事會決議

有價證券ノ種類

一、國債證券
二、地方債證券
三、株式會社日本興業銀行債券
四、株式會社日本興業銀行債券
五、株式會社臺灣銀行債券
六、株式會社北海道拓殖銀行債券
七、株式會社日本製鋼所擔保付社債券
八、株式會社尾三農工銀行債券

預金スヘキ限行

株式會社伊藤銀行
株式會社尾三農工銀行
株式會社村瀨銀行
株式會社愛知農商銀行

史傳參考品陳列舘建設資金及管理規程

大正六年三月三十日
告示第五十三號

第一條　建設資金ノ收支ハ特別會計トシテ之ヲ整理ス

第二條　資金ハ基本財産管理規程ニ據リ之ヲ整理ス

第三條　資金ノ歳入歳出豫算ハ市參事會ニ於テ之ヲ議決ス

第四條　資金ヨリ生スル利子ハ特別寄附金アルトキハ之ヲ資金ニ編入ス

火災損害塡補資金規定

大正十一年四月二十日
告示第六十一號

改正　大正十四年三月三十一日告示第九十三號　昭和二年十一月十日告示第三百二十三號

第一條　本市ハ其所有ニ係ル建物ノ火災ニ因ル損害ヲ塡補センカ爲メ火災損害塡補基金ノ積立ヲ爲ス但シ基金五拾萬圓ニ達スル迄ハ保險會社ト保險契約ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ建物ハ毎年四月一日現在ニ於ケル其所在地、構造、用方、坪數、時價塡補金額ヲ各棟別ニ簿冊ニ記載保存スヘシ

簿冊作成期日後竣工セシ建物アルトキハ其都度前項ノ事項ヲ追記スヘシ

第三條　積立金額ハ塡補金額ニ對スル一ヶ年千分ノ三以上トス前條第二項ノ建物ニ對スル積立金ハ月割ヲ以テ計算ス

第四條　損害塡補ノ責任ハ第二條ノ要項決裁日ノ午後六時ヲ以テ始マリ期間終了日ノ午後六時ヲ以テ終ル

第五條　基金ハ第二條ノ建物カ火災ニ罹リタルトキ損害塡補ノ爲メ支出ス

前項ノ支出額ハ建物一棟全部燒失シタル場合ハ責任額ノ金額一部罹災ノ場合ハ損害ノ程度ヲ調査シ市長其支出額ヲ決定ス

第六條　天災事變等ノ爲メニ生シタル火災及其延燒ノ損害ニ對シテハ塡補ヲ爲サヽルモノトス

第七條　基金ノ現在金ハ銀行預金トナシ利殖ヲ計ルモノトス但シ市參事會ノ議決ヲ經テ他ノ會計ニ運用スルコトヲ得

預金銀行ハ市金庫事務取扱銀行ノ內ニテ市長選定ス

基金ノ管理ニ就テハ第一項ニ依ルノ外基本財産管理規程ヲ準用ス

第八條　基金現在金ヲ以テ第五條ノ支出ヲ爲スニ不足ヲ生スル場合ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

第九條　本規程ノ收支ハ特別會計トシテ整理シ其歳入歳出豫算ハ市參事會ニ於テ議決ス

第十條　本規程ハ動産ノ火災損害塡補ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ準用ス

物品取扱順序

明治三十四年八月二十日
市參事會議決

改正　大正十三年四月一日達第二十四號　大正十五年九月二十三日達第六十九號　昭和三年四月二十三日達第四十一號　昭和三年五月三十日達第四十大號　昭和四年四月十七日達第十四號　昭和七年十二月二十三日達第二十二號　昭和八年六月十五日達第十號

第一章　總則

第一條　市費支辨ニ屬スル物品ノ取扱ハ總テ本順序ニ據リ處理セシム但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第二條　物品ノ出納及管理ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ物品出納主任一名及各課、各學校、幼稚園、各青年訓練所、圖書舘、職業紹介所、東山寮、動物園、病院、療養所、トラホーム治療所、下水處理場、名古屋市淨水場、衞生試驗所、屠場、墓地、宿泊所（共同宿泊所ヲ含ム）勞働紹介所、診療所ニ物品保管主任各一名ヲ置ク

第三條　物品出納主任ハ市長之ヲ任免シ物品保管主任ハ各課長、各青年訓練所主事、各學校長、幼稚園長、圖書舘長、職業紹介所長、東山寮長、動物園長、療院長、療養所長、衞生試驗所長、屠場長、墓地事務所長、宿泊所長（共同宿泊所長ヲ含ム）勞働紹介所長、診療所長、トラホーム治療所長、下水處理場長、名古屋市淨水場長ヲ以テ之ニ充ツ

第二章　出納

第四條　物品ノ出納ハ市長ノ命ヲ受ケ物品出納主任ヲ掌理ス

第五條　常用物品ノ內郵便切手用紙薪炭油蠟燭等ノ如キ日々支消スル物品ハ一ヶ年需用高ノ概算ヲ以テ二回以上數回ニ購入貯藏シ物品出納主任ニ於テ隨時拂ヒ渡スモノトス

第六條　物品ノ請求ハ物品保管主任其品名數量及使用ノ目的ヲ明ニシ（學校幼稚園ノ物品ハ學事課、圖書舘、青年訓練所、動物園ノ物品ハ社會教育課、職業紹介所、東山寮、共同宿泊所、勞働紹介所ノ物品ハ社會部庶務課、病院、療養所、衞生試驗所、屠場、墓地、共同宿泊所、勞働紹介所、診療所、トラホーム治療所、下水處理場、名古屋市淨水場中共用ノ物品ハ物品保管主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第七條　物品出納主任及物品保管主任ハ帳簿ヲ備ヘ常ニ物品ノ所在數量金額等ヲ明瞭ナラシムヘシ但シ其價額ノ分明ナラサルモノハ見積價額ヲ以テスヘシ

第八條　物品保管主任ニ於テ使用ヲ止メタル物品ハ（學校幼稚園ハ學事課、圖書舘、青年訓練所、動物園ハ社會教育課、職業紹介所、東山寮、共同宿泊所、勞働紹介所ハ社會部庶務課、病院、療養所、衞生試驗所、屠場、墓地、診療所、トラホーム治療所ハ保健部主管課、下水處理場、名古屋市淨水場ノ物品ハ水道部庶務課ヲ經テ）物品出納主任ニ返付スヘシ但シ其物品毀損ニ係ルトキハ其事由及保管者ヲ明記シタル書面ヲ添付スヘシ

第九條　物品出納主任ハ不用ノ物品アルトキハ賣却及ハ棄却ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　物品ノ出納ハ會計年度ニ依リ區分シ年末ニ於テ支拂殘餘ノ物品ハ翌年度ニ繰越スヘシ

第三章　保管責任

第十一條　貯藏及使中共用ノ物品ハ物品出納主任、課中共用及學校、幼稚園、青年訓練所、圖書舘、職業紹介所、東山寮、動物園、病院、療養所、衞生試驗所、屠場、墓地、共同宿泊所、勞働紹介所、診療所、トラホーム治療所、下水處理場、名古屋市淨水場中共用ノ物品ハ物品保管主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第十二條　物品出納主任ハ既ニ交付シタル物品ト雖モ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責任アルモノトス

第十三條　總テ保管ノ責アルモノ故意又ハ怠慢ニヨリ物品亡失毀損シタル

物品取扱手續

明治三十四年九月十四日　市事會決議

改正　大正三年八月十五日施行
大正六年四月一日施行
大正十三年四月一日施行
大正十四年十月一日施行
昭和三年四月十日施行
昭和四年十月十日施行
昭和七年十二月三十一日施行
昭和八年六月十五日施行

第一條　凡ソ物品ヲ購入シ製造シ又ハ修繕シ保管シ使用シ又ハ處分スルニ關シテハ本手續ニ依ル

第二條　物品出納主任及物品保管主任ハ取扱主任ヲ定メテ事務ヲ處理セシムルコトヲ得

第三條　物品ヲ亡失毀損シタルトキハ物品保管主任ハ其ノ品名數量及事由ヲ詳記シタル書面ニ亡失ノ手續書ヲ添ヘ物品出納主任ニ差出スヘシ

第四條　物品保管主任ハ其ノ保管ニ屬スル物品ニ付キ市長ノ定ムル帳式ニ依リ之ヲ整理スヘシ

一、備品出納簿　（非式第四號）
一、消耗品出納簿　（非式第五號）
一、生産品出納簿　（非式第六號）
一、郵便切手整理簿　（非式第七號）

以上ノ帳簿ハ各經費毎ニ別冊若クハ別口座トスヘシ

第五條　物品保管主任ハ非式第二號ノ備品內譯簿ヲ備ヘ其ノ保管ニ屬スル備品ヲ整理スヘシ但シ備品內譯簿ハ十月一日現在品ニヨリ二年ヲ經過スル毎ニ其ノ一本ヲ物品出納主任ニ差出スヘシ

第六條　備品ハ其ノ類毎ニ番號ヲ附スヘシ但シ品質ニヨリ番號ヲ附シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第七條　順序第十六條ノ物品出納計算簿ハ非式第八號同十五條ノ證書ハ非式第九號ニ準ルヘシ

第八條　物品ヲ購入セムトスルトキハ非式第一號ノ見積書ヲ徵シ市長ニ提出スヘシ

第九條　物品ヲ購入セムトスルトキハ前條ノ見積書ヲ徵シ市長ニ提出スヘシ但シ市長ニ於テ必要ト認メタルトキハ見積書ヲ徵セス又ハ數人ノ見積書ヲ徵シ其ノ最モ有利ナル者ニ賣渡サシムルコトヲ得

第十條　物品ヲ購入セムトスルトキハ市長ハ其ノ品名數量及其ノ他必要ノ事項ヲ記シ入札ノ上賣渡ヲ爲スヘシ

第十一條　物品ヲ購入セムトスルトキハ市長ハ其ノ品名數量及其ノ他必要ノ事項ヲ記シ入札ノ上賣渡ヲ爲スヘシ

第十二條　物品ヲ購入セムトスルトキハ市長ハ其ノ品名數量及其ノ他必要ノ事項ヲ記シ入札ノ上賣渡ヲ爲スヘシ

第十三條　物品ヲ購入セムトスルトキハ市長ハ其ノ品名數量及其ノ他必要ノ事項ヲ記シ入札ノ上賣渡ヲ爲スヘシ

第十四條　物品出納主任ハ物品ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲メ左ノ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

一、備品內譯簿　（非式第三號）

右帳簿ハ貯藏庫中共用倉庫市管等ノ物品ハ別冊若クハ別口座トスヘシ

該請負人ヨリ買入ノ都度其ノ手續ヲ要セス

第十五條　學校、幼稚園、青年訓練所、圖書館、職業紹介所、實山寮、宿泊所（共同宿泊所ヲ含ム）勞働紹介所、動物園、病院、療養所、衛生試驗所、屠場、墓地、診療所、トラホーム治療所ニ於テ物品ヲ購買シタル場合ニ於テハ非式第二號ノ物品購買證ニ品名數量價格ヲ記入シ物品保管主任ノ認印ノ上交付スヘシ

第十六條　物品出納主任及物品保管主任ハ自ラ計算又ハ調書ヲ作ルコトヲ得ルモ其ノ職ヲ異ニスル場合ニ於テハ市長ハ他ノ吏員ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ物品保管主任自ラ調書ヲ作ル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ準ス

第十七條　本順序ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第一號書式

備品（消耗品）請求領收證

品名	數量	使用ノ目的

右及請求候也

年　月　日　　物品保管主任

前書請求物品領收候也

年　月　日　　物品保管主任

物品出納主任　殿

備考　備品請求領收證用紙ハ赤色消耗品請求領收證用紙ハ青色

第二號書式

昭和　年度歳出

經濟別	款	項	種目	附記

仕命　拂令　第　號

市長　下記金額ノ支拂ヲ命ス

經理部長　主計係　主任　助役

物品取扱主任　購入係

納期	昭和　年　月　日	供給人	名古屋市　區　町　丁目　番地
檢收月日	昭和　年　月　日		氏名

金

品名	員數	單價	金額	使用ノ目的
計				

上記ノ金額請求候也
昭和　年　月　日　住所　氏名
名古屋市長　殿

上記ノ金額領收候也
昭和　年　月　日　氏名

金額拾圓以上ノ時ハ此所ニ收入印紙ヲハラレタシ　名古屋市收入役　殿

收入役　主任

第三號書式

月日	摘要	受入 數量	受入 價額	拂出 數量	拂出 價額	現在 數量	現在 價額

第四號書式

月日	摘要	受ノ部 越高	受ノ部 買入	受ノ部 轉保換管	受ノ部 價額	拂ノ部 賣拂	拂ノ部 毀亡損失	拂ノ部 轉保換管	拂ノ部 價額	現在 數量	現在 價額

第五號書式ハ第四號書式ノ保管轉換トアルヲ受ハ生産、拂ハ生産ノ爲トナスヘシ（省略）

第六號書式

月日	品名	數量	月日	摘要	數量	價額
						円

第七號書式

月日	種別	越高	購入	計	概算渡	精算高	殘高

第九號書式

何課（何學校、病院、屠場等）備品調書

何年月日調

品名（單位）	數量	價額	品名（單位）	數量	價額
		円			円

第八號書式

何年度備品（消耗品）出納計算書

品名（單位）	受					拂					殘	
	越高	買入	何々	計	價額	賣價	亡失	何々	計	價額	數量	價額
					円					円		円

第十號書式

昭和　年度歳出	經濟別	款	項	種目	附記
	普通 經常				

丙	經理部長	主計係	調度係	伺出ノ物品御承認相成指令可然哉

物品購入伺

金

内譯

品名	品質形狀	員數	單價	金額	使用ノ目的
計					

上記ノ物品購入致度此段申請候也

昭和　年　月　日

名古屋市

名古屋市長　　殿

指令第　　號

名古屋市

昭和　年　月　日附伺出　購入ノ件承認ス

昭和　年　月　日

名古屋市長

〇伺ハ商人二名以上ノ見積書ヲ添附シ差出スヘシ

〇調査上圖面見本等ノ添附ヲ要ス

物品保管主任ノ消耗品受拂簿書式

何々（品目ヲ記ス）

月日	出納主任ヨリ受入數	使用者ヘ交付數	使用ノ目的	使用者受領印	受入差引殘數	取扱者印

品名毎ニ口座ヲ設ク必要ナキ品目ハ左記書式ニ依リ雜種ノ口座ヲ設ク整理スルモノトス

月日	品名	出納主任ヨリ受入數	使用者ヘ交付數	使用ノ目的	使用者受領印	取扱者印

名古屋市教育基金管理規程

大正七年四月十二日
告示第四十九號

改正　大正十二年三月二十九日告示第六十六號　大正十五年十月二十九日告示第百三十一號　昭和六年十一月六日告示第三百四十八號　昭和七年四月一日告示第二百四十一號

第一條　教育基金ノ收支ハ特別會計トシテ整理ス

第二條　基金ハ基本財產管理規程ニ據リ管理ス

第三條　基金ヨリ生スル利子ハ左記各號ニ依リ支出ス

一、中學校又ハ之ト同一程度ノ學校ノ卒業者ニシテ成績優良ナルモ資力乏シク高等教育ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シ學費ヲ補給スルコト

二、本市工藝學校生徒ノ奬學ヲ圖ルコト

三、削除

四、鹿山文庫圖書購入及其ノ維持ヲ爲スコト

五、兒童就學奬勵費ニ繰入ルルコト

第四條　基金ノ歲入出豫算ハ市參事會ニ於テ議決ス

第五條　每年度歲計ニ剩餘アルトキ又ハ特定寄附金ハ之ヲ基金ニ編入ス

名古屋市慈善事業資金管理規程

大正十二年三月二十九日
告示第六十五號
昭和十年二月一日
告示第十四號

第一條　慈善事業資金ノ收支ハ特別會計トシテ整理ス

第二條　左ノ收入ハ之ヲ資金ニ編入ス

一、資金ヨリ生スル收入

前項第一號ノ收入ハ必要ニ應シ慈善事業ノ經費ニ支出スルコトヲ得

第二條ノ二　本資金ハ必要ニ應シ社會事業ノ經費ニ支出スルコトヲ得

第三條　本資金ノ管理ニ就テハ名古屋市基本財產管理規程ヲ準用ス

附　則

本規程ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市小學校教員視察基金蓄積並管理規程

大正十二年十二月二十八日
告示第百二十八號
改正　昭和七年三月二十四日告示第二百十六號

第一條　大正十二年度義務教育國庫下渡金ノ中壹萬圓ヲ積立テ小學校教員視察基金トス

第二條　大正十三年度以降義務教育國庫下渡金ノ內豫算ニ定ムルトコロニ依リ隨時第一條ノ基金ヘ加ヘ積立ヲ爲シ其ノ額拾萬圓ニ達シタル時之ヲ止ム

第三條　小學校教員視察基金ノ收支ハ特別會計トシテ整理ス

第四條　基金ハ基本財產管理規程ニ依リ之ヲ管理ス

第五條　基金及基金ヨリ生スル利子ハ豫算ノ定ムル所ニ從ヒ左記ニ依リ支出ス

一、小學校教員海外又ハ內地教育視察旅費

第六條　毎年度歳計ニ剰餘アルトキハ之ヲ基金ニ編入ス

一廉拾圓以内ノ工事ニ關スル件

大正十三年四月一日
達第二十六號

各區役所、各學校、圖書館、職業紹介所、動物園、病院、療養所、衛生試驗所、屠場、墓地、其他各課主管各廨ニ於ケル當時修繕ハ一廉拾圓以内ノ工事ニ限リ豫算令達額ノ範圍内ニ於テ其長若クハ課長ニ於テ伺出ヲ要セス執行スルコトヲ得　但シ施行後直ニ報告スルモノトス

故加藤伯銅像維持資金設置規程

昭和四年三月十一日
告示第二十九號

第一條　本市鶴舞公園地内ニ建設セラレタル故伯爵加藤高明君銅像維持ノ爲メ故加藤伯銅像建設會ヨリ寄附シタル金五千圓ヲ以テ維持資金ヲ設置ス

第二條　本資金ヨリ生スル收入ハ銅像維持ノ費用ニ支出シ左ノ收入ハ之ヲ資金ニ編入ス

一、指定寄附金

第三條　本資金ノ管理ニ付テハ基本財産管理規程ヲ準用ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

自治振興資金設置規程

昭和四年三月十一日
告示第三十號

第一條　大禮ニ當リ本市ニ下賜セラレタル金壹萬圓ヲ以テ自治振興ニ關スル資金トシテ永遠ニ之ヲ保存スルモノトス

第二條　資金ハ特別會計トシテ之ヲ整理ス

第三條　資金ヨリ生スル收入ハ本市自治ニ關スル費用ニ支出スルモノトス

第四條　資金ハ一般市費ヲ繰入レ增加スルコトヲ得
指定寄附金ハ資金ニ編入ス

第五條　資金ノ管理ニ付テハ基本財産管理規程ヲ準用ス

第六條　資金ノ歳入歳出豫算ハ市參事會ニ於テ之ヲ議決スルモノトス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市公會堂使用條例

昭和五年九月二十六日
條例第十一號

改正　昭和五年十二月十二日條例第十三號　昭和九年三月二十三日條例第四號

第一條　本市公會堂ヲ使用セムトスル者ハ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　公會堂ノ使用ニ付テハ承認ノ際別表ニ依ル使用料ヲ徴收ス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトアルヘシ
公會堂備付ノ活動寫眞映寫機ピアノ舞臺裝置等特殊ノ器具ノ使用ニ付テハ市長ノ定ムル所ニ依リ前項ノ外別ニ其ノ使用料ヲ徴收ス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用ヲ承認セス
一、使用期間六十日前ニ使用申込アリタルトキ
二、公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ
三、公會堂及附屬設備ヲ毀損スルノ虞アリト認ムルトキ
四、管理上支障アリト認ムルトキ
五、其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第四條　市長ハ公會堂使用承認ニ付管理上必要ナル條件ヲ附シ及保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第五條　使用特別ノ設備ヲ爲サムトスルトキハ豫メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　使用者其ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第七條　使用者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ其ノ使用條件ヲ變更シ使用ヲ停止シ又ハ使用承認ヲ取消スコトアルヘシ
一、本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタルトキ
二、使用承認ノ條件ニ違反シタルトキ
三、其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第八條　使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ直チニ設備ヲ原狀ニ回復スヘシ前條ノ規定ニ依リ使用承認ヲ取消サレタルトキ亦同シ
使用者前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ市長ニ於テ之ヲ執行シ其ノ費用ヲ徴收ス

第九條　使用ニ付公會堂及附屬設備ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ使用者ハ市長ノ定ムル損害額ヲ賠償スヘシ

第十條　前條ノ賠償金又ハ第八條第二項ノ規定ニ依ル費用ヲ完納セサルトキハ第四條ノ規定ニ依ル保證金ヲ以テ之カ全部又ハ一部ニ充當スルコトアルヘシ

第十一條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ
一、使用者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リ使用スルコト能ハサルトキ
二、公益上又ハ本市ノ都合ニ依リ使用承認ヲ取消シタルトキ
三、使用期日前七日目迄ニ使用承認ノ取消ヲ申出テ市長ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキ

第十二條　市長ハ公會堂ノ使用ニ關シ入場者ノ數ヲ制限シ又ハ一定ノ行爲ヲ制限若クハ禁止スルコトヲ得

第十三條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和五年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

別表

名古屋市公會堂使用料表

但シ大食堂及中食堂ニ限リ之ヲ食事ノ爲使用スル場合ニ限リ

晝間　自午前十時　至午後三時
夜間　自午後四時　至午後九時
晝夜間　自午前十時　至午後九時

但シ大食堂又ハ中食堂ヲ使用スル場合ニ於テハ

晝間　自午前九時　至午後四時
夜間　自午後五時　至午後十一時
晝夜間　自午前九時　至午後十一時

使用區域 名稱	番號	位置	坪數	晝間	夜間	晝夜間	備考
全館				二〇〇圓	三〇〇圓	四〇〇圓	入場料ノ類ヲ徵收セサル場合
				三〇〇	四〇〇	五五〇	入場料ノ類ヲ徵收スル場合
				四五〇	五五〇	八〇〇	諸興行其ノ他營利ヲ主タル目的トスル場合
大集會室（兩控室附）	I—1	一、二、三階	五八九	六〇	八〇	一二〇	入場料ノ類ヲ徵收セサル場合
			內控室I—4 二五坪	一二〇	一四〇	二〇〇	入場料ノ類ヲ徵收スル場合
			控室I—5 二三坪	二〇〇	二五〇	四〇〇	諸興行其ノ他營利ヲ主タル目的トスル場合
小集會室	I—2	一階西南隅	二二	五	七	一〇	
婦人集會室	II—1	二階東南隅	二七	七	九	一四	
小集會室	II—2	二階西南隅	二七	七	九	一四	
談話室	II—3	二階東南	一一	三	五	七	
談話室	II—4	二階西南	一〇	三	五	七	
小食堂	II—5	二階東北隅	二三	三	五	七	食事ノ使用ニ限ル
小集會室	II—6	二階西北隅	二五	六	八	一二	
日本間	III—1	三階東南隅	二七（二一疊及四疊半）	一〇	一三	二〇	
小集會室	III—2	三階西南隅	二七	七	九	一四	
談話室	III—3	三階東南	一一	三	五	七	
小食堂	III—5	三階東北隅	二三	三	五	七	食事ノ使用ニ限ル
小集會室	III—6	三階西北隅	二五	六	八	一二	
大食堂（2—5—6 附 III—III—III）	III—1	四階	二四八（2—5—6ヲ除 III—III—III ク）	五〇	七〇	一〇〇	入場料ノ類ヲ徵收セサル場合
				八〇	一〇〇	一五〇	入場料ノ類ヲ徵收スル場合
				一二〇	一五〇	二二〇	諸興行其他營利ヲ主タル目的トスル場合

大集會室使用者ガ同日併用スル場合ハ右使用料カ二割減額ス

中集會室	Ⅲ—2	四階南側	四五	一五	二〇	三〇	
特別室	Ⅲ—3	四階東南隅	二七	三〇	四〇	六〇	
談話室	Ⅲ—5	四階東南	一一	三	五	七	
談話室	Ⅲ—6	四階西南	一〇	三	五	七	
小集會室	Ⅲ—8	四階西北隅	二五	六	八	一二	
中食堂 附(8—Ⅲ)	Ⅲ—9	四階北側	六三（8—Ⅲヲ除ク）	二〇	二五	三五	
娛樂室	Ⅲ—4	四階西南隅	二七	使用ノ方法ニ從ヒ市長ノ定ムル所ニ依ル			

全館、大集會室、大食堂ヲ使用スル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ各其ノ使用料ヲ一割增額ス

一、昭和二年三月、四月、勅令第二十五號ニ規定スル休日、日曜日、一月一日及二日

二、前號ニ揭ク日ノ前日ノ夜間又ハ晝夜間

名古屋市公會堂使用條例施行細則

昭和五年十月三日
告示第三百二十五號

改正　昭和五年十二月二十四日　告示第三百七十二號　昭和八年三月十日　告示第百十八號　昭和十年四月二日　告示第六十九號

第一條　名古屋市公會堂使用條例（以下單ニ條例ト稱ス）ニ依リ公會堂ヲ使用セムトスル者ハ公會堂事務室ニ左記事項ヲ記載シタル願書ヲ提出シ承認書ノ交付ヲ受クヘシ其ノ記載事項變更セムトスルトキ亦同シ

一、使用目的
二、使用ノ日時
三、使用區域
四、入場料類徵收ノ有無
五、使用責任者住所氏名
六、其ノ他必要ナル事項

第二條　條例第二條第二項ノ規定ニ依リ公會堂內備付特殊器具ノ使用料別表ノ通定ム

前項ノ特殊器具使用ノ場所及數量ニ付テハ當該係員ノ制限スル所ニ從フヘシ

第三條　公會堂使用者又ハ入場者ハ其ノ使用ニ付當該係員ノ指示ニ從ヒ左記事項ヲ遵守スヘシ

一、空室ト雖モ使用承認以外ノ室ヲ無斷ニテ使用セサルコト
二、壁、柱、扉、長押等ニ貼紙シ又ハ釘類ヲ打タサルコト
三、承認ヲ經スシテ設備ヲ變更セサルコト
四、食堂內ニ於テ菜菓以外ノ飲食ヲ爲ササルコト
五、公會堂內ニ於テ用フル飲食物ノ供給ハ地階公衆食堂ノ營業者ヲシテ之ヲ爲サシメ直接公會堂外ヨリ搬入シ又ハ搬入セシメサルコト
六、喫煙所外ノ火氣ヲ使用セサルコト
七、大集會室ニ於テハ控室ヲ除クノ外喫煙セサルコト
八、特ニ許可ヲ受ケタル者ノ外公會堂內ニ於テ物品ヲ販賣セサルコト
九、係員、小使、給仕等ニ對シ絕對ニ金品ノ給與ヲ爲ササルコト

第四條　使用者ハ當該係員ノ求メニ依リ使用區域內ノ秩序ヲ保持スルニ必要ナル取締人ヲ置クヘシ

第五條　使用者ハ當該係員ノ入室ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ係員ニハ別ニ定ムル所ノ徽章ヲ佩用セシム

第六條　使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ當該事務室ニ引渡ヲ爲スヘシ

附　則

本細則ハ名古屋市公會堂使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

特殊器具使用料表

種別	數量	一回ノ料金	備考
活動寫眞映寫機	一臺	三〇、〇〇圓	技術者附
映寫用發聲裝置	一式	三〇、〇〇	技術者附
大集會室ピアノ　橫型ピアノ	一臺	二五、〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔
大集會室ピアノ　竪型ピアノ	一臺	一〇、〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔

會舞臺照明裝置	一式	二五、〇〇		技術者附ボーダーライト一列及上部ホリソント白色一列ノ使用料ハ大集會室使用料中ニ含ム
所作臺	一組	八、〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔	
室用 オーケストラピット（電氣スタンド二十人分迄）		五、〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔	
音樂臺	一組	三、〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔	
擬聲機	一式	三、〇〇	技術者附	
音響反射天井	一組	三、〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔	
湯殿	一回	三、〇〇		
大食堂用 置舞臺（卓子拔、背面幕ヲ含ム）	一式	一〇、〇〇〇	配置及片附ハ使用者ノ負擔	
特殊照明裝置	一式	三、〇〇		
各室 金屏風	一雙	五、〇〇		
碁盤	一面	三〇		
將棋盤	一面	一五		
卓子（長サ六尺幅四尺五寸）	一脚	二〇	各室備付定數以外	
卓子（半圓形徑四尺五寸）	一組	二〇	各室備付定數以外	
卓子（圓形徑三尺五寸）	一脚	一〇	各室備付定數以外	
卓子（限切二尺五寸角）	一脚	一〇	各室備付定數以外	
椅子	一脚	〇五	各室備付定數以外	
長椅子（長サ六尺幅二尺三寸）	一脚	三〇	各室備付定數以外	
室用 輻子掛（徑二尺五寸）	一個	一〇	各室備付定數以外	
電熱用湯沸器	一個	五〇		

備考　使用料金ハ晝間又ハ夜間ハ一回、晝夜間使用スル場合ハ五割增トシテ計算ス

備品貸與規程

昭和四年十二月六日
告示第二百二號

第一條　本市ノ器具機械船車其ノ他ノ備品ハ市ノ用ニ妨ケナキ限リ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ貸與スルコトヲ得

一、本市内ニ於ケル官公署ノ用ニ供スルコト

二、本市公益ノ爲メ使用スルコト

三、其他市長ニ於テ適當ト認メタルトキ

第二條　備品ヲ借受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ市長ニ提出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

一、借受セムトスル備品ノ種類名稱及數量

二、使用目的

三、使用ノ期日若ハ期間

四、使用ノ場所

五、借受人ノ住所氏名

第三條　前條ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ市長ノ指定スル借料ヲ前納スヘシ但シ市長ニ於テ必要ナシト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

第四條　市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ貸與品ヲ返還セシム此ノ場合ニ於テ借受人カ損害ヲ被ルコトアルモ市ニ對シテ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條　使用ニ因リ貸與品ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ何人ノ所爲タルヲ問ハス借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ノ賠償額及賠償方法ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第六條　市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ貸與許可ノ際保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第七條　前各條ニ規定スルモノノ外使用ノ方法及返還ノ手續其ノ他凡テ市長ノ指示ニ從フヘシ

附　則

本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市公會堂維持費積立金規程

昭和八年三月二十三日
告示第百二十七號

第一條　名古屋市公會堂維持ノ爲積立金ヲ爲スモノトス

第二條　積立金ハ公會堂建設費指定寄附金收支殘金並左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、積立金ヨリ生スル收入

二、公會堂收入中每年豫算ニ定ムル額

三、指定寄附金

第三條　積立金ノ管理ニ付テハ基本財産管理規程ヲ準用ス

附　則

本規程ハ昭和八年度ヨリ之ヲ施行ス

舊市廳舍及舊市會議事堂管理規程

昭和八年九月十四日
告示第三百四十七號

第一條　舊市廳舍及舊市會議事堂ハ本規程ニ依リ之ヲ管理スルモノトス

第二條　本規程ニ於テ舊市廳舍ト稱スルハ從來市役所ノ用ニ供シタル土地建物及其ノ附屬設備ヲ謂ヒ舊市會議事堂ト稱スルハ從來市會議事堂ノ用ニ供シタル土地建物及其ノ附屬設備ヲ謂フ

第三條　舊市廳舍及舊市會議事堂ハ直接市ノ用ニ供スル場合ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ貸與スルコトヲ得

一、官公署公共團體ニ於テ使用セムトスルトキ

二、市長ニ於テ市ノ行政上特ニ必要アリト認ムルトキ

第四條　從來ノ市會會議場議長室及受付所（以下舊議事堂ト稱ス）ハ前條ノ規定ニ依ル場合ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ貸與

スルコトヲ得但シ營利ヲ目的トスルモノ演劇興行ノ類ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一、教育衛生軍事産業技藝美術慈善ノ類ニ關スル講習、講演、集會等公益ノ爲使用スルトキ

二、特別ノ事由ニ依リ市長ニ於テ貸與スルモ差支ナシト認メタルトキ

第五條　舊市廳舍又ハ舊市會議事堂ヲ使用セムトスル者ハ使用ノ目的使用場所、使用期間若ハ日時及施設ノ要領ヲ具シ市長ニ願出許可ヲ受クベシ

第六條　舊議事堂以外ノ土地建物ヲ貸與スル場合ニ於テハ其ノ貸與期限ヲ五年以内トス但シ期限内ト雖モ市ニ於テ必要アルトキハ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第七條　舊議事堂以外ノ土地建物ヲ貸與スル場合ハ貸付料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ貸付料及其ノ徵收方法ハ貸與スヘキ土地建物ノ位置構造坪數使用ノ期間及方法等ヲ斟酌シ市長之ヲ定ム

第八條　舊議事堂ヲ貸與スル場合ニ於テハ左ノ貸付料ヲ徵收ス

晝間（自日出時至日沒時）　一回　金拾圓

夜間（自日沒時至午後十一時）　一回　金拾五圓（電燈料ヲ含ム）

瓦斯料　設備等ハ借受人ノ負擔トス

第九條　舊議事堂ノ貸付料ハ貸與許可ノ際之ヲ徵收ス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ貸付料ヲ減免シ又ハ使用後徵收スルコトヲ得

第十條　使用ニ因リ貸與物件ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ何人ノ所爲タルヲ問ハズ借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ノ賠償額及賠償ノ方法ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　市長ハ借受人ヲシテ左ノ事項ヲ遵守セシムヘシ

一、借受物件ヲ毀損シ若ハ亡失セサルコト

二、使用ヲ終リタルトキハ之ヲ原狀ニ回復シテ返還スルコト

三、其ノ他市長ノ指示スル事項

第十二條　舊議事堂以外ノ土地建物ハ借受人ノ願出ニ依リ原形ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル土地建物ハ返還ノ際原形ニ回復セシムヘシ但シ土地建物ノ永久ノ利益ト爲ルヘキモノニシテ特ニ市長ニ於テ原形ニ回復セシムル要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　借受人ハ如何ナル事由アルモ借受物件ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違背シタル者アルトキ又ハ不都合ノ所爲アルトキハ貸與期限ノ如何ニ拘ハラス市長ハ使用ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條　使用許可ヲ取消シタル場合ニ於テ未納ノ貸付料ハ直ニ之ヲ徵收シ既納ノ貸付料ハ返還セス但シ使用許可取消ノ場合ニ於テ酌量スヘキ特別ノ事情アリト認ムルトキハ市長ハ既納貸付料一部又ハ全部ヲ還付スルコトヲ得

第十五條　不可抗力ニ依リ借受物件ヲ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ市ノ必要ニ依リ貸與物件ヲ返還セシメタル場合ニ於テ既納ノ貸付料アルトキハ之ヲ還付ス

舊中區役所建物管理規程

昭和九年六月四日告示第百二十八號

第一條　舊中區役所建物（構内土地及附屬設備ヲ含ム）ハ本規程ニ依リ之ヲ管理ス

第二條　舊中區役所建物ハ市ノ用ニ供スル場合ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ貸付スルコトヲ得

一、官公署、公共團體ニ於テ使用セムトスルトキ

二、市長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ

第三條　舊中區役所建物ヲ使用セムトスルモノハ使用ノ目的、使用場所使用期間若ハ日時及施設ノ要領ヲ具シ市長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第四條　貸付期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　舊中區役所建物ヲ貸付スル場合ニ於テハ貸付料ヲ徵收ス

第六條　貸付料及其ノ納付期日ハ貸付スヘキ建物ノ位置、構造、坪數、使用期間及使用方法等ヲ斟酌シ市長之ヲ定ム

第七條　使用ニ係ル借受建物ノ毀損若ハ滅失ハ其ノ何人ノ所爲ニ因リタルヲ問ハス借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ但シ不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ賠償額及賠償方法ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第八條　借受人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、借受建物ヲ毀損若ハ滅失セサルコト

二、使用ヲ終リタルトキハ之ヲ原狀ニ回復シテ返還スルコト

三、其ノ他市長ノ指示スル事項

第九條　借受人借受建物ノ原形變更ヲ爲サムトスルトキハ市長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ變更シタル建物ハ借受人返還ノ際之ヲ原形ニ回復スヘシ但シ建物ノ永久ノ利益ト爲ルヘキモノニシテ特ニ市長ニ於テ原形ニ回復スルノ要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　借受人ハ舊中區役所建物ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ何時ニテモ市長ハ使用ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條　使用許可ヲ取消シタル場合ニ於テ未納ノ貸付料ハ直ニ之ヲ徵收シ既納ノ貸付料ハ之ヲ還付セス但シ使用許可取消ノ場合ニ於テ酌量スヘキ特別ノ事情アリト認ムルトキハ市長ハ既納ノ貸付料ノ一部又ハ全部ヲ還付スルコトヲ得

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ貸付料ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得

一、不可抗力ニ因リ建物ヲ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキ

二、市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキ

第十五類　市有財產及營造

第十六類　請負及契約

喞筒室揚水電力供給契約ノ件

大正三年一月十四日契約　大正十三年五月十六日一部變更
同十二年三月三日一部變更　大正十五年六月十四日一部變更

電力供給契約書

名古屋市長ハ東邦電力株式會社ヨリ名古屋市東區鍋屋上野町地内名古屋市上水道濾過池構内喞筒室ニ電力ヲ供給セシムルニ付東邦電力株式會社代表者ト契約スルコト左ノ如シ

第一條　東邦電力株式會社ハ本契約ニ依リ名古屋市上水道事業ニ要スル電力ヲ其所要ニ從ヒ名古屋市ニ供給スルモノトス

第二條　電力ノ送電線路ハ二回線トシ二ケ所ノ配電所或ハ發電所ヨリ直接ニ名古屋市上水道濾過池構内喞筒室ニ至リ豫定ノ電力ヲ供給スルモノトス

第三條　送電線路ハ會社ニ於テ其經過線路圖面及設計書ヲ作リ名古屋長ノ承認ヲ經之ヲ施設スルモノトス但シ其費用ハ會社ノ負擔トス

第四條　送電線路ハ左ノ設備條件ヲ具備スルモノトス

一、送電線路ハ線共一全負荷ニ於テ參約六百馬力ニ相當スル電力ヲ供給スルニ足ルモノトシ濾過池構内喞筒室變壓器ニ至ル迄ニ於ケル電壓三千「ボルト」ナルモ變壓器經過後ノ電壓ハ二千「ボルト」ヲ保チ常ニ該電壓以下ニ降ラシメサルモノトス

二、送電線路ハ成ル可ク支線ヲ出サヽルモノトス若シ支線ヲ出ス場合ハ相當設備ヲナシ火災ノ際ハ支線ヲ遮斷シ濾過池構内喞筒室ヘノ送電ヲ阻止スルコトナカラシムルモノトス

第十六類　請負及契約

第五條　名古屋市ト會社トノ送電ニ關スル責任分界點ハ濾過池構内喞筒室内ノ變壓器ト受電盤トノ間ニ於ケル名古屋市設備ノ「ザスコンネクチングスキッチ」トス但シ本條送電責任ノ分界點ニ關スル規定ハ次條ニ依ル所有權ノ所屬ニ影響セサルモノトス

第五條ノ二　名古屋市ト會社トノ電氣工作物ニ對スル所有權ノ所屬ハ濾過池構内喞筒室引込電柱上ノ開閉器ニ至ル迄ノ工作物及第四條ノ變壓器（第六號第一項第三號ノ單相單捲變壓器十五「キヒヴオルトアムペア」四個ヲ除ク）ハ會社ノ所有トシ爾餘ノ工作物ハ名古屋市ノ所有トス

前項工作物ニ對スル一切ノ設備並維持修繕其他ノ費用負擔ハ各所有權ノ歸屬ニ從フモノトス

第六條　供給スヘキ電力ハ晝夜間ヲ通シ常用最小約百馬力ヨリ常用最大約六百馬力ニ達スルモノトス但シ電力ヲ受クヘキ市ノ設備ニ屬スル電動機及變壓器ノ種類員數ハ左ノ通トス

三相交流誘導電動機	二千「ボルト」百馬力	貳臺
三相交流誘導電動機	二千「ボルト」二百馬力	參臺
單相單捲變壓器	十五「キロヴオルトアムペア」	四個
電燈用單相交流變壓器	五「キロヴオルトアムペア」	貳個

第七條　電力使用料ハ送電ノ申込ヲナシタル濾過池構内喞筒室ニ於ケル電動機ノ記銘馬力數ニ依リ一馬力一ヶ月實收定額五圓ノ割合ヲ以テ計算シ翌月每ニ於テ之ヲ支拂フ但シ會社カ電力ヲ供給セサルトキハ理由ノ如何ニ不拘日割計算トス

電燈料金ハ明治四十一年四月二十五日報償契約書第十條ニ依リ支拂フ

モノトス

第八條　市ノ設備スル電氣機械器具ノ施設方法ニ對シ會社カ自己ノ電氣的保安ニ必要ナル相當設備ヲ要スルトキハ市ニ其設備ヲ請求スルコトヲ得

第九條　火災其他天災ニ因リ常用送電線又ハ配電所發電所ニ故障ヲ生シ送電シ得サルカ若クハ一時停電ノ止ムヲ得サルコトアルトキハ會社ハ相當設備ニ據リ他ノ送電線路又ハ　電所發電所ヨリ安全ニ第四條第一號ノ送電ヲナスモノトス

第十條　會社カ電力ヲ供給セス又ハ送電遲滯ノ爲メ市ノ水道事業ノ効用ヲ缺クニ至ラシメタルトキハ市ハ認定ニ依リ一回毎ニ貳百五拾圓以上壹千圓以内ノ過意金ヲ會社ヨリ徵收ス但シ正當ノ理由アリト認メタルトキハ過意金ヲ減免スルコトアルヘシ

過意金ハ名古屋市長ノ告知ニ依リ期日以内ニ納付スルモノトス

第十一條　本契約ハ大正二十一年四月二十四日ヲ以テ滿了スルモノトス但シ市ノ都合ニ依リ引續キ送電ノ必要アルトキハ之ヲ更新スルコトアルヘシ

契約期間中ト雖モ市ハ都合ニ依リ本契約ヲ解除スルコトヲ得但シ給水ヲ開始シタル日ヨリ十箇年ヲ經過セサル以前ニ於テ市カ解約ヲ爲サントスルトキハ會社カ送電ニ要シタル設備費ニ限リ市ハ其費額ヲ辨償スルコトヲ要ス

第十二條　名古屋市ハ會社ノ電力供給規則中本契約書ノ主旨ニ反セサル部分ノ適用ヲ承認シ會社ハ本契約條項ノ外市ノ入札請負規則ノ適用ヲ承認スルモノトス

材料檢査所電力供給契約ノ件

契約書

一、電力　貳馬力

右供給ニ付名古屋市長佐藤孝三郎ト供給人名古屋電燈株式會社取締役社長福澤桃介トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　名古屋電燈株式會社ハ本契約ニ依リ名古屋市水道課古渡派出所構内器具機械修繕工場工事用貳馬力交流電動機壹臺ニ要スル電力ヲ晝間供給スルモノトス

第二條　供給物ノ供給期間ハ大正九年八月一日ヨリ大正十年三月三十一日迄向フ八箇月間トス但シ市ノ都合ニ依リ契約期間ヲ變更シ又ハ本契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第三條　每月使用シタル定額電力料金拾五圓ハ每月之ヲ會社ニ支拂フモノトス但シ會社カ一般ニ電力料金ヲ改正シタル時ハ本條料金ハ改正料金ニ依リ計算スルモノトス

第四條　天災其ノ他ノ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ依リ定例休電日ヲ除キ壹日以上運轉送電ノ停止ヲナス場合ハ會社ハ其停止日數ニ對スル電力料ヲ日割ヲ以テ減額スルモノトス

第五條　本契約ニ規定ナキ事項ニ關シテハ會社ノ動力營業案内ニ依ルモノトス

右契約ヲ確保スル爲メ正本貳通ヲ作リ各壹通ヲ所持スルモノトス

大正九年七月三十一日　名古屋市長　佐藤孝三郎

名古屋電燈株式會社

取締役社長　福澤桃介

契約繼續書

名古屋市水道課向田町材料檢査所構内修繕工場用電力貳馬力ニ關スル大正十二年四月一日附電力需給契約書ハ本年三月三十一日ヲ以テ期限滿了ノ處更ニ大正十六年三月三十一日ヲ期限トシ現契約ヲ繼續ス

右契約繼續ノ證トシテ本書貳通ヲ作成シ各壹通ヲ所持ス

大正十五年三月三十一日

名古屋市長　田坂千助

名古屋市中區新柳町六丁目四番地

東邦電力株式會社名古屋支店

常務取締役　久留島政治

物ノ供給契約書準則

大正四年四月二十三日　達第十三號

契約書

一　何々（供給物ノ名稱）

第十六類　請負及契約

右供給ニ付名古屋市長ト供給人某トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　本件ノ契約價格ハ金何程也トス

第二條　供給人ハ契約保證金何圓也ヲ左ノ通現金及有價證券ヲ以テ市ニ提供ス

一現金何圓也

一何々（債券名）額面何圓也

第三條　供給物ハ大正何年何月何日ヨリ同何年何月何日ニ至ル間本契約書ニ添付スル工程書ニ從ヒ供給スルモノトス

第四條　供給物ハ大正何年何月何日（名古屋市公告第何號公告ニ依リ）名古屋市長ノ提示セル文書圖面標本ニ據リ市長ノ任命シタル檢査員ノ檢査ヲ受ケ供給スルモノトス

供給人ノ契約書並市長ノ提示シタル文書、圖面等ニ明示セサル事項ト雖モ供給上必要ニシテ欠クヘカラサル作業ハ契約價格ヲ變更スルコトナク當然施行ノ義務アルモノトス

第五條　供給人又ハ其代理人ハ常ニ供給場所ニアリテ供給ニ關スル事務ヲ管理スヘシ但シ代理人ハ豫メ供給人ヨリ其住所氏名並ニ權限ヲ具シ市長ノ承認ヲ受クヘシ其代理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

市長ハ前項ノ代理人ヲ承認セサルコトアルヘシ

第六條　供給物ヲ供給場所ニ搬入シタルトキハ檢査員ヲ經テ市長ニ通告スヘシ

前項ノ通告アリタルトキハ市長ハ檢査員ヲシテ期日ヲ定メ檢査若クハ試驗ヲ行ハシメ契約ニ定メタル事項ニ適合セリト認メタルトキハ之ヲ受授シ其代價ヲ支拂フモノトス但シ供給人ハ供給物ノ既濟部分何分ノ

第十六類　請負及契約

一以上ニ達スル毎ニ代價ノ内拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於ケル代價ハ總設計價格ヲ以テ總契約價格ヲ除シ之ニ既濟部分ニ對スル設計價格ヲ乘シタル金額トス

第七條　前項ノ檢查若クハ試驗ニ必要アリト認メタルトキハ市長ハ供給物ノ一部ヲ使用若クハ加工シ加工物ヲ分析シ其他種々ノ方法ヲ用ヒ精密ナル檢查若クハ試驗ヲ行フコトアルヘシ

一前項ノ場合ニ於テ市長ハ供給物ノ總量ノ一部若クハ全部ヲ數口ニ區分シ各口ノ一部ヲ檢查又ハ試驗シ其成績ニ依リ總量又ハ各口總量ノ適否ヲ判定スルコトヲ得

第八條　檢查又ハ試驗ノ結果契約ニ定メタル事項ニ適合セスト認メタルトキハ市長ハ期日ヲ定メ供給物ノ引換ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ供給人ノ請求アルトキハ市長ハ契約價格ヲ減殺シ供給物ノ引換ニ代ヘシムルコトアルヘシ

第九條　市長ハ任意ニ供給物ノ數量若クハ供給期限ヲ變更シ又ハ契約ノ履行ヲ中止シ若クハ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ニ依リ數量ヲ變更シタルトキハ總設計價格ヲ以テ總契約價格ヲ除シ之ニ變更設計價格ヲ乘シテ得タル金額ヲ變更契約價格トシ其契約保證金ハ變更契約價格ニ依リ增減ス

第一項ニ依リ變更又ハ中止シタルトキハ供給人ハ指定期間内ニ承諾書若クハ功程書ヲ提出スルモノトス

第一項ニ依ル中止日數カ全期契約期間ノ三分ノ二以上ニ至ルモ中止解除トナラサルトキハ供給人ハ契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得但シ一部中止ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十條　天災、地變、戰亂、暴動、强風、大雨、同盟罷工其他一般ニ豆ル不可抗力ノ障碍ニ因リ契約ノ履行不可能トナリタルトキハ市長ノ認定スル期間之ヲ中斷ス

供給人ハ天候ノ不良其他通常ノ障害ヲ理由トシテ契約期間ノ伸長ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條　契約解除又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テハ供給場所ニ搬入シアル物ハ第六條乃至第八條ノ例ニ依リ檢查若クハ試驗ヲ行ヒ契約ニ定メタル事項ニ適合セリト認メタルモノニ限リ其代價ヲ支拂フコトアルヘシ

前項ノ代價ハ總設計價格ヲ以テ總契約價格ヲ除シ之ニ供給ヲ了シタル物ノ設計價格ヲ乘シテ得タル金額トス

第十二條　檢查若クハ試驗ノ結果契約ニ定メタル事項ニ適合セスト認メタル物ハ供給人ハ市長ノ指定シタル期間内ニ之ヲ供給場所以外ニ搬出スルモノトス若シ供給人ニ於テ搬出セサルトキハ市長ハ供給人カ該物ニ對スル權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第十三條　供給物ノ受授前ニ生シタル損害ハ其原因如何ニ拘ラス總テ供給人ノ負擔トス供給ノ爲メ生シタル損害ノ補償ニ付テモ亦同シ

第十四條　保證金ハ左ノ場合ニ之ヲ還付ス

一、契約ニ基ク義務ヲ履行シ了リタルトキ

二、第九條及第十七條ニ依リ市長ニ於テ契約ヲ解除シタルトキ

第十五條　市長ハ物ノ供給ヲ了リタル後必要アリト認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ供給人ヲシテ供給物ノ瑕疵增保ノ契約ヲ爲サシメ其期間契約保證金ヲ留保スルコトヲ得但シ供給物ノ一部ヲ限リ契約ヲ爲シ

タルトキハ其價格ニ相當スル金額ヲ留保ス

契約保證金カ有價證券ナルトキハ市長ハ留保スヘキ金額以上ニ相當スル額ヲ留保シ又ハ留保スヘキ金額ニ相當スル現金ト引換シムルコトヲ得

第一項ノ期間内ニ生シ又ハ發見シタル一切ノ瑕疵ニ對シテハ第八條ヲ準用ス但シ市長ニ於テ其瑕疵ヲ供給人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ原因スト認メタルトキハ此限ニアラス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ催告ヲ用ヒス契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ何等ノ手續ヲ用ヒス契約保證金ヲ市ノ所得トシ尙ホ市ニ損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルモノトス

一　供給人ノ義務ニ屬スル事項ヲ契約書、功程書又ハ特ニ定メタル期間内ニ履行セス若クハ履行スルコト能ハスト認メタルトキ

二　供給人カ故意ニ供給物ヲ粗雜ニ爲シタリト認メタルトキ

三　供給物ノ檢查ニ當リ供給人カ檢查員ノ指揮ニ背キ又ハ其職務執行ヲ妨ケ又妨ケムトシ若クハ妨ケシメタリト認メタルトキ

四　供給人カ代理人、支配人、番頭、手代又ハ從業者トシテ使用スル者前二號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シ又ハ爲サムトシタリト認メタルトキ

五　入札又ハ契約締結ノトキ必要トシタル供給人ノ資格ニ欠缺ヲ生シ若クハ欠缺アリタルトキ

六　契約履行ノ爲メ入札及契約規程第十六條各號ノ一ニ該當スル者ヲ代理人若クハ使用人トシテ從事セシメタルトキ

七　供給人カ自己ノ都合ニ依リ契約解除ヲ請求シタルトキ

第十六類　請負及契約

八　前各號ノ外供給人ノ當然爲スヘキコトヲ爲サス爲スヘカラサルコトヲ爲シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ市長ハ供給人ト締結シタル他ノ未了ニ屬スル契約ヲ解除スルコトヲ得

第十七條　供給人他ノ工事、作業ノ請負又ハ物若クハ勞力ヲ供給スル競爭入札ノ落札人トナリタル場合ニ於テ契約ヲ締結セサルトキハ市長ハ本契約ヲ解除スルコトヲ得

供給人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ他ノ契約ヲ解除シタルトキ亦同シ

第十八條　契約期限經過ノ後ニ至リ供給ヲ了シタルトキハ市長ハ遲滯日數一日ニ付契約價格五百分ノ一ニ相當スル金額ヲ供給人ヨリ徵收ス

第十九條　本契約書ニ依リ市長又ハ檢查員ノ爲ス指示、認定處分ニ對シ供給人ハ之ヲ拒ミ又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得サルハ勿論其費用ヲ要スルモノハ總テ供給人ノ負擔トス

第二十條　本契約書及附屬ノ文書圖面等ニ關シ所見ヲ異ニスルトキハ供給人ハ市長ノ所見ニ從フモノトス

第二十一條　本契約書ニ依リ供給人ノ負擔スヘキ金額ハ契約保證金又ハ本契約書若クハ其他請負人ニ對スル市ノ債務ト相殺スルモノトス

第二十二條　本契約書ニ依リ保證金タル有價證券ノ處分ヲ要スルトキハ市長ハ任意ニ之ヲ賣却シ其代金ヲ以テ所要金額及賣却費用ニ充テ尙ホ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徵ス

第二十三條　前各條ニ據ルノ外供給人ハ名古屋市入札及契約規程ヲ遵守スル義務アルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本證二通ヲ製シ各壹通ヲ所持ス

工事契約書準則

大正四年四月二十三日
達第十三號

契約書

大正何年何月何日　名古屋市長　氏　名
住　所
供給人　氏　名

名古屋市何區何町何丁目ニ於テ名古屋市ノ起工ニ係ル何々工事ニ付名古屋市長ト請負人某トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　本工事ノ契約價格ハ金何程也トス

第二條　契約保證金何程（材料並器具機械保管保證金何程也ハ現金（何々公債證書額面何程也）ヲ以テ請負人ヨリ提供ス

第三條　本工事ハ大正何年何月何日着手シ本契約書ニ添付スル功程書ニ從ヒ大正何年何月何日迄ニ竣功スルモノトス

第四條　本工事ハ大正何年何月何日（名古屋市公告第何號公告ニ依リ）名古屋市長ノ提示セル文書圖面ニ據リ市長ノ任命シタル監督員ノ指揮監督ヲ受ケ施行スルモノトス

請負人ハ契約書並ニ市長ノ提示シタル文書圖面ニ記載セサル事項ト雖モ工作物ノ組織上ノ必要ニシテ欠クヘカラサルモノハ契約價格ヲ變更スルコトナク當然施行ノ義務アルモノトス

第五條　請負人又ハ其代理人ハ常ニ現場ニアリテ工事ノ施行ヲ管理スヘシ但シ代理人ハ豫メ請負人ヨリ其住所氏名並ニ權限ヲ具シ市長ノ承認ヲ受クヘシ其代理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條　工事ニ使用スヘキ物ハ別紙調書ニ記載スルモノヲ除ク外總テ請負人ノ負擔トス

前項ノ物ニ對シ請負人ハ善良ナル注意ヲ以テ保管ノ責ニ任スルモノトス

第七條　工事ニ使用スヘキ物及施行場所ハ其使用前又ハ施行前監督員ノ檢查若クハ試驗ヲ受クヘシ

調合又ハ加工ノ上使用スヘキ物ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ市長ハ使用物ノ總量ノ一部若クハ全部ヲ數口ニ區分シ各口ノ一部ヲ檢查又ハ試驗シ其成績ニ依リ總量又ハ各口總量ノ適否ヲ判定スルコトヲ得

第八條　請負人前條ノ檢查若クハ試驗ヲ經スシテ使用又ハ施工シタルトキハ其構造ノ全部若クハ一部ヲ解脫セシメ更ニ檢查若クハ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第九條　工事從業員左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタルトキハ監督員ハ請負人ニ其者ノ退場ヲ求ムルコトアルヘシ

一　怠惰ナルトキ
二　作業拙劣ナルトキ
三　他人ノ作業ヲ妨害シタルトキ
四　工事作業ヲ紊亂ニ爲シタルトキ
五　喧嘩口論ヲ爲シタルトキ
六　監督員ノ指揮ニ從ハス又ハ其職務執行ヲ妨ケタルトキ
七　前各號ノ外不都合ノ所爲アリタルトキ

第十條　市長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルト認メタルトキハ監督員ノ檢查若クハ試驗ヲ經タルトニ拘ラス隨時期間ヲ定メ材料ノ引換又ハ工作物ノ改造補修ヲ求メルコトアルヘシ

一　工作物ニ使用セル材料ヲ不良又ハ不適當ト認メタルトキ
二　工作物ノ作工カ契約ニ適當セスト認メタルトキ
三　工作物ノ組織作工ヲ拙劣又ハ粗雜ト認メタルトキ

第十一條　工事竣功シタルトキハ請負人ハ監督員ヲ經テ之ヲ市長ニ通告スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ市長ハ期日ヲ定メ檢查若クハ試驗ヲ行ヒ契約ニ定メル事項ニ適合セリト認メタルトキハ之ヲ受授シ其代價ヲ支拂フモノトス但シ請負人ハ工作物ノ既濟部分何分ノ一以上ニ達スル毎ニ代價ノ內拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於ケル代價ハ總設計價格ヲ以テ總契約價格ヲ除シ之ニ既濟部分ニ對スル設計價格ヲ乘シタル金額ノ十分ノ九以內トス

第十二條　前條ノ檢查若クハ試驗ニ必要アリト認メタルトキハ市長ハ工作物一部ノ構造ヲ解脫セシメ若クハ加工物ヲ分析シ又ハ其他ノ方法ヲ用ヒ精密ナル檢查若クハ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第十三條　檢查若クハ試驗ノ結果契約ニ定メタル事項ニ適當セスト認メタルトキハ市長ハ期日ヲ定メ工作物ノ改造又ハ補修ヲ求ムルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ請負人ノ請求アルトキハ市長ハ契約價格ヲ減殺シ改造補修ニ代ヘシムルコトアルヘシ

第十四條　市長ハ任意ニ工作物ノ設計若クハ竣功期限ヲ變更シ又ハ契約ノ履行ヲ中止シ若クハ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ニ依リ設計ヲ變更シタルトキハ總設計價格ヲ以テ總契約價格ヲ除シ之レニ變更設計價格ヲ乘シテ得タル金額ヲ變更契約價格トシ其契約保證金ハ變更契約價格ニ依リ增減ス

第一項ニ依ル變更又ハ中止シタルトキハ請負人ハ指定期間內ニ承諾書若クハ功程書ヲ提出スルモノトス

第一項ニ依ル中止日數カ全契約期間ノ三分ノ二以上ニ至ルモ中止解除トナラサルトキハ請負人ハ契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得但シ一部中止ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十五條　天災、地變、戰亂、暴動、强風、大雨、同盟罷工其他一般ニ亘ル不可抗力ノ障碍ニ因リ契約ノ履行不可能トナリタルトキハ市長ノ認定スル期間之ヲ中斷ス

請負人ハ天候ノ不良其他通常ノ障碍ヲ理由トシテ契約期離ノ伸長ヲ求ムルコトヲ得ス

第十六條　契約解除又ハ第十四條第一項ノ場合ニ於テハ工事ノ既濟部分及現場ニ搬入シアル物ハ第十一條乃至第十三條ノ例ニ依リ檢查若クハ試驗ヲ行ヒ契約ニ定メタル事項ニ適合セリト認メタルモノニ限リ其代價ヲ支拂フコトアルヘシ

前項ノ代價ハ設計價格ヲ以テ總契約價格ヲ除シ之レニ工事ノ既濟部分及現場ニ搬入シタル物ノ設計價格ヲ乘シテ得タル金額トス

第十七條　檢查若クハ試驗ノ結果契約ニ定メタル事項ニ適合セスト認メタル物ハ請負人ハ市長ノ指定シタル期間內ニ之ヲ工事場所以外ニ搬出スルモノトス若シ請負人ニ於テ搬出セサルトキハ市長ハ請負人カ該物ニ對スル權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第十八條　請負人ノ義務ニ屬スル事項ヲ契約書功程書又ハ特ニ定メタル期間内ニ履行セス若クハ履行スルコト能ハスト認メタルトキ

第十九條　工事物ノ受授前ニ生シタル損害ハ其原因ノ如何ニ拘ラス總テ請負人ノ負擔トス工事又ハ作業ノ爲メ生シタル損害ノ補償ニ付テモ亦同シ

第二十條　保證金ハ左ノ場合ニ之レヲ還付ス

一　契約ニ基ク義務ヲ履行シ了リタルトキ

二　第十四條及第二十三條ニ依リ市長ニ於テ契約ヲ解除シタルトキ

第二十一條　市長ハ工事竣功後必要アリト認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ請負人ヲシテ工作物ノ瑕疵擔保ノ契約ヲ爲サシメ其期間契約保證金ヲ留保スルコトヲ得但シ個々ニ分立シ得ヘキ工作物ヲ限リ契約ヲ爲シタルトキハ其價格ニ相當スル金額ヲ留保ス

契約保證金カ有價證券ナルトキハ市長ハ留保スヘキ金額以上ニ相當スル額ヲ留保シ又ハ留保スヘキ金額ニ相當スル現金ト引換シムルコトヲ得

第一項ノ期間内ニ生シ又ハ發見シタル一切ノ瑕疵ニ對シテハ第十三條ヲ準用ス但シ市長ニ於テ其瑕疵ヲ請負人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ原因スト認メタルトキハ此ノ限ニアラス

本條ニ依リ瑕疵擔保ヲ契約シタル場合ト雖モ擔保期間ノ滿了ニ依リ請負人ハ法定ノ擔保義務ヲ免ルヽコトヲ得ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ能告ヲ用ヒス此ノ契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ何等ノ手續ヲ用ヒス契約保證金ヲ市ノ所有トシ尚ホ市ニ損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルモノトス

一　請負人ノ義務ニ屬スル事項ヲ契約書功程書又ハ特ニ定メタル期間内ニ履行セス若クハ履行スルコト能ハスト認メタルトキ

二　請負人カ故意ニ工事作業若クハ物ヲ粗雜ニ爲シタリト認メタルトキ

三　工事作業ノ執行若クハ物ノ檢査監督ニ當リ請負人カ監督員ノ指揮ニ背キ又ハ其職務執行ヲ妨ケ又妨ケムトシ若クハ妨ケシメタリト認メタルトキ

四　請負人カ、代理人、支配人、番頭、手代又ハ從業者トシテ使用スル者前二號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シ又ハ爲サムトシタリト認メタルトキ

五　入札又ハ契約締結ノトキ必要トシタル請負人ノ資格ニ欠缺ヲ生シ若クハ欠缺アリタルトキ

六　契約履行ノ爲メ入札及契約規程第十六條各號ノ一ニ該當スル者ヲ代理人若クハ使用人トシテ從事セシメタルトキ

七　請負人カ自己ノ都合ニ依リ契約解除ヲ請求シタルトキ

八　前各號ノ外請負人ノ當然爲スヘキコトヲ爲サス若クハ爲スヘカラサルコトヲ爲シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ市長ハ請負人ト締結シタル他ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條　請負人他ノ工事作業ノ請負又ハ物若クハ勞力ヲ供給スル競爭入札ノ上落札人トナリタル場合ニ於テ契約ヲ締結セサルトキハ市長ハ本契約ヲ解除スルコトヲ得請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リテ他ノ契約ヲ解除シタルトキ亦同シ

第二十四條　契約期限經過ノ後ニ至リ工事竣功シタルトキハ市長ハ遲滯日數一日ニ付契約價格五百分ノ一ニ相當スル金額ヲ請負人ヨリ徵收ス

第二十五條　第六條ニ依リ請負人ノ保管スヘキ物ヲ毀損亡失又ハ粗雜ニ爲シタリト認メタルトキハ市長ハ何等ノ手續ヲ用ヒス保管保證金ヲ以テ其損失ノ賠償ニ充テ尚ホ不足スルトキハ請負人ヨリ徵收ス

第二十六條　本契約書ニ依リ市長又ハ監督員ノ爲ス指示認定處分ニ對シ請負人ハ之ヲ担ミ又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得サルハ勿論其費用ヲ要スルモノハ總テ請負人ノ負擔トス

第二十七條　本契約書及付屬ノ文書圖面等ニ關シ所見ノ異ルトキハ請負人ハ市長ノ所見ニ從フモノトス

第二十八條　本契約書ニ依リ請負人ノ負擔スヘキ金額ハ契約保證金、保管保證金又ハ本契約書若クハ其請負人ニ對スル市ノ債務ト相殺スルモノトス

第二十九條　本契約書ニ依リ保證金タル有價證券ノ處分ヲ要スルトキハ市長ハ任意ニ之ヲ賣却シ其代金ヲ以テ所要金額及賣却費用ニ充テ尚ホ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ徵收ス

第三十條　前各條ニ揭ルノ外請負人ハ名古屋市入札及契約規程ヲ遵守スル義務アルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ製シ各壹通ヲ所持ス

大正何年何月何日

住所　請負人　氏名　㊞

名古屋市長　氏名　㊞

第十六類　請負及契約

英貨公債引受契約書

假契約書

名古屋市ヲ甲トシ「セールフレザー株式會社」ヲ乙トシ名古屋市ノ發行スル公債引受ニ關シ左ノ事項ヲ契約ス

第一條　甲ハ額面八十萬磅ノ英貨公債ヲ發行シ乙ハ其ノ全額引受クルモノトス

第二條　本公債ノ利子ハ年五分トシ元本拂戻ノ月マテ毎年三月九月ノ兩度既往六ケ月分ヲ英國倫敦ニ於テ支拂フモノトス

第三條　本公債ハ明治四十九年迄据置キ同五十年ヨリ同七十七年ニ至ル迄ノ間ニ於テ毎年三月英貨參萬磅ヲ償還抽籤ニ依リ漸次償還スルモノトス但シ甲ノ都合ニ依リ据置年間ヲ經タル後ハ六ケ月前豫告シテ全部ノ償還ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第四條　本公債ノ引受價格ノ公債額面英貨百磅ニ付九拾磅ノ割合トシテ政府ノ許可ヲ乙ニ通告シタル翌日ヨリ起算シ百貳拾日以内ニ倫敦ニ於テ全部ノ支拂ヲ爲スモノトス但シ百貳拾日以内ト雖モ乙ノ都合ニ依リ一部分ツヽノ支拂ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ支拂アリタル部分ニ對シ其當日ヨリ第二條ノ利子ヲ附シ此利子ハ前項全額拂込ノ際之ヲ差引計算スルモノトス

第五條　本公債ノ元利金ハ水道收入市稅及精進川河岸地並ニ公園内貸地收入ヲ以テ優先ニ支辨セラルヽモノトス

第六條　甲ハ本公債ノ現金ヲ受取タルトキハ遲ニ從來ノ公債ハ之ヲ償還スルモノトス

第七條　甲ハ倫敦市「ラザード、ブラザー會社」ヲ代理人トシテ本公債元本ノ受領及ヒ元利金ノ支拂ヲ爲サシムヘキモノトス其手數料ハ元本受領ニ付キ千分ノ壹半利子支拂ニ付キ千分ノ壹半元金拂戻ニ付千分ノ壹ヲ甲ニ於テ支辨スヘシ乙ハ「ラザード、ブラザー會社」ノ代理人トシテ之ヲ約諾シ其委任狀ヲ六拾日以內ニ甲ニ交付スヘシ

第八條　甲ハ第四條ニ依リ公債元本全額ノ支拂ヲ受ケタルトキ同時ニ乙ニ公債證書ヲ交付スヘク其發行ニ要スル印紙稅及ヒ印刷費ハ甲ノ負擔トス

第九條　甲ハ速ニ本公債ノ發行ニ必要ナル一切ノ手續ヲ完了スヘシ

第十條　本契約ニ付キ市參事會及市會ノ協贊ヲ得ルニ能ハサルトキ又ハ政府ノ許可ヲ得ル能ハサルトキ若クハ英國資本家ノ同意ヲ得サルトキハ其效力ヲ失フモノトス

第十一條　本契約ニ洩レタル細目ハ政府ノ許可ヲ得タル後別ニ協定シテ覺書ヲ作成シ互ニ之ヲ交換スヘシ

本契約ヲ證スル爲メ正本貳通ヲ製シ各當事者其壹通ヲ保有スルモノトス

明治四十二年五月二日

大日本名古屋市參事會

名古屋市長　加藤重三郎

追加契約書

名古屋市（甲）ト「セール、フレザー株式會社」（乙）トノ間ニ明治四十二年五月二日締結シタル名古屋市英貨公債發行引受ケニ關スル假契約ハ其儘之ヲ本契約トシ更ニ左ノ事項ヲ追加契約ス

第一條　利子支拂期日ハ每年三月三十一日同九月三十日トス

第二條　甲ハ此公債元利金支拂ノ基金トシテ元利金支拂期日拾日前倫敦ラザード、ブラザース會社ニ到着ノ日取ヲ以テ送金スヘシ

第三條　甲ハ倫敦ラザード、ブラザース會社ヲ指名シテ左ノ事務ヲ取扱ハシム

一　部分償還ノ爲メ抽籤ヲ行フ事

二　公債元金支拂ノ事

第四條　支拂濟利子及償還濟證書ヲ倫敦ヨリ還付スルニ要スル運賃ハ甲ノ負擔トス

第五條　ラザード、ブラザース會社ハ速ニ公債募集金ヲ橫濱正金銀行倫敦支店若クハ香港上海銀行倫敦支店ニ預ケ入レ又ハ同會社ノ都合ニ依リ乙ニ其代理人トシテ東京第十五銀行ニ預ケ入ルヘシ其金額ハ預ケ入レノ日ニ於ケル橫濱正金銀行倫敦宛電信爲替相場ヲ以テ日本通貨ニ換算シ別紙書式ノ領收證ニ依リ現金ノ授受ヲナスヘシ

第六條　未タ償還又ハ仕拂期ニ至ラサル元利金ヲ支拂ヒ其他ラザード、ブラザース會社ノ過失ニ依リ第二條ノ基金ニ缺損ヲ生シタルトキハ同會社ノ責任ニ歸スルモノトス

第七條　ラザード、ブラザース會社ハ公債元利ノ支拂時效期間ヲ經過シタルモノアルトキハ其ノ支拂基金ヲ甲ニ返戻スヘシ

第八條　公債證書及其利札ノ樣式ハ甲乙協議ノ上之ヲ決定シ印刷ヲ乙ニ委託スヘシ

右契約ノ證トシテ正本貳通ヲ作リ甲乙各之ヲ領有スル者也

明治四十二年五月十日

名古屋市長　加藤重三郎

（領收證書式略ス）

屎尿汲取契約ノ件

大正十一年二月二十七日　第三十五號議決

本市內ニ於ケル屎尿ハ別紙條件ニ依リ無償汲取契約ヲ隨意締結スルコトヲ得

屎尿汲取契約條件

一、契約ノ相手方ハ郡市町村農會其他ノ團體タルコト

二、契約保證金トシテ相當金額ヲ納付セシムルコト

三、汲取ヲ怠リタル場合ハ市ニ於テ代執行ヲ爲シ其ノ費用ヲ負擔セシムルコト

四、汲取掃除ヲ完全ニ勵行セシムルコト

五、市ノ都合ニ依リ區域ノ增減及契約解除ヲ爲シ得ルコト

一廉二十圓以內ノ工事ニ關スル件

昭和八年五月二十日　達第九號

學校圖書館各廳其ノ他市營造物所在ノ場所ニ於ケル常時修繕ハ一廉二十圓以內ノ工事ニ限リ豫算配付額ノ範圍內ニ於テ其ノ長若クハ主管部長ニ於テ伺出ヲ要セス執行スルコトヲ得但シ建築床面積ニ異動ヲ生スル工事ハ此ノ限ニ在ラス

第十七頁 縣

市徽章

明治四十年十月二十日
告示第九十三號

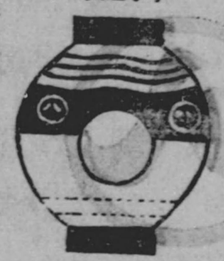
本市ノ徽章ヲ左ノ通リ相定ム

市長以下提灯徽章

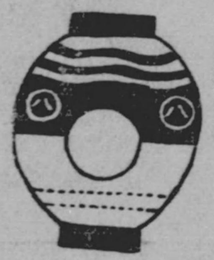
大正二年二月二十四日告示第十六號

市長

助役、收入役



區長、技師、視學、掃除監督長、主事、水道技師長、水道技師、水道事務長、常設委員



市書記、技長、區書記、掃除監督、水道書記、水道技手

掃除巡視、水道書記補、水道技手補

圖中

一、上半部ノ彩色ハ總テ赤色

一、㊇徽章ハ白色直徑一寸五分ノモノ三箇トス

一、中央〇ノ中ハ所有者ノ紋章ニシテ黑色直徑三寸以内ノモノ三箇トス

一、下部ノ點線ハ字繋キ又ハ記シ繋キ等各自適宜

市歌

明治四十三年二月二十八日告示第四號

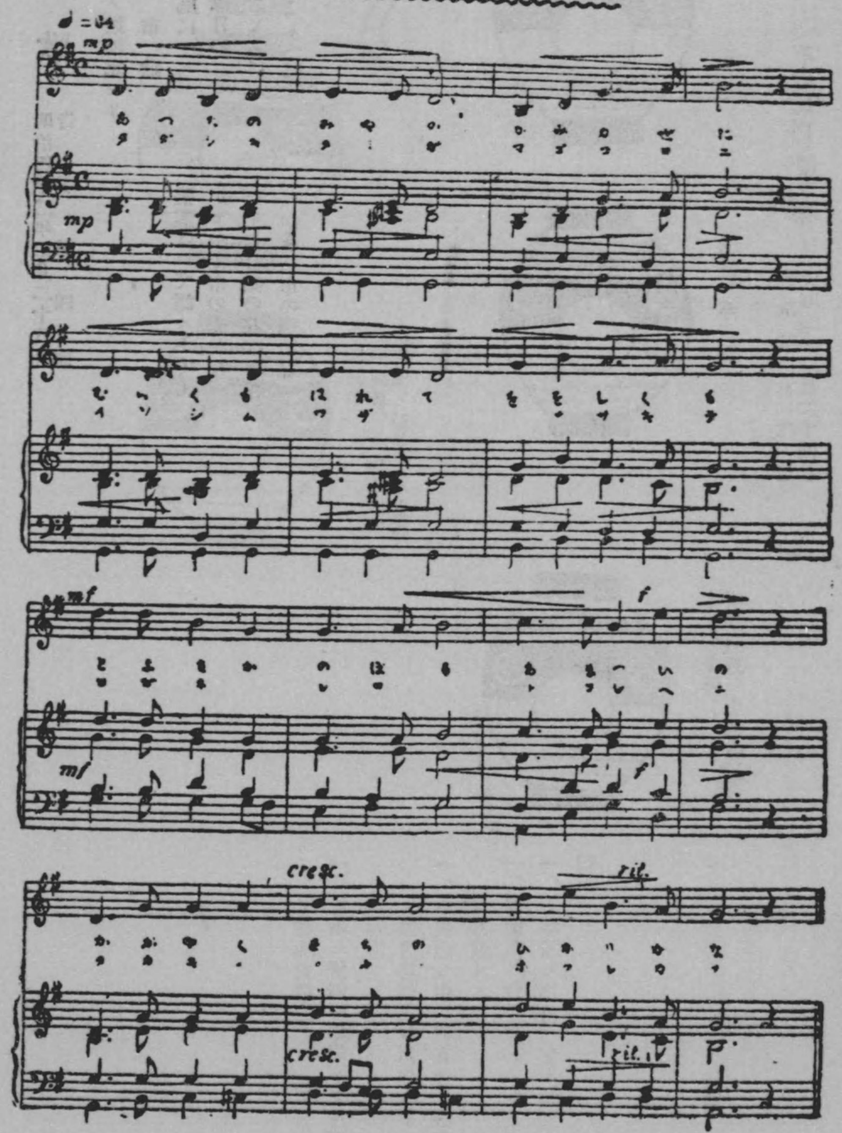
這般本市々歌左ノ通制定セリ

名古屋市歌

熱田の宮の神風に
豊榮のぼる天津日の
正しき民がまごゝろに
黄金の城のそこしへに

濃雲はれて雄々しくも
かゞやく市の光かな
いそしむ業の花咲きて
たかきは市の譽かな

名古屋市歌



區設置ノ件

明治四十一年三月十二日
告示第十八號
（昭和九年十二月三十一日現在）

市制第六十條ニ依リ事務處辨ノ爲メ許可ヲ得タルヲ以テ明治四十一年四月一日ヨリ本市ヲ四區ニ分チ各區ニ區役所ヲ置ク其區ノ名稱位置及區域左ノ如シ

愛知縣名古屋市各區管轄區域表

區ノ名稱	區役所ノ位置	管轄町名
東區	名古屋市東區布池町三十二番地ノ百三	飯田、石神堂、伊勢、板屋、平田、富澤、研屋、舍人主税、長久寺、八軒屋、針屋、西二葉、西新（一丁目）西魚、布池、大曾根、大津、小川、往還、上竪杉ノ、萱屋、蒲燒、神樂、横代官、芳野、竪代官、高岳、寶添地、筒井、鶴重、中市場、長塀、七小、鍋屋、裏筒井、梅枝、車道東、車道（自一丁目至七丁目）、黒門、山口、前ノ、松山、富士塚、武平、小市場、吳服、石古出來、手代、赤塚、相生、朝日、安房、葵、坂上、櫻、京、宮、東白壁、南外堀（自七丁目至十三丁目）、下竪杉ノ、新出來、白壁、城番、清水、橦木、東片端東矢場、東芳野、東本重、東二葉、東魚、東主税、東門前、東橦木、東新、東櫻、東袋、東新道、東外堀、七間、百人、久屋、森下、闕鍛冶、水筒先、駿河、杉ノ、久屋（自一丁目至八丁目）、七曲（自一丁目至二丁目）、辰己、田代、鍋屋上野、北千種、千種、杉村、柳原、東大曾根、上飯田、下飯田、山田、矢田、大幸、山田東、山田西、山田北、東水切、杉榮、東生駒、生駒、城東、東長田、水切、東大杉、大杉、長田、花田德川、高松、赤萩、船附、眞畔、龍ノ口、幢旛、木津根、垣戸、瑠璃光、尾上、織部、若葉通、紅雲、石園芦邊、彩紅橋通、御成通、八龍、指金、報德、平安通古徑、豆園、若水、振甫、中杉、元柳原、八坪、西杉金作、萩岡、仁座、四谷通、不老、東杉
西區	名古屋市西區南外堀町一丁目一番地ノ二十	伊倉、和泉、井桁、六句、花ノ木、庭、堀詰、奉公人堀内、泥、千歳、茶屋、橋詰、馬喰、西萬、西管原、西柳、大船、小田原、押切、桶屋、上仲、上園、上淺間、上長者、紙漉、替地、臺所、俵、園井、外田、長島、那古野、裏壚、上畠、車、桑名、山神、藪下、八坂、柳、前ノ川、伏見、深井、吹出、船入、小鳥、小舟、五條、五平藏、米屋、江中、江川、江川端、江川横、江戸屋、枝郷、傳馬、手木、明道、澤井、早苗、北驛、北野、北鷹匠、菊井、南鷹匠、南驛、南押切、下園、下長者、下淺間、新道、新屋敷、白塀、島田、壚、志摩、東柳、東萬、南外堀（自一丁目至六丁目）、

西區	中區
木挽、本重、樋之口、平野、比米、泥江、淺間、貸寄屋、隈田、袋、皆戸、菅原、花車、上笹島、材木、島崎、廣井ノ中ノ(一丁目)、堅三蔵(一丁目)、長畝、櫻木、西藪下、江西、兒玉、北押切、上名古屋、西志賀志賀、田幡、東批杷島、批杷島、日比津、榮生、則武中村、下中村、稻葉地、堀端、羽衣、大門、賑、壽、日吉、西菊井、御寺本町通、志賀本通、猿投、神明、大藏、大閤通、中村本、天神山、淨心、葭原、菊井通菊元、香取、鳥居西通、靖國、草薙、鳥居通、東宿、宿跡、本陣通、菊水、榮生、大日、佐吉前、千原、西山、松西、松前、千田、亀入、上更通、繰場、大道、藤ノ宮、米田、桃ノ木、本塚、牧野、米野、高須賀、馬喰、新富、枇杷島通、白菊、本郷、琵琶里、小柳、稻葉地本通、稻花	伊勢山、岩井、入江、花園、西角、富岡、常盤、旅籠白山、西洲崎、西脇、西瓦、大阪、菅羽、若松、上堀川、上前津、上日置、葛、金澤、水主、春日、横三ツ蔵、竪三ツ蔵(二丁目三丁目)、橘、蘇鉄、月見、根津彌宜、中ノ(二丁目三丁目)、流川、七曲(三丁目)、納屋、裏門前、梅園、榛川、八百屋、露谷、役割、矢場正木、前塚、松重、不二見、古郷、古渡、小林、蛭子水樂、榎、鐵砲、天王、天王崎、吾妻、餉屋、榮、北

中區
名古屋市中區新榮町一丁目七八番地

綱宜、宮出、三輪、南辰巳、南伏見、南鍛冶屋、南新(二丁目三丁目)、南吳服、南桑名、南大津、南長島、南長畝、南園、南瓦、南伊勢、下前津、下堀川、下奥田、下茶屋、下日置、新柳、白川、城代、下笹島、下廣井、東瓦、東洲崎、東田、東橘、東角、日出、東古渡、門前、末廣、住吉、新榮、南小川、車道(八丁目)南武平、西新(二丁目)、南久屋(自一丁目至三丁目)、笹島、内屋敷、池田、奥田、鶴舞、松枝、西松枝、大池、板橋、西境、養老、老松、宮前、西塚、塚越、千早、東陽、西川端、向田、丸田、東川端、大井、元田古澤、東雲、松島、葭田、流、松元、三田、葉場、長岡、百白山、牧野、米野、南平野、西日置、北一色、露橋、御器所、廣路、篠原、萬、小本、岩塚、島森、高須賀、長筬、八田、四女子、米濱、出口、水金、丸屋、廣見、池端、櫻山、大和、下構、陶生、東出、西宮、向、横塚、前並、廣川、富船、清船、花池、柳瀬八景、長草、村田、圓上、瀧子通、都島、天池、御所洲原、櫻井、幸樂、島西、山脇、狹間、東郊通、高辻通、小針、吸場、鎌田、白金、福江、堀江、江越、廣池、若狹、五軒家、隼人、汐見、上山、南山、檀溪通三池、舟戸、五月通、中京通、笈瀬、北一色、一本松七本松、擔付通、長池、戸田、藤成通、荒田、菊園、運河通、百船、九重、明石通、月島、福住、菊里、阿

南區	中區
名古屋市南區熱田東町字森後五一地ノ四	

由知通、御器所通、車田、小坂、吹上、曙、廣瀬、雪見、北山、鶴羽、小櫻、綠、東畑、紅梅、天神、臺、明月、松風、若柳、惠方、小栗通、木市、大清水、則武、下中村、柳堀、八事本、川名山、八雲、山里、樂園、宮東、妙見、高峰、山手通、廣住

熱田神戸、熱田内田、熱田須賀、熱田市場、熱田中瀨熱田新宮坂、熱田富江、熱田傳馬、熱田羽城、熱田大瀨子、熱田木兎、熱田白鳥、熱田田中、熱田旗屋、熱田西、熱田新尾頭、熱田尾頭、熱田東、熱田新田東組熱田前新田、千年、稻永新田、築地、東築地、鴨前、大江、彌富、瑞穗、呼續、横井、野田、豊田、鳴尾、星崎、本星崎、笠寺、中野新、西古渡、八熊、野立、東起、大蟹螺、高畑、荒子、中須、打出、中郷、中島新、法華、小碓、土古、當知、寛政、寶神、幡信、磯端入舟、稻荷、濱、西倉、寶來、海岸通、高砂、中川、眞砂、北倉、港本、南倉、元、千鳥、波寄、櫻田、中田、池内、澪下、洲雲、櫻見、昭和、西櫻、櫻本、彌生、白雲、扇田、若草、春日野、貝塚、霞、元櫻田、楠、見晴、船見、石場、富川、清川、福川、玉川、新川、金川、河口、福船、玉船、新船、金船、中川本、錦、屋敷、上通、中通、豊本通、蒲田、元祿、太郎、繰出、汐路、松月、石川、御萬、大殿、村上、田邊通、潮見

南區

須田、二野、牛巻、竹田、太田、御厩、亀城、雁道、船原、平郷、豆田、直來、寶田、春敲、大喜新、堀田通、明治、春山、密柑山、下山、師長、山下通、幸、佐野、鯨、中之島通、初日、陽明、松榮、春山、松下鶴見通、鳴濱、三吉、源兵衛、瑞穗通、中山、駒場、高田、北原、川澄、東榮、佐渡、外新、古新、入厩

市吏員及使丁過怠金徴收手續

明治二十五年八月十八日
參事會決議

一、市制第六十四條第五項ニヨリ市吏員及使丁ニ過怠金ノ處分相成タルトキ該處分書交付ノ日ヨリ十五日以内ニ納付セサルトキハ之ヲ督促シ尚完納セサルトキハ給料ヨリ控除シ其控除シタル金額ヲ市制第八十八條市收入ニ編入ス

印鑑屆出手續

大正四年五月一日ヨリ實行

第一條　印鑑屆ハ屆書ヲ用ヒ左ノ雛形ノ印鑑紙ヲ區役所ニ差出ス可シ

第二條　改印屆ハ印鑑紙ノ裏面ニ保證人ノ連署ヲ要ス但シ舊印存在スル場合ハ氏名ノ下ニ舊印押捺スルヲ以テ足ル

第三條　家族カ前二條ノ屆出ヲ爲スニハ印鑑紙ノ裏面ニ戸主ノ連署ヲ要ス但シ連署ヲ得ル事能ハサル時ハ其事由ヲ附記シ保證人ノ連署ヲ要ス

第四條　屆出人カ無能力者ナル時ハ法定代理人ノ連署ヲ要ス但シ連署ヲ

得ル事能ハサル時ハ前條届書ヲ適用ス

第五條　保證人ハ他家ノモノニシテ能力ヲ有シ且印鑑ノ届出アルモノタル事ヲ要ス但シ他管内ノモノヲシテ保證人タラシムル場合ハ其市區町村長ノ證明アル印鑑ヲ添付スル可シ

第六條　寄留者ノ印鑑ニ關スル届出ニ付テハ世帶主ヲ以テ戸主ト看做ス

印鑑紙雛形（用紙厚紙）

一寸

印鑑		
	○	本籍 寄留
年月日届出	戸主家族ノ別及氏名	
	年月日生	

（四寸）

區役所事務簡捷取扱事項

大正四年五月三日決裁

一、寄留ニ關スル届出
二、印鑑届
三、身元證明書
四、營業稅及納稅證明書

以上ハ攺メ一定ノ樣式ニ印刷シ置キ届出人ノ需ニ應シ之ヲ交付スルコト用紙交付ノ旨ハ可成受付口ニ表示シ置クコト

一、適齡届
二、入退學及轉校届
三、印鑑届
四、營業稅雜種稅ニ關スル届
五、地租ニ關スル届
六、家屋ニ關スル届
七、種痘猶豫願

以上ノ願届書ハ收受簿ニ登載セス書面ニ左記ノ攺形ニ依ル受付日付印ヲ押捺スルニ止ムルコト

名古屋市
4. 4. 26
西區役所

外徑　八分
中部　巾三分

一、諸證明願中從來副本ヲ徵シ來リシモノアリシモ爾後ハ必要ト認ムルトキハ吏員之ヲ作製シ又ハ其要領ヲ證明簿ニ登載シ願出人ヨリ徵セサルコト

昭和十年十一月廿七日印刷
昭和十年十一月三十日發行

編輯兼發行者　名古屋市役所
名古屋市中區下廣井町一丁目百三十三番地

印刷所　合資會社　長谷川活版所
電話西二七九番
名古屋市中區下廣井町一丁目百三十三番地

印刷人　大鐘陽吉

다5P1